令和７年度生

# SYLLABUS

履修の手引き

授　業　案　内

大垣市医師会看護専門学校

# 目　　次

Ⅰ．教育課程の考え方

1．教育理念・教育目的・教育目標　・・・・・・・・・・・・　1

2．主要概念の定義　・・・・・・・・・・・・　2

3．カリキュラムデザイン（構造図の考え方、図）　・・・・・　3

4．教育目的・教育目標と各科目との関連　・・・・・・・・・　5

5．年次別目標　・・・・・・・・・・・・　6

6．教育課程編成における基本的な考え方　・・・・・・・・・　7

7．教育課程の考え方　・・・・・・・・・・・・　8

8．教育課程および教育計画　・・・・・・・・・・・・　16

9．教科外活動　・・・・・・・・・・・・　18

10．教育課程進度表　・・・・・・・・・・・・　19

Ⅱ．教育内容

1．基礎分野　・・・・・・・・・・・・　23

2．専門基礎分野　・・・・・・・・・・・・　35

3．専門分野　・・・・・・・・・・・・　55

# Ⅰ．教育課程の考え方

# Ⅰ．教育課程の考え方

## １．教育理念・教育目的・教育目標

### １）教育理念

命の尊厳・人間の尊重を基盤とした倫理観と豊かな人間性を養い、科学的思考に基づく看護実践能力と共に、多様化する社会のニーズに対応し、主体的に考え行動できる能力を備えた看護専門職を育成する。

### ２）教育目的

看護の専門職として必要な基礎的知識・技術を修得させ、倫理に基づく看護実践能力を有した地域に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。

### ３）教育目標

1．生命の尊厳と基本的人権をもとに、人の痛み・苦しみを共感し、個人の信念や価値観を尊重できる感性豊かな人間性を養う。

2．生活者としての人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。

3．人々の健康と生活は、人間を取り巻くすべての環境と相互作用をきたしていることを理解できる能力を養う。

4．倫理的判断に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。

5．あらゆる健康状態や生活の場に応じた看護を、科学的思考に基づいて臨床判断し、実践できる基礎的能力を養う。

6．保健・医療・福祉システムにおける看護職としての役割と責任を理解し、チームの一員として多職種間で連携・協働できる基礎的能力を養う。

7．社会が求める看護について認識をもち、主体的な学びと自らを研鑽し続ける態度を養う。

## 2．主要概念の定義

人間　1　人間とは、身体的・精神的・社会的側面をもった統一体である。
2　人間は、個人として尊重され、基本的人権をもつ。
3　人間は、基本的欲求を持っている。それは、普遍的でありながら、それぞれに特有で個別のものである。
4　人間は、意思を持つ自立的存在である。
5　人間は、生活者として環境と相互作用し合い、身体的・精神的・社会的に適応しようと変化し、成長・発達し続けている存在である。
6　人間は、生物体としての共通要素をもつが、それぞれの社会的背景の中で、固有の信念・価値観・役割・関係を持つ社会的存在でもある。

健康　1　健康とは疾病や障害の有無だけではなく、身体的・精神的・社会的にバランスがとれた状態であり、その人の能力が最大限に発揮されている状態である。
2　健康は対象のライフサイクルにおいてそれを取り巻く状況、文化、民族などの環境が影響する極めて流動的なものである。

環境　1　環境とは、人間を取り巻くすべてであり、内的環境と外的環境がある。
1）内的環境とは、ホメオスタシスに基づいた生体内の環境をさす。
2）外的環境は、自然環境と社会・文化環境に大別される。
⑴　自然環境は、生物学的環境と非生物学的環境に分けられる。
①　生物学的環境とは、
人間、動植物、微生物など生物の生態系に関係するものをいう。
②　非生物学的環境とは、
物理的環境（気候、気圧、地形、光、熱、音、振動、放射線、電磁波など）と、化学的環境（大気の$O_2$、$CO_2$、無機・有機化合物、有毒ガスなど）をいう。
⑵　社会・文化環境とは、
社会的環境（家族、親族、地域社会、職業、教育、犯罪）と
文化的環境（言語、慣習、行動様式、価値、歴史、宗教、道徳）と
政治や経済的環境（家計、労働、市場、制度、政策、国際関係）である。
2　環境と人間・生活すべてにおいて常に相互作用している。
3　環境は人間のパーソナリティに深く関わるものである。

看護　1　看護は、専門職として独自の機能を有し、あらゆる成長・発達段階・健康状態にある個人及びその家族、集団、地域社会を対象とする。
2　看護は、人間が生命や健康を保つために本来もっている自己の能力を高め、可能性を発揮し、その人らしく生活できるように援助することである。
3　看護は、対象の顕在的・潜在的な課題に対して、科学的知識を活用し、適切な技術と系統的なアプローチで看護ケアを実践するものである。
4　看護は、対象にあった生活を対象なりに健康で生きがいをもって送るために、保健・医療・福祉システムを理解し、関連する他職種と連携・協働するものである。

教育　1　教育とは、目的意識をもった人間形成へ働きかけることである。
2　教育とは、人間関係を基盤とした活動の中で、学習者の価値観を尊重し、倫理観をもって豊かな人間性を育てることである。
3　教育とは、学習者の自己の強みを生かした潜在能力を引き出すために、環境を整え意図的に働きかけることである。
4　教育とは、学習者が自己実現を目指し、主体的に活動できるよう支援することである。
5　教育は、学習者と教育者が共に成長するものである。

## ３．カリキュラムデザイン

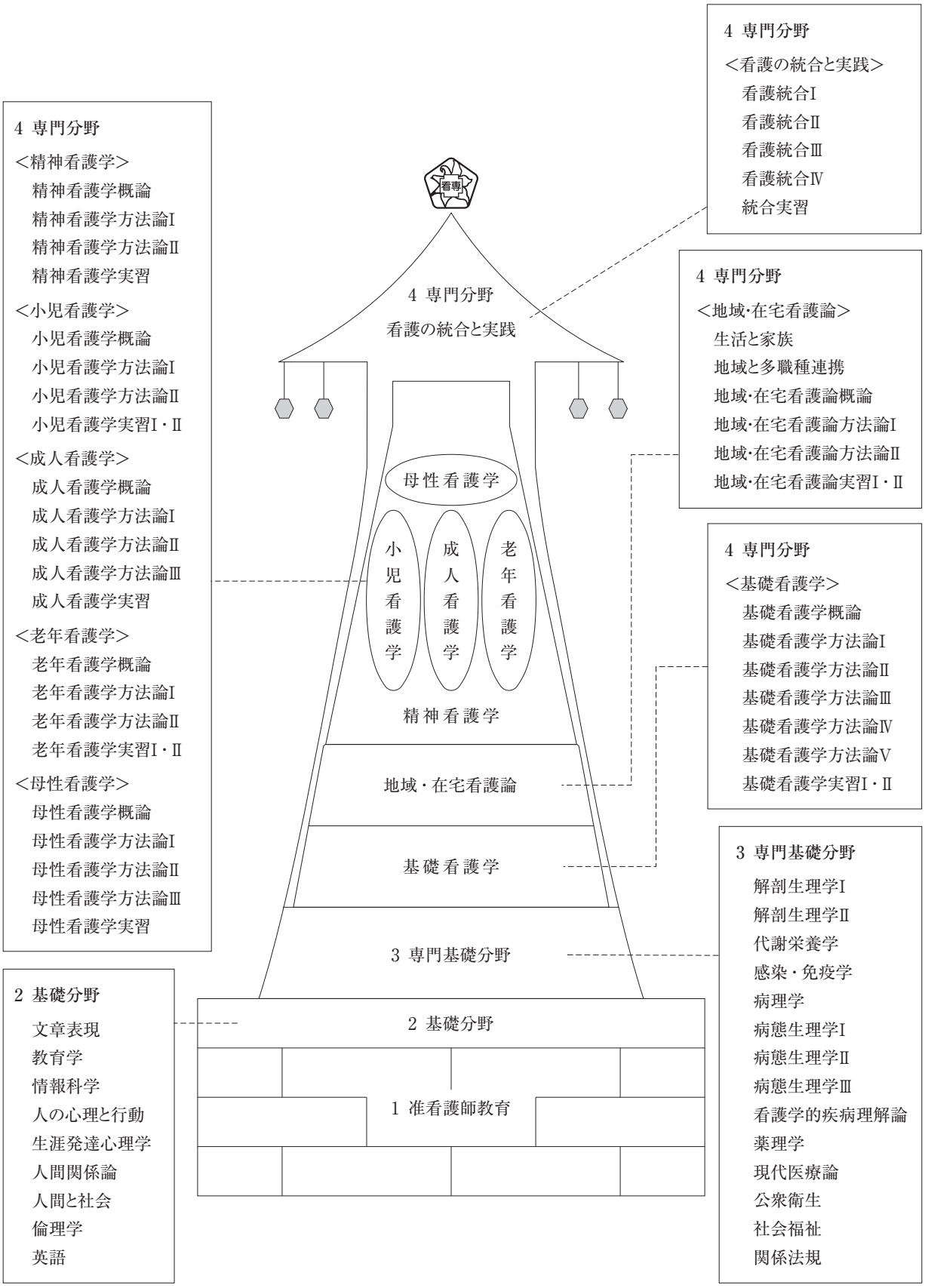
### 構造図の考え方

本校が立地する大垣市は、日本列島のほぼ中央に位置し、中山道や美濃路が通り、日本の東西の経済・文化の交流地点として栄えた。また俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた結びの地として知られ、船町港を訪れた際「蛤のふたみに分かれ行く秋ぞ」という俳句を詠んだとされている。その俳句を詠んだ水門川の畔に立つ「住吉灯台」は水運でにぎわった面影を残し、現在もこの地のシンボルとして地域の人々に親しまれている。

本校では、この住吉灯台を教育課程のシンボルとし、大垣市を中心とした地域に貢献できる看護職を育成するために、以下のような意味を込めてカリキュラムを構築した。

1　灯台を支える礎として、本校の教育課程の土台となる准看護師教育を位置づけた。
2　基礎分野は人間と生活・社会の理解を深め、科学的思考の基盤を身に付けるための教育内容とし、准看護師課程での学びの上に積み上げた。
3　専門基礎分野では、人体と疾病を系統立てて理解した上で、看護実践の基盤となる臨床判断能力を身に付けるため、看護の視点に繋がるような学びができるようにした。
4　専門分野では、准看護師教育で学んだ知識・技術を基に、基礎看護学において科学的根拠を基にした看護実践能力を身に付ける学びとする。さらにすべての専門領域における看護の基盤となり、今後看護を提供する場として拡大していく地域とそこで生活・療養する人々の理解を深め、看護を実践するための学びを地域・在宅看護論で学習する。
また保健・医療・福祉におけるケアチームの中で多職種と協働するために、看護の役割を明確にしていくことが重要であることから、他の職種を目指す仲間と学習する内容を加えた。また各対象と健康レベルに応じた看護を展開するための内容を各専門領域で学習する。
5　看護の統合と実践では、ケアチームの中で連携・協働するための看護師の役割やマネジメントについて学び、基礎的臨床判断に繋がる能力を養う内容とするとともに、看護を広くとらえ、学び続けることができる内容とした。
6　軒の四隅につけられた風鐸は、学生が現代社会で求められる看護師として成長できるように導く目印とした。
7　屋根の上には本校の校章を載せ、シンボルを強調した。

灯台は水路を行く船を正しい方向に導く役割をもつ。住吉灯台を本校の構造図に活かしたことで、学生が確かな知識と技術を基にした看護実践能力を身に付け、自律した看護師となれるように導く。さらに地域の保健・医療・福祉に貢献できる専門職として活躍できることを目指す内容とした。


4 専門分野
<精神看護学>
精神看護学概論
精神看護学方法論Ⅰ
精神看護学方法論Ⅱ
精神看護学実習
<小児看護学>
小児看護学概論
小児看護学方法論Ⅰ
小児看護学方法論Ⅱ
小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ
<成人看護学>
成人看護学概論
成人看護学方法論Ⅰ
成人看護学方法論Ⅱ
成人看護学方法論Ⅲ
成人看護学実習
<老年看護学>
老年看護学概論
老年看護学方法論Ⅰ
老年看護学方法論Ⅱ
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ
<母性看護学>
母性看護学概論
母性看護学方法論Ⅰ
母性看護学方法論Ⅱ
母性看護学方法論Ⅲ
母性看護学実習
4 専門分野
<看護の統合と実践>
看護統合Ⅰ
看護統合Ⅱ
看護統合Ⅲ
看護統合Ⅳ
統合実習
4 専門分野
<地域･在宅看護論>
生活と家族
地域と多職種連携
地域･在宅看護論概論
地域･在宅看護論方法論Ⅰ
地域･在宅看護論方法論Ⅱ
地域･在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱ
4 専門分野
<基礎看護学>
基礎看護学概論
基礎看護学方法論Ⅰ
基礎看護学方法論Ⅱ
基礎看護学方法論Ⅲ
基礎看護学方法論Ⅳ
基礎看護学方法論Ⅴ
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
3 専門基礎分野
解剖生理学Ⅰ
解剖生理学Ⅱ
代謝栄養学
感染・免疫学
病理学
病態生理学Ⅰ
病態生理学Ⅱ
病態生理学Ⅲ
看護学的疾病理解論
薬理学
現代医療論
公衆衛生
社会福祉
関係法規
2 基礎分野
文章表現
教育学
情報科学
人の心理と行動
生涯発達心理学
人間関係論
人間と社会
倫理学
英語
看専
4 専門分野
看護の統合と実践
母性看護学
小児看護学
成人看護学
老年看護学
精神看護学
地域・在宅看護論
基礎看護学
3 専門基礎分野
2 基礎分野
1 准看護師教育

## 4．教育目的・教育目標と各科目との関連

| 目的 | 看護の専門職として必要な基礎的知識・技術を修得させ、倫理に基づく看護実践能力を有した地域に貢献できる人間性豊かな人材を育成する |
|---|---|

| | 目標　1 | 目標　2 | 目標　3 | 目標　4 | 目標　5 | 目標　6 | 目標　7 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育目標 | 生命の尊厳と基本的人権をもとに、人の痛み・苦しみを共感し、個人の信念や価値観を尊重できる感性豊かな人間性を養う | 生活者としての人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う | 人々の健康と生活は、人間を取り巻くすべての環境と相互作用をきたしていることを理解できる能力を養う | 倫理的判断に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う | あらゆる健康状態や生活の場に応じた看護を、科学的思考に基づいて臨床判断し、実践できる基礎的能力を養う | 保健・医療・福祉システムにおける看護職としての役割と責任を理解し、チームの一員として多職種間で連携・協働できる基礎的能力を養う | 社会が求める看護について認識をもち、主体的な学びと自らを研鑽し続ける態度を養う |
| 関連科目 | 人の心理と行動<br>生涯発達心理学<br>人間関係論<br>人間と社会<br>倫理学<br>解剖生理学Ⅰ<br>解剖生理学Ⅱ<br>教育学<br>現代医療論<br>社会福祉<br>関係法規<br><br>各看護学 | 人の心理と行動<br>生涯発達心理学<br>人間関係論<br>人間と社会<br>倫理学<br>解剖生理学Ⅰ<br>解剖生理学Ⅱ<br>代謝栄養学<br>感染・免疫学<br>病態生理学Ⅰ<br>病態生理学Ⅱ<br>病態生理学Ⅲ<br>薬理学<br>看護学的疾病理解論<br>英語<br>教育学<br>現代医療論<br>公衆衛生<br>社会福祉<br><br>各看護学 | 人の心理と行動<br>生涯発達心理学<br>人間関係論<br>人間と社会<br>情報科学<br>代謝栄養学<br>感染・免疫学<br>病態生理学Ⅰ<br>病態生理学Ⅱ<br>病態生理学Ⅲ<br>薬理学<br>看護学的疾病理解論<br>教育学<br>現代医療論<br>公衆衛生<br>社会福祉<br>関係法規<br><br>各看護学 | 文章表現<br>人間関係論<br>人間と社会<br>倫理学<br>解剖生理学Ⅰ<br>解剖生理学Ⅱ<br>教育学<br>現代医療論<br>社会福祉<br>関係法規<br><br>各看護学 | 文章表現<br>人の心理と行動<br>生涯発達心理学<br>人間関係論<br>倫理学<br>情報科学<br>解剖生理学Ⅰ<br>解剖生理学Ⅱ<br>代謝栄養学<br>感染・免疫学<br>病理学<br>病態生理学Ⅰ<br>病態生理学Ⅱ<br>病態生理学Ⅲ<br>薬理学<br>看護学的疾病理解論<br>教育学<br>公衆衛生<br>社会福祉<br>関係法規<br><br>各看護学 | 人間関係論<br>情報科学<br>現代医療論<br>公衆衛生<br>社会福祉<br>関係法規<br><br>各看護論 | 倫理学<br>情報科学<br>関係法規<br>現代医療論<br>英語<br>社会福祉<br><br>各看護学 |

## 5．年次別目標

| 教育目標 | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
|---|---|---|---|
| 1　生命の尊厳と基本的人権をもとに、人の痛み・苦しみを共感し、個人の信念や価値観を尊重できる感性豊かな人間性を養う。 | ・自己理解に努め、他者に関心をもつことができる。<br><br>・社会人としての基本的行動がとれる。 | ・他者の価値観を受け入れ、円滑な人間関係を形成できる。 | ・生命の尊厳を基盤に、倫理に基づいた行動がとれる。<br><br>・他者を思いやり、共感した行動がとれる。 |
| 2　生活者としての人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。 | ・人間を身体的･社会的･精神的な存在であると理解できる。<br><br>・人間のライフサイクル、成長発達が理解できる。 | ・看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的情報を収集・統合できる。 | ・人間を統合的に捉え、看護を実践できる。 |
| 3　人々の健康と生活は、人間を取り巻くすべての環境と相互作用をきたしていることを理解できる能力を養う。 | ・地域で生活する人々の背景を知ることができる。<br><br>・社会情勢や地域社会の変化に関心をもち、健康と生活の関連に気づくことができる。 | ・環境が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解できる。 | ・人々の健康と生活に影響を与える環境に、働きかける基礎的能力を身につける。 |
| 4　倫理的判断に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。 | ・自己の倫理観を見つめなおすことができる。 | ・自己の倫理観を意識することができる。<br><br>・自己の倫理観の確立をめざすことができる。 | ・自己の倫理観に基づき、他者と協働し倫理的判断を身につける。 |
| 5 あらゆる健康状態や生活の場に応じた看護を、科学的思考に基づいて臨床判断し、実践できる基礎的能力を養う。 | ・科学的根拠に基づいた問題解決技法がわかる。<br><br>・科学的根拠に基づいた看護技術が理解できる。 | ・対象の特徴をふまえた問題解決技法を身につける。<br><br>・自己の看護行為を振り返り、省察することができる。 | ・健康上の課題を解決するために、問題解決技法を用いて看護が実践できる基礎的能力を身につける。 |
| 6　保健・医療・福祉システムにおける看護職としての役割と責任を理解し、チームの一員として多職種間で連携・協働できる基礎的能力を養う。 | ・医療の中での看護師の果たす役割を認識することができる。<br><br>・グループの一員としての責任と役割を果たすことができる。 | ・保健・医療・福祉制度を理解できる。<br><br>・社会資源の活用と調整について考えることができる。<br><br>・グループの一員として協調性をもち積極的な行動がとれる。 | ・保健・医療・福祉チームの中での看護師の果たす役割を認識することができる。<br><br>・対象の健康生活を支援するチームの一員としての役割を果たす基礎的能力を身につける。 |
| 7　社会が求める看護について認識をもち、主体的な学びと自らを研鑽し続ける態度を養う。 | ・自己の看護観を見つめなおすことができる。<br><br>・学習習慣を身につける。 | ・他者の看護観を受け入れ、自己の看護観を深める。<br><br>・問題意識をもって主体的に学習することができる。 | ・自己の看護観を明確にすることができる。<br><br>・看護を追求する姿勢をもち、自己の課題を明らかにすることができる。 |

## ６．教育課程編成における基本的な考え方

看護を取り巻く環境は、超高齢・多死社会、少子化社会となり、医療現場は高度先進医療の発展、医療安全に関する意識の向上等で大きく変化し続けている。また、人々の価値観は多様であり、看護に求められる社会のニーズも急激に変化している。医療現場では、これまでは治療・回復の施設内医療が行われてきたが、現在は治療が中心の施設内医療へと変化し、疾病の回復は在宅医療で目指すことに移行されてきている。そのため看護実践の場も、施設内看護から、地域に向けた在宅看護へと変化してきており、多様な場での看護が求められている。看護基礎教育では、このような現状を踏まえ、人間を生活と健康の両側面からとらえ、科学的根拠に基づきながらも、その人らしさを大切にした質の高い看護を提供できる専門職業人の育成が求められている。また看護だけでは解決できない生活上の課題を、多職種で支援し、人が最期まで住み慣れた地域で過ごすことができるように考える力を身に付けることも必要とされている。

一方、家族構成の変化や地域社会における人間関係の希薄化が続き、自己中心的で感性が乏しく、相手のことに関心がもてない人間を形成している。さらに情報機器はますます進化し、他者との言語的コミュニケーション能力の低下が進んでいることで、人間関係を形成することが苦手な人も増えており、看護学生にも同様の傾向がある。他方、現代社会においてはICTの活用は不可欠であり、医療現場においても必要な能力の１つである。

これらを踏まえ、本校の教育課程では、相手に関心を寄せることができる、感性豊かな人間として成長できることを主眼においた。同時に、地域社会の中における人間と環境を理解し、あらゆる健康レベルの人に対し、様々な場において、臨床判断能力に基づいたその人に必要な看護が実践できる人材育成を目指す。また准看護師教育で培った知識・技術を基盤とした本校の学生の強みを活かし、科学的根拠に基づく看護を導ける力を身に付けることができる教育を重視するとともに、地域で多職種と連携・協働して役割を担える人材の育成を目指し教育課程を構築した。

## 7．教育課程の考え方

### 1）基礎分野の考え方と科目構成及び内容

#### ⑴　基礎分野の考え方

基礎分野は、准看護師教育で培った知識・技術・倫理を土台に、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づける。

まず、看護の対象となる人間をより深く理解するために、発達段階や心理と行動などの側面に加え、生活者としての人間のあり方と生活・社会との関係について学ぶ。特に、地域に根ざした看護師を育成するために、東西文化の交わる岐阜県西濃地域の環境や慣習の特徴と生活の実際について深く理解できる内容とした。

また､科学的根拠に基づく看護が提供できるように､その基盤である自己表現できるコミュニケーション能力や論理的思考能力を高めるようにした。特に、現代の情報社会に即したICTの活用や共通言語のツールである英語を学び、様々な情報をとらえて看護実践に繋げられる基礎的能力を高める。

さらに、すべての看護場面に必要となる倫理観の基盤とできるように、学問として倫理を学ぶ内容を加えた。これらの学習を通し、自ら学び続ける姿勢につなげる。

#### ⑵　基礎分野の科目構成及び内容

科学的思考の基盤の科目は、文章表現、教育学、情報科学の３科目を設定した。

〔文章表現〕　論理的思考を身につけ、様々な問題について議論することや論理性のある文章作成をすることで、看護における科学的な思考が高められることを目的としている。

〔教育学〕　人間の成長と教育の意義について理解する。さらに看護に特化した指導・教育を捉える内容とした。

〔情報科学〕　現代社会の特徴といえる通信技術（ICT）の伸展等の変化をふまえて、情報リテラシーの内容を重視するとともに、今後の学習や看護の場での情報通信技術（ICT）の活用がスムーズにできるよう具体的な方法を修得する教育内容とした。

人間と生活・社会の理解の科目は、人の心理と行動、生涯発達論、人間関係論、人間と社会、倫理学、英語の６科目を設定した。

〔人の心理と行動〕　人間の基礎となる心の動きと行動との関係を理解するとともに、自己理解･他者理解を深める内容とした。

〔生涯発達心理学〕　人間のライフステージ別に、人生の課題や発達的な問題および支援を学び、発達的視座から身体的･精神的･社会的存在としての人間への理解を深める内容とした。

〔人間関係論〕　人間関係が希薄となり、対人関係技術が苦手な学生が増えていることや看護における人間関係能力が重要なことから、人間関係構築の基本を学び他者理解とともに自己理解を深める内容とした。

〔人間と社会〕　家族は社会の基盤となる最小単位であり、社会の動きの影響を受け変化する。家族の役割など家族関係を考え、家族をどのようにとらえるかを学ぶ。人が暮らしていくことや生活者として暮らす社会と人間との関係、社会における問題を学ぶ。また、西濃という地域を深く知ることで生活や健康を知る内容とした。

〔倫理学〕　倫理的思考を学ぶことで、人間とは何か、人間のあり方、善悪、道徳性を学び、人権の尊重に基づいた倫理観を培う。また、個人ないし人々の生活全体を視点とし、生命や医療について倫理学的に考える姿勢を身につける内容とした。

〔英語〕　視野を広め国際社会に対応し、看護の現場に役立つ基礎的コミュニケーション能力を養う内容とした。

2）専門基礎分野の考え方と科目構成及び内容

⑴　専門基礎分野の考え方

准看護師教育と基礎分野を土台に、人体を系統的に理解し、健康障害に関連した知識を深めるとともに、今までの医療従事者としての経験をふまえ、倫理的判断力を養う。

また、保健医療福祉に関連した制度や関連職種の役割を理解することで、生活者としての人々の健康レベルに応じた社会資源が活用できる知識を深めることを目標にした。

⑵　専門基礎分野の科目構成及び内容

本校では、上記の教育内容を教授するために計14科目（14単位）を設定した。

「人体の構造と機能」では、人体を系統立てて理解できるように、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、代謝栄養学の３科目を設定した。

〔解剖生理学Ⅰ・Ⅱ〕　人体を構成する各器官の形態と機能を系統的に学ぶ内容とした。

〔代謝栄養学〕　生命の維持・成長発達に必要な栄養素と代謝のプロセスを学び、栄養のアセスメントの基礎を学ぶ。また、疾病の予防や治療における食事療法の基礎を学ぶ内容とした。

「疾病の成り立ちと回復の促進」では、人間に疾病と機能障害が発生する一連のプロセス、その原因、治療について知識を深める目的で、感染・免疫学、病理学、病態生理学Ⅰ～Ⅲ、看護学的疾病理解論、薬理学の７科目を設定した。

〔感染・免疫学〕　感染と感染防御に関わる基礎知識を学ぶ内容とした。

〔病理学〕　疾病の原因や発生機序、形態･機能的変化についての基礎的知識を学ぶ内容とした。

〔病態生理学Ⅰ～Ⅲ〕　疾病により身体の正常な機能が破綻することで、身体内部が変化するプロセスを学ぶ内容とした。

〔看護学的疾病理解論〕　病理学、病態生理学Ⅰ～Ⅲを深めながら、疾病の成り立ちに関与する因子を看護に関連させつながりを理解し、臨床判断能力につながる内容とした。

〔薬理学〕　薬理学の基礎的知識と薬物療法を学ぶ。薬理作用・副作用を医薬品の安全対策と合わせて理解する内容とした。

「健康支援と社会保障制度」では、生命倫理に基づいた医療の役割や健康を維持・増進・回復できるように支援するための基礎的知識を学ぶ内容で、現代医療論、公衆衛生、社会福祉、関係法規の４科目を設定した。

〔現代医療論〕　医療の変遷から現代医療のかかえている問題を理解し、生命倫理を考える内容とした。

〔公衆衛生〕　健康の指標や保健統計を理解する中で、個々の生活習慣や価値観を重視し、あらゆる生活の場での人々の健康の保持･増進を支援するための保健活動を理解する内容とした。

〔社会福祉〕　生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、それらを社会資源として活用するための基礎的知識として学ぶ内容とした。

〔関係法規〕　保健医療福祉に関する諸制度の概要を学び、看護師の役割が規定されている保健師助産師看護師法について理解する内容とした。

3）専門分野の考え方と科目構成及び内容

⑴　専門分野の考え方

今、看護に求められているものの一つに、対象のQOL向上を目指し、療養生活支援の専門家として的確な看護判断を行い、適切な看護技術を提供するというものがある。そのためには、自立して臨床判断ができ看護実践ができる看護職の育成が必要である。

専門分野では、基礎看護学、地域・在宅看護論から各領域に繋げ、看護の統合と実践へと繋がる

知識、技術を含み、看護師として倫理的判断力と臨床判断能力に基づいた看護実践能力を養う内容とした。現在、高度化・複雑化している医療の中で、専門職である看護師に求められるものは、看護理論と技術を結びつけて、対象にあった看護を実践できる能力である。

したがって、看護の対象である人間をライフサイクルに沿って、小児期・成人期・老年期に区分し、地域で生活する人である看護の対象者を理解し、各期の特徴的な看護を学べる内容とした。また、母性看護学と精神看護学はすべてのライフサイクルに絡みあう領域として位置づけた。

現在の医療現場は、医療費の増大、慢性疾患の増加を招き、在院日数の短縮などから、施設から地域へと移行が進み、看護を取り巻く環境は急激に変化している。そのため、看護師には、あらゆる健康状態にある全ての対象に対し、様々な場での臨床判断に基づく看護実践と多職種で連携する協働する力が求められている。

そのため、その対象の状況に応じて知識・技術を統合させることで、臨床判断能力を養い看護実践能力を高める内容を重視するとともに、各専門領域で多職種連携を学ぶ内容を加えた。

### ⑵　各専門分野の考え方と科目構成及び内容

#### ＜基礎看護学の考え方と科目構成及び内容＞

基礎看護学は、看護を学ぶ上での基礎となるものである。

本校の学生は、准看護師教育を終え、対象への看護を実施することを身につけてきた。それを土台とした科学的根拠に基づく思考過程や臨床判断能力が身に付く経験は乏しい。また、准看護師としての就労学生もいるが、看護師としてのマネジメント能力は学習できていない。そのため、本校の基礎看護学では、科学的知識の修得と、臨床判断能力の基盤となる内容を学ぶ。

人の声に耳を傾け、また人の非言語的メッセージを受け止められる看護師を育成するために、基礎看護学では、コミュニケーション能力の向上を目指し、学内演習を工夫することとした。

そこで、基礎看護学は、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰから基礎看護学方法論Ⅴの６つの授業科目と基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで構成する。

基礎看護学概論では、看護とは何かを深めるために、看護の歴史、看護理論を学び、さらに、専門職業人としての倫理観を育む内容とした。

基礎看護学方法論Ⅰでは、共通基本技術としての安全・安楽の技術をはじめ、対象の理解をするためのコミュニケーション、フィジカルアセスメント、学習支援・安楽・記録・報告を学習する。基礎看護学方法論Ⅱでは、日常生活の援助技術を、基礎看護学方法論Ⅲでは診療の補助技術を学習する。特に基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、事例を交えながら学内技術演習を行い、対象に合わせた援助技術を提供できる授業内容とした。

基礎看護学方法論Ⅳでは健康状態に応じた臨床判断と看護実践のための基礎的知識を身につける内容とした。基礎看護学方法論Ⅴでは、看護実践能力の基礎として、看護過程を学ぶ。基礎看護学実習Ⅰでは、対象を取り巻く環境と環境が及ぼす影響を理解し、コミュニケーション、援助時の倫理的配慮を学び、今後の礎とする。さらに基礎看護学実習Ⅱでは、初めて対象を通して看護過程の基礎を展開する機会として位置付け、自己の看護観を深める。

#### ＜地域・在宅看護論の考え方と科目構成及び内容＞

地域・在宅看護は、地域で暮らすあらゆる人々を対象とし、年齢や疾病・障がいの種類、健康状態もさまざまな対象が、住み慣れた自宅やそれに準じた環境で、自分らしく望む生活を維持・向上できるよう、保健・医療・福祉、さらに学校・職場などと連携・協働しながら人々が自分たちの力で暮らすことを支援することである。

これらを踏まえ、地域・在宅看護論では、在宅看護の対象の特徴や在宅療養を支える家族を理解し、対象の自己決定権を尊重しながら、健康の保持・増進、疾病の予防と治療、健康の回復、安らかな死に向けて看護が実践できる基礎的能力を養う内容とする。

また、生活の場の特性を学び、生活を支える社会資源と関係職種の役割を理解し、他職種と連携

をはかりながら支援する必要性を学習して、地域包括ケアシステムの構成員としての看護職の役割を学ぶ。居宅訪問という特徴をもつ在宅看護では、プライバシーの保持や人間関係に影響を与える社会人としてのマナーを守ることも重要であり、対象の人権や倫理について学ぶ内容とした。

科目の構成は、生活と家族、地域と多職種連携、地域・在宅看護論概論、地域・在宅看護論方法論Ⅰ、地域・在宅看護論方法論Ⅱ、地域・在宅看護論実習Ⅰ、地域・在宅看護論実習Ⅱとする。

生活と家族では、家族全体の生活、日常生活の中で家族とは何かを考え、家族システムの中での家族機能や役割の基本を理解し、家族を対象とした看護のあり方を学ぶ内容とした。

地域・在宅看護論概論では、在宅看護が必要とされる背景と基本理念、在宅看護の対象、在宅看護の特徴、在宅療養を支える社会資源などを学習する。また、在宅看護における倫理、在宅におけるリスクマネジメントや災害時の看護など在宅看護における安全性の確保についても学習する。

地域・在宅看護論方法論Ⅰでは、在宅看護に必要な日常生活援助技術と医療処置技術を学習する。また終末期ケアなど在宅で療養する対象の健康状態に応じた看護を学習する内容とする。

地域・在宅看護論方法論Ⅱでは、事例を用い、療養者とその家族の生活と価値観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目し、療養者と家族を多面的に支える援助について学ぶ内容とする。

地域・在宅看護論実習Ⅰでは、地域でのさまざまな人々の暮らしや活動を支えるために、どのような支援があるのかを知り、地域ケアシステムにおける多職種連携の重要性について理解する。

地域・在宅看護論実習Ⅱでは、在宅療養者とその家族に対する在宅ケアの実際をとおして、訪問看護サービスの展開方法を学び、在宅における看護の提供方法を理解する。また、社会資源の活用や関係職種との連携・協働の実際を通して、その重要性や継続看護の実際を学び、退院指導・退院調整に活かせる基礎的能力を養う実習とした。

地域・在宅看護論の実習後の最終科目となる地域と多職種連携では、保健・医療・福祉チームの構成員である看護師と他職種の役割を理解し、チームで協働する重要性を再認識する。本校看護学生と他校の他職種学生で共同学習を行うことにより、実践に近い内容を学ぶ。

＜成人看護学の考え方と科目構成及び内容＞

成人期は、心身の機能の成熟期であり、成長・成熟・老化の過程をたどるライフサイクルの中で最も長く充実した時期である。成人期にある人は、人とのかかわりも広がり、家庭や職場・地域などで多様な役割をもち、社会に貢献している。

このような責任を担う社会生活の中で、ストレスが増大しやすい状況にあり、心のバランスを保つことが困難になりやすい。また、社会の生活様式の変化と個人の生活習慣が、がんによる死亡率の上昇、慢性疾患の増加を招くなど、成人の健康に大きな影響を及ぼしている。

成人看護学では、対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、成人期に生じやすい健康問題の予防と回復に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践ができる基礎的能力を養うことをねらいとする。

科目の構成は、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、成人看護学方法論Ⅲ、成人看護学実習とした５つの内容とした。

成人看護学概論では、成人期の対象の特徴を理解し、成人保健の動向と社会の現状を学ぶ。そして、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの考え方や方法を学習する。

成人看護学方法論Ⅰでは、急性期の経過をたどる対象及び家族に対して生命の脅威、また、心理的危機的状況からの回避及び早期回復に向けての援助方法を学習する。そして、急性期からのリハビリテーションを考える必要があるため、それらの経過に応じた看護を学ぶ内容とする。

成人看護学方法論Ⅱでは、慢性期・終末期にある対象の健康問題の改善及び生活の質を高めるための援助方法を学習する。慢性期では、対象がセルフコントロールできるように援助方法を学び、終末期では対象の人格・尊厳が保たれ、限られた時間をその人らしく生き、「生」を全うできるように支援するための知識・技術・態度を学習する。

成人看護学方法論Ⅲでは、多様な社会的役割を担う対象の周手術期にある看護の事例を基に、看

護診断を用いた看護過程ではなく、刻刻と変化する対象の状態を捉え、臨床判断に基づく看護が実践できる基礎的能力を身につけるためにクリニカルパスを用いた看護を展開する内容とした。

臨地実習では成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ理論を基に周手術期を中心とした知識・技術を統合し、臨床判断に基づく対象を尊重した個別的な看護展開と実践ができる能力を身につける。

＜老年看護学の考え方と科目構成及び内容＞

日本の少子超高齢社会は世界でも例のない速さで多死社会に進み続けている。高齢人口の増加は、急性疾患の拡大から慢性疾患の蔓延へと人々の健康問題をも変化させ、看護を必要としている高齢者を急増させた。それは医療費配分の変化や在宅看護の発展をもたらし、また介護問題や社会保障に対する課題を提起している。さらに電子化やSNSなどの情報社会の中で、戸惑い生きづらさを感じる高齢者も少なからずいるのではないかと考える。このような社会の現状は、高齢者がその人らしく生き抜くことに大きな影響を与え、高齢者のＱＯＬを妨げることにつながっている。

また、老年期は人間の発達段階におけるラストステージにあたり、さまざまな人生経験により人として完成し、いずれ穏やかな死を迎える段階にある。そして、老年期にある人は、本来人生の先輩として、誰もが尊敬されるべき対象である。しかし、高齢者は加齢に伴い様々な身体生理機能に変化をきたすとともに、精神・社会面の変化が生じることから、マイナスイメージをもたれやすい。また、近年の家族形態の変化や他者に対する無関心などにより健康に生きる高齢者のイメージをとらえられない人が増えている。さらに、本校の学生は、疾病や障害をもつ高齢者との関わりの中で、健康的な高齢者の姿がとらえられなくなっている状況がある。

そのため、老年看護学では健康的な高齢者の理解と老年観を育み、高齢者がその人らしく生きるための支援ができる能力を養うことが必要である。

科目の構成は、老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ、老年看護学方法論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱとする。

老年看護学概論では、日本の高齢社会の現状における高齢者の生活を学ぶことやシルバー体験を行うことをきっかけに、長い人生を生き抜いた高齢者が尊重される存在であることを再認識させ、高齢者が生き生きと生活するための看護とは何かを考えることが出来るように工夫した。

老年看護学方法論Ⅰでは、高齢者の健康的な生活を支える援助方法と高齢者が来たしやすい症状や徴候に焦点を当てた援助方法を学ぶと共に、施設などの生活の場における看護の役割などを学べるよう構築した。また人生の終焉を迎える高齢者という観点からの高齢者の終末期看護に関する内容も加えた。

老年看護学方法論Ⅱでは、高齢者の特徴である加齢による変化と、健康障害による影響を受けた高齢者に対する事例をもとに、看護展開する内容とした。

老年看護学実習Ⅰでは、高齢者を支える施設の機能と役割及び、そこでの高齢者の生活と看護の役割を理解するために、さまざまな施設における実習を行う。老年看護学実習Ⅱでは、健康障害をもつ高齢者の健康問題をとらえ、残存機能を生かしたその人なりのセルフケア能力を高める看護展開ができる実習とした。

＜小児看護学の考え方と科目構成及び内容＞

小児期は、成長・発達が著しく、人間形成に向けての大切な時期であるため、家族や社会によって擁護され、独立したひとりの人格として尊重されなければならない。しかし、少子化、核家族化が進み、養育環境、養育者の価値観・育児観などが変化し、子どもの健全な成長・発達に影響を与えるようになった。そして、子どもを取り巻く社会問題として、不登校、いじめ、虐待などがクローズアップされるようになってきた。

それらをふまえて、小児看護学では、子どもの成長・発達、各期の特徴・遊びについて理解し、子どもを取り巻く状況を学ぶ必要がある。その上で、子どもの主要な疾患、障害の経過、症状、検査・処置・治療について学ぶことで、健康上の課題の明確な判断を基に、その子どもに適した看護

を実践する必要がある。
科目の構成は、小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ、小児看護学方法論Ⅱ、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱとする。
小児看護学概論では、子どもの成長・発達、各期の特徴、遊び、そして子どもを取り巻く状況とその動向などを学ぶ。
小児看護学方法論Ⅰでは、子どもの主要な疾患、障害を理解し、その経過、症状、検査・処置・治療に応じた特有な看護を学ぶ。
小児看護学方法論Ⅱでは、講義で疾患をふまえた症状経過からアセスメントを学ぶ。さらに事例を通して、小児に特有な看護を学ぶ。
小児看護学実習Ⅰでは、子どもに接する機会が少ないため、地域で生活する健康な子どもとかかわる機会を設け、健康な子どもの成長・発達を学ぶ。そして小児看護学実習Ⅱでは、病院での発達段階をふまえた健康障害を抱えた子どもとその母親、家族への看護の実際を学ぶ。

＜母性看護学の考え方と科目構成及び内容＞
女性を取り巻く社会の状況は、高学歴化、社会進出、晩婚・非婚化、性差の隔たりがなくなりつつあることで、女性の生き方や家族形態の多様化をもたらし、家族機能を変化させる一因となっている。また、生殖先端医療の進歩は、生命誕生に関わる倫理という新たな課題を生み出している。さらに、育児不安や幼児虐待をはじめとする心の問題など、地域で安心して子どもを産み育てられる社会に向けた課題が生じている。そこで、妊産褥婦および新生児への看護に限らず、女性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病の予防を目的とした看護が求められている。
これらのことを踏まえ、幅広い年齢層で、性役割や家族機能、生命倫理に対する考え方も多様な本校の学生に対し、母性看護学では、妊産褥婦および新生児への看護だけでなく、女性のライフサイクル各期における特性を理解し、対象自身が健康を維持増進できるような看護が実践できる能力を養うことをねらいとした。また、生命誕生や新しい家族の誕生の時期に関わるため、生命の神秘性や家族や親子の絆に触れることも多く、生命の倫理観や母性観、父性観について考える機会とする。
科目の構成は、母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ、母性看護学方法論Ⅱ、母性看護学方法論Ⅲ、母性看護学実習とする。
母性看護学概論では、母性の特徴を理解し、女性のライフサイクルを健全に送るために必要な看護について学習する。また、母性看護における倫理について学習する内容とした。
母性看護学方法論Ⅰでは、正常な経過にある妊産褥婦および新生児の特徴を理解し、その看護について学ぶとともに、地域での子育て支援についても学習する内容とした。
母性看護学方法論Ⅱでは、ハイリスクな状態にある妊産褥婦の特徴を理解し、その看護について学習する。母性看護学方法論Ⅲでは、正常な妊娠・分娩経過をたどる褥婦の事例をもとにウェルネスの視点をもち、「気づき」と「解釈」「省察」を大切にしながら看護を展開していく学習をする内容とした。
母性看護学実習では、妊産褥婦とその家族を理解し、切れ目のない子育て支援を視野に入れ、対象に対して適切な援助ができる能力を養う実習とした。

＜精神看護学の考え方と科目構成及び内容＞
家族構成の変化・地域力の減退・メディアの発展により、人と人との関係性や社会とのつながりが変わってきた。生まれてから死を迎えるまで、人は社会でさまざまな経験を積み重ねながら生きている。そうした社会の変化は、人間に大きな影響を与え、『ストレス社会』『コミュニケーション様式の変化』をもたらした。そして、その変化は心に大きな影響を与え、精神の健康問題を抱える人は、年々増加し、低年齢者の発症も多くみられるようになった。
看護では、多様化する人間のニーズ、対象の生育歴から現在・未来の環境までを考え、対応でき

る力が必要となる。特に精神看護学では、精神疾患・障害の有無にかかわらず、すべてのライフサイクルにある人間の生理的側面・心理学的側面・社会的側面を捉え、身体の健康と心の健康を切り離すことなく、現代社会における精神の健康の保持・増進ができる看護実践能力を養う。さらに、精神の健康問題を抱える人の理解を深め、その人の強みに着目した生活が維持・向上できるよう働きかける基礎的能力を学ぶ必要がある。

科目の構成は、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学実習とする。

精神看護学概論では、さまざまな視点から心を学び、現代社会における人々の心の健康について理解する。そして、精神医療・保健・看護の歴史から対象の人権や看護倫理を学び、今後の課題を考える内容とした。

精神看護学方法論Ⅰでは、精神の障害をもつ対象の特徴を学び、治療的関わりや生活支援など、他職種との関わりも含め、看護者として必要なアプローチを理解する内容とした。

精神看護学方法論Ⅱでは、看護の対象である人間と看護者の関係に重点を置き、自己理解・他者理解ができる内容とした。そして、精神に障害をもつ対象に必要な看護過程を展開する内容とした。

精神看護学実習では、精神に障害をもつために、日常生活や対人関係に問題を抱えている対象へのかかわりを通して、その人らしい生活を送るための援助を学ぶ。また、精神障害のある地域生活支援施設で、精神保健福祉に関連した社会資源の理解と今後の課題について考えることができる内容とした。

＜看護の統合と実践の考え方と科目構成及び内容＞

従来の看護基礎教育では、思考過程を踏まえた科学的看護実践力を重視してきた。しかし、目まぐるしく医療が展開される臨床現場にリアリティショックを感じ、大きなストレスを抱えることで、人々が求める看護に応えることができなくなる新人看護師が多くなってきた。そこで、医療現場の高度化、複雑化、多様化に対応できる専門職業人の育成が必要となったため、思考過程をふまえた看護を提供する力だけではなく、確実な看護技術を修得し、臨床現場で即戦力として活躍できる臨床判断能力の強化育成を目指そうと考えた。

本校の学生の多くは、准看護師としてさまざまな臨床現場での経験をもっており、自己に与えられた多くの業務を実践する力は身につけている。しかし、看護マネジメントの体験は少なく、その時々で看護の優先度を判断し、多くの課題を実践する力は身についていない。このような学生の背景を考えて、各看護学で学んだ知識・技術を統合させることをねらいとした。さらに、拡大しつづける看護活動の場への理解が深まるような内容とした。

看護統合Ⅰでは、看護管理の考え方や組織における様々な管理について学ぶことで、組織における看護師の役割やリーダーシップ・メンバーシップについて理解する内容とした。

看護統合Ⅱでは、医療事故に対しての社会的関心の高まりや、医療事故の増加の背景を知り、医療安全に対応できる基本的な知識を身につけ、看護業務と医療事故の構造を理解した上で、事故防止の方法を学ぶ内容を組み入れた。災害看護では、多発している自然災害や人為的災害の実際を知り、順応できる基本的な知識と技術とを学び、災害時における看護師の役割が理解できる内容とした。また国際社会における現状を学び、保健医療福祉分野における国際協力の必要性、看護師として広い視野に基づき諸外国との協力を考えることができる内容とした。

看護統合Ⅲでは、複数対象の看護マネジメントをするための考え方を学び、臨床現場に対応できる能力を習得する内容とした。また卒業前の統合技術として、看護マネジメントを行った事例に対し、臨床判断に基づく安全安楽で確実な技術の習得を目指した演習を組み入れる内容とした。

看護統合Ⅳでは、看護の専門性と看護研究の基礎的知識を学び、研究的態度を身につけることができる内容とした。

看護統合実習では、複数課題への取り組みを通し、看護実践能力を高めるとともに、夜間実習などを通じ臨床に適応できるような体験をする内容とした。また臨床での看護管理の実際を学ぶとと

もに、さらに看護のマネジメントを体験することで、その必要性と重要性が理解できる内容とした。

## 8．教育課程および教育計画

| 区分 | 教育内容 | 教科目 | 単位数 | 時間数 | 施行年次及び時間数 1 | 2 | 3 | 開始時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎分野 | 科学的思考の基盤 | 文章表現 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年11月頃 |
| | | 教育学 | 1 | 15 | | 15 | | 令和８年４月頃 |
| | | 情報科学 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年４月頃 |
| | 人間と生活・社会の理解 | 人の心理と行動 | 1 | 15 | 15 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 生涯発達心理学 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年９月頃 |
| | | 人間関係論 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年８月頃 |
| | | 人間と社会 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 倫理学 | 1 | 15 | 15 | | | 令和７年６月頃 |
| | | 英語 | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年９月頃 |
| | 小　計 | | 9 | 225 | 180 | 45 | | |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 解剖生理学Ⅰ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 解剖生理学Ⅱ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 代謝栄養学 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年９月頃 |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 感染・免疫学 | 1 | 15 | 15 | | | 令和８年１月頃 |
| | | 病理学 | 1 | 15 | 15 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 病態生理学Ⅰ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年６月頃 |
| | | 病態生理学Ⅱ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年９月頃 |
| | | 病態生理学Ⅲ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年10月頃 |
| | | 看護学的疾病理解論 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年10月頃 |
| | | 薬理学 | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年４月頃 |
| | 健康支援と社会保障制度 | 現代医療論 | 1 | 15 | | 15 | | 令和８年４月頃 |
| | | 公衆衛生 | 1 | 15 | | 15 | | 令和８年12月頃 |
| | | 社会福祉 | 1 | 15 | 15 | | | 令和８年１月頃 |
| | | 関係法規 | 1 | 15 | | 15 | | 令和８年４月頃 |
| | 小　計 | | 14 | 330 | 255 | 75 | | |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 基礎看護学概論 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 基礎看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年４月頃 |
| | | 基礎看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年５月頃 |
| | | 基礎看護学方法論Ⅲ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年６月頃 |
| | | 基礎看護学方法論Ⅳ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年８月頃 |
| | | 基礎看護学方法論Ⅴ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年12月頃 |
| | 地域・在宅看護論 | 生活と家族 | 1 | 15 | 15 | | | 令和７年６月頃 |
| | | 地域と多職種連携 | 1 | 30 | | | 30 | 令和９年11月頃 |
| | | 地域・在宅看護論概論 | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年７月頃 |
| | | 地域・在宅看護論方法論Ⅰ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年10月頃 |
| | | 地域・在宅看護論方法論Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | 令和９年１月頃 |
| | 成人看護学 | 成人看護学概論 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年10月頃 |
| | | 成人看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年７月頃 |
| | | 成人看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年９月頃 |
| | | 成人看護学方法論Ⅲ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年６月頃 |
| | 老年看護学 | 老年看護学概論 | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年８月頃 |
| | | 老年看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | 30 | | | 令和７年12月頃 |
| | | 老年看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年４月頃 |
| | 小児看護学 | 小児看護学概論 | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年５月頃 |
| | | 小児看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年９月頃 |
| | | 小児看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年11月頃 |

| 区分 | 教育内容 | 教科目 | 単位数 | 時間数 | 施行年次及び時間数 | | | 開始時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 | 3 | |
| 専門分野 | 母性看護学 | 母性看護学概論 | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年４月頃 |
| | | 母性看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年10月頃 |
| | | 母性看護学方法論Ⅱ | 1 | 15 | | 15 | | 令和９年１月頃 |
| | | 母性看護学方法論Ⅲ | 1 | 15 | | | 15 | 令和９年４月頃 |
| | 精神看護学 | 精神看護学概論 | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年５月頃 |
| | | 精神看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年９月頃 |
| | | 精神看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年７月頃 |
| | 看護の統合と実践 | 看護統合Ⅰ | 1 | 15 | | 15 | | 令和８年10月頃 |
| | | 看護統合Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | 令和８年12月頃 |
| | | 看護統合Ⅲ | 1 | 30 | | | 30 | 令和９年４月頃 |
| | | 看護統合Ⅳ | 1 | 15 | | 15 | | 令和８年９月頃 |
| | 小　　計 | | 32 | 885 | 255 | 555 | 75 | |
| 専門分野 | 臨地実習 | | | | | | | |
| | 基礎看護学 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | 30 | | | 令和８月１月頃 |
| | | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 60 | | 60 | | 令和９年１月頃 |
| | 地域・在宅看護論 | 地域・在宅看護論実習Ⅰ | 2 | 60 | | | 60 | 令和９年５月頃 |
| | | 地域・在宅看護論実習Ⅱ | 2 | 60 | | | 60 | 令和９年５月頃 |
| | 成人看護学 | 成人看護学実習 | 2 | 90 | | | 90 | 令和９年５月頃 |
| | 老年看護学 | 老年看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | | 30 | 令和９年５月頃 |
| | | 老年看護学実習Ⅱ | 1 | 45 | | | 45 | 令和９年５月頃 |
| | 小児看護学 | 小児看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | | 30 | 令和９年10月頃 |
| | | 小児看護学実習Ⅱ | 1 | 45 | | | 45 | 令和９年５月頃 |
| | 母性看護学 | 母性看護学実習 | 2 | 60 | | | 60 | 令和９年５月頃 |
| | 精神看護学 | 精神看護学実習 | 2 | 90 | | | 90 | 令和９年５月頃 |
| | 看護の実践と統合 | 統合実習 | 2 | 90 | | | 90 | 令和９年11月頃 |
| | 小　　計 | | 19 | 690 | 30 | 60 | 600 | |
| 科目総単位数・時間数 | | | 74 | 2130 | 720 | 735 | 675 | |

## 9．教科外活動

学習目的：教科外活動を通して、主体性、創造性、協調性、感性を養う。また自己発見や個々の役割を認識する中で、豊かな人間性を養う機会とする。

※数字は時間数

| 項　目 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 小計 | ね　ら　い |
|---|---|---|---|---|---|
| 入学式・始業式 | 4 | 4 | 4 | 12 | 本校の学生としての自覚をもち、学ぶ姿勢を養う動機づけをする。 |
| ガイダンス | 8 | 2 | 2 | 12 | 学校の概要や教育理念、履修内容及び方法を理解するとともに、学習の動機づけをする。 |
| 新入生歓迎会 | 4 | 4 | 4 | 12 | 新入生を交え様々な活動を通して、学生相互、教職員と交流することで連帯感や親睦を図る。 |
| 文化活動 | 6 | 6 | 6 | 18 | 人間の生き方や感性を養うようなDVD鑑賞を行うライブラリーアワーを設ける。<br>また文化活動（俳句会など）に取り組み、地域の理解や感性を高める機会をもつ。 |
| 健康診断 | 4 | 4 | 4 | 12 | 自己の健康状態を知り、健康管理の意識を高める。 |
| 防災訓練 | 2 | 2 | 2 | 6 | 消火方法、避難方法などを身につけるとともに、防災に対する意識を高める。 |
| 卒業生送別会 | 2 | 2 | 2 | 6 | 学生の主体性・協調性・創造性を培うとともに、卒業生の卒業を祝い、よき思い出をつくる。 |
| 卒業式 | 4 | 4 | 4 | 12 | 看護を担う専門職業人となることの決意を新たにし、将来への目標をもつ。 |
| 終業式 | 1 | 1 |  | 2 | 自己を振り返り、本校の学生としての自覚と学ぶ姿勢を養う動機づけをし、次年度に向けた課題を明確にする。 |
| ＨＲ<br>他 | 22 | 22 | 23 | 67 | 学生間の交流の機会を通して、ともに考え学級づくりを図る。 |
| 実習オリエンテーション実習総括 | 10 | 14 | 48 | 72 | 実習全体像を把握し、実習の心構えと意欲をもつ。また看護実践の評価を共有し、自己の成長につなげる。 |
| 国家試験対策 | 10 | 10 | 98 | 118 | 国試合格に向けた3年間の取り組みを行い、資格取得を目指すとともに生涯学習し続ける意識を高める。 |
| 合　計 | 77 | 75 | 197 | 349 |  |

## 10. 教育課程進度表

| 区分 | 科目 | 単位数 | 学年 月 / 時間 | 1年次 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 2年次 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 3年次 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎分野 | 文章表現 | 1 | 30 | | | | | | | | ◆ | → | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育学 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 情報科学 | 1 | 30 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人の心理と行動 | 1 | 15 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 生涯発達心理学 | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人間関係論 | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人間と社会 | 1 | 30 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 倫理学 | 1 | 15 | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 英語 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小　計 | 9 | 225 | 7単位（180時間） | | | | | | | | | | | | 2単位（45時間） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門基礎分野 | 解剖生理学Ⅰ | 1 | 30 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 解剖生理学Ⅱ | 1 | 30 | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 代謝栄養学 | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 感染・免疫学 | 1 | 15 | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 病理学 | 1 | 15 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 病態生理学Ⅰ | 1 | 30 | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 病態生理学Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 病態生理学Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 看護学的疾病理解論 | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 薬理学 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 現代医療論 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 公衆衛生 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会福祉 | 1 | 15 | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 関係法規 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小　計 | 14 | 330 | 10単位（255時間） | | | | | | | | | | | | 4単位（75時間） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門分野 | 基礎看護学概論 | 1 | 30 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論Ⅳ | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論Ⅴ | 1 | 30 | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | | | | | | | |
| | 生活と家族 | 1 | 15 | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地域と多職種連携 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | |
| | 地域・在宅看護論概論 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護論方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護論方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護論実習Ⅰ | 2 | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護論実習Ⅱ | 2 | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 成人看護学概論 | 1 | 30 | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学方法論Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 老年看護学概論 | 1 | 30 | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 老年看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 老年看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 老年看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 老年看護学実習Ⅱ | 1 | 45 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 小児看護学概論 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小児看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小児看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小児看護学実習Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | | | | | | |
| | 小児看護学実習Ⅱ | 1 | 45 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 母性看護学概論 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 母性看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | |
| | 母性看護学方法論Ⅱ | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | |
| | 母性看護学方法論Ⅲ | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 母性看護学実習 | 2 | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 精神看護学概論 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 精神看護学方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 精神看護学方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | |
| | 精神看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 看護統合Ⅰ | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | | |
| | 看護統合Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | |
| | 看護統合Ⅲ | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | |
| | 看護統合Ⅳ | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | → | | | | | | | | | | | | | |
| | 統合実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◆ | ◆ | | | |
| | 小　計 | 51 | 1575 | 10単位（285時間） | | | | | | | | | | | | 22単位（615時間） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総　計 | | 74 | 2130 | 27単位（720時間） | | | | | | | | | | | | 28単位（735時間） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

# Ⅱ．教育内容

# １．基礎分野

１）科学的思考の基盤
⑴　文章表現　・・・・・・・・・　23
⑵　教育学　・・・・・・・・・　24
⑶　情報科学　・・・・・・・・・　25
２）人間と生活・社会の理解
⑴　人の心理と行動　・・・・・・・・・　26
⑵　生涯発達心理学　・・・・・・・・・　27
⑶　人間関係論　・・・・・・・・・　28
⑷　人間と社会　・・・・・・・・・　29
⑸　倫理学　・・・・・・・・・　31
⑹　英語　・・・・・・・・・　32

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 文章表現 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 論理的な文章の作成による表現方法を身につける。 |
| 目標 | 1　文章作成の筋道を理解し、それを身につける必要性がわかる。<br>2　文章により自己の主張を論理的にすすめる方法がわかる。<br>3　論理的に文章を書くための表現方法や文章構成を習得する。<br>4　論理学の知識を活用し、論文作成ができる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜論理的な文章を書く技術＞<br>・論理性のある文章を書くための表現方法や文章構成を学ぶ。 | 1）論理的な文章<br>⑴　文と文章<br>⑵　話し言葉と書き言葉の違い<br>2）文節と文成分<br>⑴　文節と分成分とは | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | | | | |
| 3 | | 1）文の種類（構造）<br>⑴　文の構造とは<br>⑵　主観的な文章と客観的な文章<br>⑶　二義的な文、ねじれ文 | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | 1）文の種類（意味）<br>⑴　事実文と意見文<br>2）文の接続<br>⑴　文と文の関係<br>⑵　接続関係と接続語の正しい使い方 | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | 1）論理的な文章の作成<br>⑴　文章作成の実際<br>⑵　指示語を使った文章作成の実際 | | |
| 8 | ＜論文作成＞<br>・与えられた課題を論理学の知識を活用し、論文作成する。 | 1）演習の進め方<br>2）課題の提示、選択<br>3）文献検索<br>4）論文作成 | 講義<br>演習<br>（14ｈ） | 非常勤講師<br>（２名） |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | 試験（筆記試験：１ｈ）<br>（小論文試験：１ｈ） | | 筆記試験<br>小論文<br>試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（30点）、レポート（70点） |
| 参考文献と資料 | |
| 備　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 教育学 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　人の発達と学習を理解し、学習の原理について学ぶ。さらに教育的視野から患者指導につながる内容を学ぶ。<br>目標　1　成長・発達する人間にとっての教育の意味を理解する。<br>2　患者指導につながる、教育・指導の基本について理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜人間の成長と教育の意義＞<br>・学ぶことと教えることについて学ぶ。 | 1）なぜ教育が大切なのか<br>2）生涯学習社会を生きる<br>3）教える準備にとりかかる | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ・人の発達を理解する。 | 1）人の発達の特徴と認知能力の発達の理解<br>2）自己の発達の理解・対人関係の発達の理解 | | |
| 3 | ・学習の原理を理解する。 | 1）学習の特徴の理解<br>2）知識・技能・態度の学習の理解 | | |
| 4 | ＜指導の基本＞<br>・指導者の役割と姿勢について理解する。<br>・指導の設定と効果的な指導について理解する。 | 1）指導者のさまざまな役割と姿勢<br>2）指導の設定：学習目標の設定<br>3）指導方法：効果的な指導 | | |
| 5 | | 1）評価の目的の理解と評価の構成要素<br>2）評価目標の選択 | | |
| 6 | ・学習の評価について学ぶ。 | 1）学習意欲・コミュニケーションの技法<br>2）ディスカッションを理解し導く<br>3）ディスカッションの活性化 | | |
| 7 | ＜様々な指導の工夫＞<br>・教育効果に影響を与える背景について理解する。 | | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 看護のための教育学　医学書院 |
| 備　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 情報科学 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 情報処理システムについて学び、コンピューターの基本的操作と活用方法を習得する。 |
| 目標 | 1　情報科学の基本的理論を学ぶ。(情報リテラシー、情報倫理含む)<br>2　コンピューターの機構・特性を理解し、基本的な操作方法を習得する。<br>3　情報化社会における個人情報保護やセキュリティ、情報の取り扱いについて理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜情報科学の基礎＞<br>・情報科学に関する基本的考え方を学ぶ。 | 1）情報科学とは<br>⑴　情報科学の考え方 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜情報化社会＞<br>・情報ネットワーク社会の特質とそれが社会及び人間に及ぼす影響について学ぶ。<br>・情報の取り扱いに関する考え方とその方法について学ぶ。 | 1）情報ネットワーク社会、情報リテラシー<br>⑴　情報ネットワーク社会の変革<br>①情報社会システム<br>⑵　情報ネットワーク社会の展望<br>2）情報の取り扱いについて<br>⑴　必要な情報の獲得<br>⑵　情報倫理　個人情報保護と著作権<br>⑶　セキュリティ | | |
| 3 | 試験(1h)･まとめ(1h) | | 筆記試験 | |
| 4 | ＜コンピューターの基礎知識＞<br>・コンピューターの特徴を理解し、基礎的操作を習得する。 | 1）コンピューターのしくみと基本ソフト（OS）に関する知識<br>2）ワープロ・ソフトの基本操作<br>3）表計算ソフトの基本操作－グラフ作成<br>4）パワーポイントの基本的操作 | 講義<br>演習<br>(10h) | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | まとめ（3h） | | | |
| 15 | 試験（1h） | | 実技試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（50点）、実技試験（50点） |
| 参考文献と資料 | |
| 備考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 人の心理と行動 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | 目的　人間の心理と思考及びそのメカニズム、人間の行動との関連について理解する。<br>目標　1　人間の心理や思考の仕組みについて理解する。<br>2　人間の心理と行動についての関係を理解する。<br>3　問題行動への対応について学ぶ。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜心理学とは＞<br>・人間理解のための心理学を学ぶ意味を理解する。 | 1）心理学とはどのような学問か<br>2）心理学の歴史 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜感覚・知覚の心理と記憶の心理＞<br>・感覚知覚について理解する。<br>・記憶の仕組みを理解する。 | 1）感覚<br>2）知覚<br>3）記憶のしくみ<br>4）日常記憶<br>5）高齢者の記憶 | | |
| 3 | ＜感情・動機の心理＞<br>・感情や動機づけについて理解する。 | 1）感情・情緒<br>2）動機・欲求 | | |
| 4 | ＜性格・知能の心理＞<br>・性格形成とその障害、知的機能について理解する。 | 1）性格に関する概念と用語<br>2）性格理論<br>3）パーソナリティーの障害と成熟<br>4）知的機能と創造性 | | |
| 5 | ＜社会・集団の心理＞<br>・社会集団における心理や社会的態度について理解する。 | 1）対人認知<br>2）社会的態度<br>3）社会的スキル<br>4）集団の心理 | | |
| 6 | ＜健康の心理と人間理解＞<br>・人間の認知と行動の関連について理解する。 | 1）人間行動の理解と心理学<br>2）ストレス理論<br>3）主観的統制感と健康 | | |
| 7 | ＜行動する人間の理解＞<br>・人間の行動のとらえ方を理解する。<br>・問題行動の対応について学ぶ。 | 1）行動の科学：行動とは<br>2）行動の科学：原因の考え方<br>3）行動科学の実践<br>(1)　問題行動を改善するには<br>(2)　ヒューマンエラーについて | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 看護学生のための心理学　医学書院 |
| 備　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 生涯発達心理学 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　人間のライフサイクルにおける発達を心理学的な視点から捉えて理解する。<br>目標　1　発達にかかわる基本概念を理解する。<br>2　人間の発達を心理学的視点から学ぶ。<br>3　誕生から老年期にいたる各ライフステージの心身の発達の特徴および健康上の問題と支援を理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜人間と発達＞<br>・発達心理学に関する基礎的知識を学ぶ。 | 1）発達の定義・原理<br>2）発達に影響を及ぼす因子 | 講義 | 非常勤講師 |
| 3 | ＜自我の発達＞<br>・理論を通じ自我の発達について理解する。 | 1）フロイトの発達理論<br>2）エリクソンの発達理論 | | |
| 4 | ＜認知の発達＞<br>・理論を通じ認知の発達について理解する。 | 1）ピアジェの発達理論 | | |
| 5 | ＜愛着の発達＞<br>・理論を通じ愛着の発達について理解する。 | 1）ボウルビィの発達理論<br>2）ホスピタリズムと母性剥奪 | | |
| 6 | ＜言語の発達＞<br>・言語の発達について理解する。 | 1）言語の発達<br>2）言語の機能 | | |
| 7<br>8 | ＜発達理論と発達課題＞<br>・様々な発達理論と発達課題について学ぶ。 | 1）レビンソンの発達理論<br>2）ハヴィガーストの発達理論と発達課題 | | |
| 9 | ＜胎児期の心と体＞<br>・胎児期の特徴と発達上の問題を理解する。 | 1）胎児期の心と身体の特徴<br>2）発達に関わる問題と発達に影響を及ぼす因子<br>3）発達に必要な支援 | | |
| 10<br>11 | ＜乳幼児期の心と体＞<br>・乳幼児期・幼児期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。 | 1）乳幼児の心と身体の特徴<br>2）身体・心理・社会的側面の発達<br>3）発達に関わる健康上の問題<br>4）発達に必要な支援 | | |
| 12 | ＜児童期＞<br>・児童期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。 | 1）児童期の心と身体の特徴<br>2）身体・心理・社会的側面の発達<br>3）発達に関わる健康上の問題<br>4）発達に必要な支援 | | |
| 13 | ＜思春期・青年期＞<br>・思春期青年期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。 | 1）思春期・青年期の心と身体の特徴<br>2）身体・心理・社会的側面の発達<br>3）発達に関わる健康上の問題<br>4）発達に必要な支援 | | |
| 14 | ＜成人期の特徴＞<br>・成人期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。 | 1）成人期の心と身体の特徴<br>2）身体・心理・社会的側面の発達<br>3）発達に関わる健康上の問題<br>4）発達に必要な支援 | | |
| | ＜老年期の特徴＞<br>・老年期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。 | 1）老年期の心と身体の特徴<br>2）身体・心理・社会的側面の発達<br>3）発達に関わる健康上の問題<br>4）発達に必要な支援 | | |
| 15 | まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 看護のための人間発達学，医学書院 |
| 備　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 人間関係論 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 人間関係に関連する知識を学び、人間関係作りの基礎について理解する。 |
| 目標 | 1　人間関係の基本的意義について理解する。<br>2　人間関係に影響を与える条件を理解する。<br>3　人間関係構築に必要なコミュニケーションの基本的技法がわかる。<br>4　人間関係にもとづく心理療法について学ぶ。<br>5　自己理解を深めることで、人間関係の形成に役立てることができる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜人間存在と人間関係＞<br>・人間関係の基本的意義を理解する。 | 1）人間関係の基本的意義 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜人間関係の形成＞<br>・人間関係に影響を与える諸条件について学ぶ。 | 1）人間関係形成に影響を与える条件<br>⑴　言葉の発達<br>⑵　価値観の影響<br>⑶　思い込みの影響 | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | ＜コミュニケーション＞<br>・人間関係構築のためのコミュニケーションの実際を理解する。 | 1）コミュニケーションの基本概念<br>2）コミュニケーションの発達史<br>3）コミュニケーションの実際 | 講義<br>演習<br>（4h） | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | ＜カウンセリング＞<br>・カウンセリングについての基礎を理解する。 | 1）カウンセリングとは<br>2）カウンセリングの基本的技法 | 講義 | |
| 9 | | | | |
| 10 | ＜心理的問題と心理療法＞<br>・人間関係にもとづく心理療法について学ぶ。 | 1）心理的問題<br>2）心理療法<br>⑴　来談者中心療法<br>⑵　精神分析療法<br>⑶　行動療法　など | | |
| 11 | | | | |
| 12 | ＜自己理解＞<br>・様々な取り組みを通して、自己理解を深めることで、人間関係形成に役立てる。 | 1）「自己」を知る。<br>2）感受性訓練<br>⑴　自己を感じる、他者を感じる<br>⑵　関係性を味わう<br>⑶　集団を感じ | 講義<br>演習<br>（4h） | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | まとめ（1h）・試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　　医学書院 |
| 備　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 人間と社会 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　社会や地域環境に関する様々な知識を学び、人が生活者として暮らすこと、暮らしていくことの理解を深める。<br>目標　1　社会と人間の関係性について学ぶ。<br>2　社会における様々な問題やその対応について学び、人間の生活への影響について理解する。<br>3　西濃地域の歴史と文化・慣習やその生活について学び、看護の対象である人間やその生活に対する理解を深める。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜社会＞<br>・社会の意味と社会の成り立ちを学ぶ。<br>・伝統社会と現代社会の特徴を学ぶ。 | 1）「社会」の意味<br>2）人間は社会の中で人間になる<br>3）社会の成り立ち<br>4）伝統社会と近代社会<br>5）現代社会の特徴と社会変動 | 講義 | 非常勤講師 |
| 3<br>4 | ＜個人の生活の理解＞<br>・人が生活者として暮らすことや日常生活のとらえ方を学ぶ。<br>・ライフスタイル・生活様式と保健・医療・看護のつながりを学ぶ。 | 1）日常生活と日常性<br>2）日常生活と健康問題、多面的なとらえ方<br>3）対象者の生活理解と把握、生活をとらえる姿勢<br>4）ライフスタイル・生活様式と保健・医療・看護<br>5）保健・医療・看護とQOL | | |
| 5 | ＜家族の構造と機能＞<br>・家族の定義や機能、これからの家族について学ぶ。 | 1）家族の定義<br>2）家族の機能<br>3）家族のこれから | | |
| 6 | ＜集団・組織・職場＞<br>・人間と集団・組織との関係について学ぶ。<br>・職場の社会的意義と職場における問題について学ぶ。 | 1）集団とは<br>2）フォーマル・インフォーマルな組織<br>3）社会と職場<br>4）職場集団における諸問題<br>(1)　職場の社会的意義<br>(2)　職場集団における問題 | | |
| 7<br>8 | ＜地域社会＞<br>・地域社会の多様な広がりと希薄化する地域社会の状況を学ぶ。 | 1）地域社会の再発見、変動するコミュニティ<br>2）人々の地域社会との関わり<br>(1)　社会的ネットワーク<br>3）地域におけるグルーバリゼーション<br>(1)　地域包括的集団の活動：コミュニティ形成と町づくり運動 | | |
| 9 | ＜現代社会における問題＞<br>・現代社会における様々な視点の諸問題に対して学ぶ。<br>・社会調査の意義を学ぶ。 | 1）現代社会における諸問題<br>(1)　少子化<br>(2)　子供の貧困<br>(3)　青少年と家族<br>(4)　高齢者と家族<br>(5)　家族と近隣コミュニケーションの変化<br>2）社会調査の意義 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | ＜西濃の歴史と文化＞<br>＜交通の要衝大垣＞<br>・地域社会の歩みを人々の生活面からみつめ、人々の生活は地域社会と深く関わっていることを知る。 | ＜西濃の歴史と文化＞<br>1）地理的条件<br>2）古代の美濃<br>3）江戸時代の大垣<br>4）近現代の西濃<br>＜交通の要衝大垣＞<br>1）美濃路大垣宿･墨俣宿<br>2）中仙道赤坂宿<br>3）船町湊 | 講義 | 非常勤講師 |
| 11 | ＜城下町大垣＞<br>・大垣が戸田家十万石の城下町として、都市文化の基盤が築かれ文教と産業が調和した豊かな郷土に発展したことを知る。<br>＜生命を守る人々の知恵＞<br>・西濃地域での戦いや災害から生命を守る人々の努力があったことを知り、生命の尊厳について考える。 | ＜城下町大垣＞<br>1）大垣城の築城<br>2）城下町の名残り<br>3）藩主の美意識と文教政策<br>＜生命を守る人々の知恵＞<br>1）戦場の出来事<br>2）戦争奴隷<br>3）人狩りの禁止<br>4）関ヶ原合戦と人狩り | | |
| 12<br>13 | ＜市内史跡見学＞<br>・地域の史跡をたどり、昔の人々の生活に関心を深める。 | グループ見学<br>1）大垣城と大垣町<br>2）美濃路と大垣宿<br>3）芭蕉と大垣<br>4）船町湊の盛衰 | 演習（6ｈ） | |
| 14 | ＜まとめと発表＞<br>・グループのまとめから、地域文化の理解を深める。 | | | |
| 15 | まとめ（1ｈ）･試験（1ｈ） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 健康支援と社会保障①　健康と社会・生活　メディカ出版 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 倫理学 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | 目的　倫理とは何かを理解し、生命や医療について倫理学的に考える姿勢を身につける。<br>目標　1　「よく生きる」とはいかなることか、倫理学的に考える。<br>2　他者とともに「よく生きる」ことの可能性を模索する。<br>3　医療の現場で、「よく生きる」ための基盤を培う。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜倫理学の基礎＞<br>・「よく生きる」ことに対して、倫理学的に考えることで、倫理学の基礎を学ぶ。 | 1）倫理とは何か、なぜ倫理について学ぶのか。<br>（倫理学的に考える） | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜善き生と幸福＞<br>・よく生きることと幸福の違いから、人間にとっての生について考える。 | 1）功利主義の観点から倫理と幸福について | | |
| 3 | ＜絶対的善と相対的善＞<br>・絶対的善と相対的善の違いを考えることで倫理的判断について学ぶ。 | 1）義務と権利について<br>（カントの理論から考える） | | |
| 4 | ＜手段の善さと目的の善さ＞<br>・手段の善さと目的の善さの違いについて考えることで、善の意味を学ぶ。 | 1）看護師のあるべき姿とは<br>（徳倫理の観点から考える） | | |
| 5 | ＜医療従事者と患者＞<br>・医療従事者―患者間における望ましい関係について考える。 | 1）インフォームド・コンセントの意義 | | |
| 6 | ＜生誕の倫理問題＞<br>・医療現場における倫理的問題を理解する。 | 1）生殖医療に関連する倫理的問題 | | |
| 7 | ＜死をめぐる問い＞<br>・死のあり方を考える。 | 1）安楽死・終末医療に関わる問題 | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | |
| 備　考 | |

| 分野 | 基礎分野 | 授業科目 | 英語 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 看護・医療や福祉等の問題について学びながら、英語力を身につける。 |
| 目標 | 1　看護の現場で役に立つ基礎的コミュニケーション能力を養う。<br>2　看護、医療関係の基本語彙を学ぶ。<br>3　英文で書かれた看護論文や医療問題が理解できる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜英会話＞<br>・看護や医療の現場において必要と思われる会話を学ぶことにより、コミュニケーション能力を養う。 | 1）自己紹介と挨拶 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | | 1）症状を聞く | | |
| 3 | | 1）検温　検査 | | |
| 4 | ＜英語＞<br>・英文の基本語彙を学ぶ。<br>・看護、医療、福祉に関する話題を多読、精読しながら直読直解に努める。 | Welcoming a Patient、Taking Vital Signs<br>患者を迎える、バイタルサイン測定 | | |
| 5 | | Pain Assessment、Feeling So Sick!<br>痛みのアセスメント、症状 | | |
| 6 | | Transferring a Patient<br>体位変換/移乗 | | |
| 7 | | Medical Departments、Review & Medical Terminology<br>診療科目　まとめと医学英語の構造 | | |
| 8 | | Personal Care<br>日常生活援助 | | |
| 9 | | Giving Medication to a Patient<br>与薬 | | |
| 10 | | Elimination（Bowel movement/Urination）<br>排泄（排便/排尿） | | |
| 11 | | Chronic Diseases<br>慢性疾患 | | |
| 12 | | Critical Care / Operating Room<br>急性期/手術室 | | |
| 13 | | Pregnancy Check-up<br>妊婦健診 | | |
| 14 | | Review & Medical Reading<br>まとめと医学英語読解 | | |
| 15 | まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（70点）、小テスト（30点） |
| 参考文献と資料 | Talking with Your Patients in English　㈱成美堂 |
| 備考 | 英和辞典<br>講義に関する文献等を調べて臨む |

# 2．専門基礎分野


1）人体の構造と機能
(1) 解剖生理学Ⅰ ・・・・・・・・・ 35
(2) 解剖生理学Ⅱ ・・・・・・・・・ 37
(3) 代謝栄養学 ・・・・・・・・・ 39
2）疾病の成り立ちと回復の促進
(1) 感染・免疫学 ・・・・・・・・・ 41
(2) 病理学 ・・・・・・・・・ 42
(3) 病態生理学Ⅰ ・・・・・・・・・ 43
(4) 病態生理学Ⅱ ・・・・・・・・・ 44
(5) 病態生理学Ⅲ ・・・・・・・・・ 45
(6) 看護学的疾病理解論 ・・・・・・・・・ 46
(7) 薬理学 ・・・・・・・・・ 47
3）健康支援と社会保障制度
(1) 現代医療論 ・・・・・・・・・ 49
(2) 公衆衛生 ・・・・・・・・・ 50
(3) 社会福祉 ・・・・・・・・・ 51
(4) 関係法規 ・・・・・・・・・ 52

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 解剖生理学Ⅰ<br>（人体の構造）<br>（呼吸器・循環器）<br>（消化器） | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　人体を構成する各器官の形態と機能を系統的に理解する。<br>目標　1　人体の様々な形態をもった器官を系統化して理解する。<br>2　バイタルサインを読み取り、アセスメントする力のために、生命現象の基本である呼吸・循環・体温調節のしくみを理解する。<br>3　人が食べ物を摂取し、栄養素が代謝されるまでの過程を系統立てて理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4 | ＜解剖生理学のための基礎知識＞<br>・人体の概要を学び、人体の発生とその構成を理解する。 | 1）構造からみた人体<br>2）人体の様々な器官<br>3）素材からみた人体<br>(1) 細胞の構造<br>(2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成<br>(3) 細胞膜の構造と機能<br>(4) 細胞の増殖と染色体<br>(5) 分化した細胞がつくる組織<br>(6) 腔所を包む組織 | 講義 | 非常勤講師 |
| 5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11 | ＜生命現象の基本＞<br>・呼吸・循環・体温調節のしくみを理解する。<br><br>＜栄養の消化と吸収＞<br>・栄養の消化と吸収・代謝の過程を系統立てて理解する。 | ＜呼吸と血液のはたらき＞<br>1）呼吸器の構造<br>2）呼吸<br>(1) 内呼吸と外呼吸<br>(2) 呼吸器と呼吸運動<br>(3) 呼吸気量<br>(4) ガス交換とガスの運搬<br>(5) 肺循環と血液<br>(6) 呼吸運動の調節<br>3）血液<br>(1) 血液の組織と機能<br>(2) 赤血球と白血球、血小板<br>(3) 血漿タンパク質<br>(4) 血液凝固、血液型<br>＜血液の循環と調節＞<br>1）循環器系の構造<br>2）心臓の構造と機能<br>(1) 心臓の位置と構造<br>(2) 心臓の拍出機能、興奮と伝達：心電図<br>3）末梢循環系の構造<br>(1) 血管の構造<br>(2) 肺循環と体循環<br>4）血液循環の調節<br>(1) 血圧と血流量、その調節<br>5）リンパとリンパ管 | 講義 | 非常勤講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12<br>13 | | ＜身体機能の防御と適応：体温調節＞<br>１）皮膚の構造と機能<br>２）生体の防御機構<br>⑴　非特異的防御機構と特異的防御機能<br>①免疫に関与するリンパ球<br>②生体防御の関連臓器<br>３）体温とその調節<br>⑴　熱の出納：体熱の産生と放散<br>⑵　体温の調節と発熱<br>＜栄養の消化と吸収＞<br>１）口・咽頭・食堂の構造と機能<br>⑴　口の構造と機能<br>①咀嚼<br>⑵　咽頭と食道の構造と機能<br>①嚥下<br>２）腹部消化管の構造と機能<br>⑴　胃の構造と作用<br>①胃の分泌機能（胃液の分泌機序と成分）<br>⑵　小腸の構造と機能<br>①小腸における消化吸収<br>⑶　大腸の構造と機能<br>３）膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能<br>⑴　膵臓と膵液<br>⑵　肝臓と胆嚢の機能<br>４）腹膜 | 講義 | 非常勤<br>講師 |
| 14 | ＜解剖見学＞<br>・人体解剖を見学し、人体の構造を理解する。 | １）人体解剖の見学 | 演習<br>（２ｈ） | 非常勤<br>講師 |
| 15 | まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ） | | 筆記試験 | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［１］　解剖生理学，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　　成人看護学［12］　皮膚，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　　成人看護学［15］　歯・口腔疾患，医学書院 | | | |
| 備　　考 | | | | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 解剖生理学Ⅱ<br>（内分泌、体液）<br>（生殖器、神経系）<br>（感覚器・運動器） | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　人体を構成する各器官の形態と機能を系統的に理解する。<br>目標　1　人間の内部変化や外部の環境変化に対し、常に一定の恒常性を保つしくみを理解する。<br>　　2　人間が外部環境を認識するしくみと、それを調整するしくみを理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4 | ＜内臓機能の調節＞<br>・身体の内部、外部環境の変化に伴う自律神経の調整機能について理解する。<br>・人体の生命活動を調整するホルモンを生成する臓器とその作用を理解する。 | 1）自律神経による調節<br>⑴　自律神経の機能と構造<br>2）内分泌系による調節<br>⑴　内分泌とホルモン<br>①ホルモンの作用機序<br>⑵　ホルモンの構造と作用機序<br>3）全身の内分泌腺と内分泌細胞<br>⑴　視床下部－下垂体系<br>⑵　甲状腺と副甲状腺<br>⑶　膵臓<br>⑷　副腎<br>⑸　性腺<br>4）ホルモン分泌の調整<br>5）ホルモンによる調整の実際 | 講義 | 非常勤講師 |
| 5 | ＜体液の調節と尿の生成＞<br>・泌尿器系の解剖・生理について学び、体液の調節と尿の生成について理解する。 | 1）腎臓<br>⑴　腎臓の機能と構造<br>2）排尿路<br>⑴　排尿路の構造<br>⑵　体液の調整 | 講義 | 非常勤講師 |
| 6 | ＜生殖・発生のしくみ＞<br>・生殖器系の解剖・生理について学び、生殖・発生のしくみを理解する。 | 1）男性生殖器の構造と機能<br>⑴　男性生殖器の構造<br>⑵　男性の生殖機能 | | |
| 7 | | 2）女性生殖器<br>⑴　女性生殖器の構造<br>⑵　女性の生殖機能<br>3）受精と胎児の発生<br>⑴　生殖細胞と受精、着床<br>⑵　胎児と胎盤 | 講義 | 非常勤講師 |
| 8 | ＜情報の受容と処理＞<br>・外界の刺激を受容する仕組み・各刺激に応じた反応の仕組みを理解する。 | 1）神経系の構造と機能<br>⑴　ニューロン、シナプス<br>⑵　神経系の構造<br>2）脊髄と脳<br>⑴　脊髄の構造と機能<br>⑵　脳の構造と機能<br>①脳幹、小脳、間脳、大脳の構造と機能<br>②脳室と髄膜<br>③脳脊髄駅の循環 | 講義 | 非常勤講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9<br>10<br>11<br>12 | | 3）脊髄神経と脳神経<br>(1) 脊髄神経の構造と機能<br>(2) 脳神経の構造と機能<br>4）運動機能と下行伝導路<br>5）感覚機能<br>6）体性感覚と上行伝達路<br>7）眼の構造と視覚<br>8）耳の構造と聴覚・平衡覚<br>9）味覚と嗅覚<br>10）疼痛<br>(1) 痛みの分類<br>(2) 疼痛の発生機序<br>11）脳の統合機能<br>(1) 脳の活動測定と脳のリズム<br>(2) 記憶<br>(3) 本能行動と情動行動<br>(4) 内臓調節機能<br>(5) 中枢神経系障害 | 講義 | 非常勤<br>講師 |
| 13<br>14 | ＜からだの支持と運動＞<br>・骨格系と筋系との運動する関係を理解する。<br>・筋肉運動の仕組みを理解する。 | 1）骨格とはどのようなものか<br>2）骨の連結<br>3）骨格筋<br>4）体幹の骨格と筋<br>5）上肢の骨格と筋<br>6）下肢の骨格と筋<br>7）頭頸部の骨格と筋<br>8）筋の収縮<br>(1) 骨格筋の収縮機構<br>(2) 骨格筋収縮の特徴<br>(3) 不随意筋の収縮の特徴<br>9）運動と代謝<br>(1) 運動の強度<br>(2) エネルギー代謝<br>(3) 運動時のエネルギー供給 | 講義 | 非常勤<br>講師 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［1］ 解剖生理学，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　　成人看護学［9］ 女性生殖器，医学書院 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 代謝栄養学 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　生命維持に必要な栄養素の構造と性質、生体内の物質代謝を学び、人間の生命現象を科学的に理解する。<br>人間の生命維持、成長発達、健康維持に必要な栄養について理解する。また、健康障害時の食事療法の基礎を理解する。<br>目標　1　生体の成り立ちと生体を構成している基本物質について理解する。<br>2　三大栄養素（糖質・脂質・たんぱく質）の代謝を理解する。<br>3　ビタミン・ホルモンの役割を知り、生体の恒常性維持機構を理解する。<br>4　生存のために必要な栄養のアセスメントについて理解する。<br>5　ライフサイクルに応じた栄養の特徴を理解する。<br>6　疾病の予防や治療における食事療法の基礎を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜生体の成り立ちと生体分子＞<br>・生体の成り立ちと生命維持に必要な栄養素について理解する。 | 1）生体の成り立ち<br>2）個体、器官、組織、細胞<br>3）真核細胞の構造と機能<br>4）生体を構成する物質<br>5）生体で起きている化学反応<br>6）生命維持に必要な栄養素<br>糖質・脂質・蛋白質・ビタミン | 講義 | 非常勤講師 |
| 2<br>3<br>4 | ＜生体内の物質代謝＞<br>・生命を維持していくために、物質がどのように代謝され利用されるかを理解する。 | 1）酵素<br>2）糖質代謝<br>3）脂質代謝<br>4）アミノ酸とタンパク質の代謝<br>5）エネルギー代謝の統合と制御 | | |
| 5 | ＜核酸と遺伝情報＞<br>・人体の構造や機能で重要な役割をもつ遺伝子の本体、発現の機構を理解する。 | 1）核酸代謝<br>2）遺伝情報 | | |
| 6<br>7 | ＜生体の恒常性維持＞<br>・体液の役割を理解する。<br>・ビタミンの役割、作用、栄養学的意義について理解する。 | 1）体液<br>⑴　水<br>⑵　無機質と微量成分<br>⑶　酸・塩基平衡<br>2）ビタミン<br>⑴　水溶性ビタミン<br>⑵　脂溶性ビタミン | | |
| 8 | ＜栄養のアセスメント＞<br>・栄養所要量とエネルギー所要量の算出方法について理解する。 | 1）栄養のアセスメント<br>2）栄養所要量の定義<br>3）栄養所要量、エネルギー必要量の算定<br>4）各種栄養素の所要量 | 講義 | 非常勤講師 |
| 9<br>10 | ＜ライフサイクルと栄養＞<br>・それぞれのライフステージに必要な栄養の特徴を理解する。 | 1）食文化<br>2）運動と栄養<br>3）ライフステージにおける健康生活と栄養 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11<br>12<br>13<br>14 | ＜臨床栄養＞<br>・臨床栄養の意義と食事療法の概要をふまえて、食事療法の基礎を学ぶ。 | 1）臨床栄養の意義<br>2）食事療法の概要<br>3）疾患別食事療法<br>・消化器系疾患の食事療法<br>・内分泌・代謝疾患の食事療法<br>・循環器系疾患の食事療法<br>・腎疾患の食事療法 | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ） | | 筆記試験 | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | |
| 参考文献と資料 | わかりやすい生化学　　ヌーヴェルヒロカワ<br>ナーシンググラフィカ　臨床栄養学　　メディカ出版<br>糖尿病食事療法のための食品交換表　日本糖尿病協会・文光堂 | | | |
| 備　　考 | | | | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 感染・免疫学 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 感染と感染防御について学び、感染予防および対処方法を理解する。 |
| 目標 | 1　病原体の種類と病原因子について理解する。<br>2　病原体の感染様式と感染経路について理解する。<br>3　感染に対する生体防御機構、特に獲得免疫の成立機構について理解する。<br>4　感染症の病原体からの制御方法について理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜微生物学の基礎＞<br>・微生物と病原微生物の特徴について理解する。 | 1）微生物と微生物学<br>2）微生物の性質<br>3）ウイルスの性質<br>4）真菌の性質 | 講義 | 非常勤講師 |
| 3<br>4<br>5 | ＜感染とその防御＞<br>・感染の様式や感染源・感染経路などと感染防御のしくみについて理解する。 | 1）感染と感染症<br>(1) 微生物感染の機構<br>(2) 感染の成立から発症後の経過<br>(3) 細菌感染・真菌感染・ウイルス感染の機構<br>2）感染に対する生体防御機構<br>(1) 免疫にかかわる細胞、組織<br>(2) 自然免疫のしくみ<br>(3) 獲得免疫のしくみ<br>(4) 粘膜免疫のしくみ<br>(5) 感染の徴候と症状<br>3）滅菌と消毒<br>4）感染症の検査と診断<br>5）感染症の治療<br>6）感染症の現状と対策 | 講義 | 非常勤講師 |
| 6<br>7 | ＜おもな病原微生物＞<br>・主な病原微生物とそれによって起こる代表的疾病との関係を理解する。 | 1）病原細菌と細菌感染症<br>(1) グラム陽性球菌：肺炎球菌<br>(2) グラム陰性好気性桿菌：緑膿菌、百日咳菌<br>(3) グラム陰性通性桿菌：インフルエンザ菌<br>(4) グラム陽性桿菌<br>(5) 抗酸菌と放散菌：結核菌<br>(6) 好気性菌：破傷風菌、ボツリヌス菌<br>(7) スピロヘータ：梅毒<br>(8) マイコプラズマ：肺炎<br>2）病原ウイルスとウイルス感染症<br>(1) ＤＮＡウイルス：<br>ヘルペスウイルス、ヒトパピローマウイルス<br>(2) ＲＮＡウイルス：<br>インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス<br>麻疹ウイルス、コクサッキーウイルス<br>ロタウイルス、風疹ウイルス<br>コロナウイルス、ノロウイルス、<br>ヒト免疫不全ウイルス<br>(3) ウイルスの臨床的分類<br>肝炎ウイルス<br>3）病原真菌と真菌感染症<br>カンジダ-アルビカンス、<br>トリコフィトン（白癬菌）属など | 講義 | 非常勤講師 |
| 8<br>(1h) | 試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［4］　微生物学，医学書院 |
| 備　考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 病理学 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　　疾病の原因、形態的・機能的変化について理解する。<br>目標　　1　病理学全体（各病変カテゴリー）の疾病構造や特徴について理解する。<br>　　2　さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化について理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜病理学で学ぶこと＞<br>・正常な人間の構造と機能が疾病におかされることによって引き起こされる形態的・機能的変化について理解する。 | 1）看護と病理学<br>⑴　病気とは<br>⑵　病理学とは<br>2）病気の原因<br>3）病気の分類 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜先天異常と遺伝性疾患＞<br>・先天異常と遺伝性疾患の原因、発生機構を理解する。 | 1）先天異常と遺伝性疾患<br>⑴　先天異常<br>⑵　遺伝性の異常と疾患<br>⑶　先天異常・遺伝性疾患の診断と治療 | | |
| 3 | ＜代謝障害＞<br>・代謝障害によって生じる主な疾患について理解する。 | 1）代謝障害<br>⑴　脂質代謝障害<br>⑵　タンパク質代謝障害<br>⑶　糖尿病・痛風・先天性代謝異常症・黄疸 | | |
| 4 | ＜循環障害＞<br>・局所性循環障害、全身性循環障害、リンパ循環障害を理解する。 | 1）循環障害<br>⑴　循環系の概要<br>⑵　局所性・全身性循環障害<br>（浮腫、充血とうっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞） | 講義 | 非常勤講師 |
| 5 | ＜炎症と免疫＞<br>・生体の防御反応としての炎症と免疫、免疫損傷と修復について理解する。 | 1）細胞・組織の損傷と修復・炎症<br>⑴　細胞・組織の損傷と適応<br>⑵　細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症<br>⑶　炎症の分類と治療 | | |
| 6 | ＜腫瘍＞<br>・腫瘍の発生病理やがんの転移等について理解する。 | 1）腫瘍<br>⑴　腫瘍の定義と分類<br>⑵　悪性腫瘍の広がりと影響<br>⑶　腫瘍の発生病理 | 講義 | 非常勤講師 |
| 7 | ＜老化と死＞<br>・個体の老化、全身諸臓器の変化、ヒトの死について理解する。 | 1）老化と死<br>⑴　個体の老化と老年症候群<br>⑵　加齢に伴う諸臓器の変化<br>⑶　個体の死 | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［1］ 病理学，医学書院 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 病態生理学１<br>（循環機能障害）<br>（呼吸機能障害）<br>（消化機能障害） | 単位数 | 1 | 時期 | １年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　　看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。<br>目標　　1　循環機能障害、呼吸機能の障害、消化機能の障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療について理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4 | ＜循環機能障害＞<br>・循環機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）循環機能障害による疾病と治療<br>⑴　症状とその病態生理<br>⑵　検査と治療・処置<br>⑶　疾患の理解<br>①虚血性心疾患　②心不全<br>③不整脈　④血圧異常<br>⑤弁膜症　⑥動脈性疾患 | 講義 | 非常勤講師 |
| 5<br>6<br>7<br>8<br>9 | ＜呼吸機能障害＞<br>・呼吸機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）呼吸機能障害による疾患と治療<br>⑴　呼吸機能の障害<br>⑵　症状とその病態生理<br>⑶　検査と治療・処置<br>⑷　疾患の理解<br>①感染症　②間質性肺疾患<br>③気道の閉塞をきたす疾患（気管支喘息等）<br>④呼吸不全　⑤肺腫瘍<br>⑥肺循環障害（肺塞栓、肺梗塞） | 講義 | 非常勤講師 |
| 10<br>11<br>12<br>13<br>14 | ＜消化機能障害＞<br>・消化機能障害がもたらす疾病とその病理生理及び治療について理解する。 | 1）消化管機能障害と治療<br>⑴　症状とその病態生理<br>⑵　検査と治療・処置<br>⑶　疾患の理解<br>①消化管の炎症と潰瘍<br>②消化管の腫瘍（胃がん、結腸・直腸がん）<br>③イレウス<br>2）肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療<br>⑴　肝臓・胆嚢の炎症<br>⑵　肝臓・胆嚢の腫瘍<br>⑶　胆汁代謝・排泄の障害 | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［2］　呼吸器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［3］　循環器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［5］　消化器，医学書院 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 病態生理学Ⅱ<br>(脳・神経機能障害)<br>(免疫機能障害)<br>(運動機能障害) | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。<br>目標　1　脳・神経機能障害、免疫機能の障害、運動機能の障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療を理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6 | ＜脳･神経機能障害＞<br>・脳・神経機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）脳神経機能障害によって起こる疾病と治療<br>⑴　症状とその病態生理<br>⑵　検査・診断と治療・処置<br>⑶　疾患の理解<br>①脳血管障害　②脳腫瘍<br>③頭部外傷　④脳脊髄液(髄液)の異常<br>⑤ギランバレー症候群<br>⑥単神経障害<br>⑦筋ジストロフィー<br>⑧脱髄・変性疾患<br>⑨脳・神経系の感染症 | 講義 | 非常勤講師 |
| 7<br>8<br>9<br>10 | ＜免疫機能障害＞<br>・免疫機能の障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）免疫機能障害と治療<br>⑴　アレルギー<br>①免疫担当細胞と伝達物質<br>②診断・検査と治療<br>③症状と疾患の理解<br>・アナフィラキシー　等<br>⑵　膠原病<br>①機序と症状の病態生理<br>②検査と治療<br>③疾患の理解<br>・関節リウマチ　・全身性エリテマトーデス<br>・シェーグレン症候群　・ベーチェット病<br>⑶　感染症と治療<br>①感染症の病態生理と症状<br>②検査・診断と治療<br>③疾患の理解<br>・皮膚軟部組織感染症<br>・悪性腫瘍自体に伴う感染症<br>・真菌感染症<br>・HIV感染症<br>・多剤耐性菌感染症 | 講義 | 非常勤講師 |
| 11<br>12<br>13<br>14 | ＜運動機能障害＞<br>・運動機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）運動機能障害による疾患と治療<br>⑴　症状と病態生理<br>⑵　診断・検査と治療と処置<br>⑶　疾患の理解<br>①外傷性の運動器疾患（骨折・捻挫・脱臼）<br>②炎症（脊椎カリエス・慢性関節リウマチ）<br>③腫瘍（良性腫瘍・悪性腫瘍）<br>④脊椎の疾患（椎間板ヘルニア）<br>⑤その他 | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ(1h)・試験(1h) | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［7］　脳・神経，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［10］　運動器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［11］　アレルギー　膠原病　感染症，医学書院 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 病態生理学Ⅲ<br>（生命維持機能障害）<br>（造血機能障害）<br>（排泄機能障害）<br>（生殖機能障害）<br>（内分泌機能障害） | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。<br>目標　1　生命維持機能障害、造血機能障害、排泄機能障害、生殖機能障害、内分泌機能障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療について理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜生命維持機能障害＞<br>・生命維持機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）生命の危機とその治療<br>⑴　ショック<br>⑵　播種性血管内凝固症候群＜DIC＞<br>⑶　多臓器不全＜MOF＞<br>⑷　死の兆候 | 講義 | 非常勤講師 |
| 4<br>5 | ＜造血機能障害＞<br>・造血機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）造血機能障害と治療<br>⑴　造血機能の障害<br>⑵　症状とその病態生理<br>⑶　検査と治療・処置<br>⑷　疾患の理解<br>①造血器の腫瘍（白血病・悪性リンパ腫等）<br>②貧血 | 講義 | 非常勤講師 |
| 6<br>7<br>8 | ＜排泄機能障害＞<br>・腎・泌尿器系の機能障害がもたらす疾病とその病理生理及び治療について理解する。 | 1）排泄機能障害と治療<br>2）症状とその病態生理<br>3）疾患の理解<br>①腎不全<br>②腎・尿路の炎症<br>③腎・尿路の腫瘍<br>④腎・尿路の通過障害 | 講義 | 非常勤講師 |
| 9<br>10<br>11 | ＜内分泌機能の障害＞<br>・内分泌・代謝障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。 | 1）内分泌機能障害と治療<br>⑴　内分泌機能の低下・亢進<br>⑵　症状とその病態生理・検査<br>⑶　疾患の理解<br>①甲状腺疾患　②糖尿病　③高脂血症<br>④肥満症とメタボリックシンドローム<br>⑤尿酸代謝障害 | 講義 | 非常勤講師 |
| 12 | ＜生殖機能障害＞<br>・生殖機能障害がもたらす疾病とその病理生理及び治療について理解する。 | 1）生殖機能障害と治療<br>⑴　男性生殖器の疾病と治療<br>①奇形、炎症、前立腺肥大、腫瘍 | 講義 | 非常勤講師 |
| 13<br>14 | | ⑵　女性生殖器の疾病と治療<br>①乳腺の疾患<br>②卵巣・卵管の疾患<br>③子宮の疾患<br>⑶　性感染症と治療 | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（1ｈ）･試験（1ｈ） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［4］　血液・造血器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　成人看護学［6］　内分泌・代謝，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　成人看護学［8］　腎・泌尿器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　成人看護学［9］　女性生殖器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　別巻4　救急看護学，医学書院 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 看護学的疾病理解論 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　主な健康障害の全体像（病態・症状・治療）について理解し、臨床判断を用いて看護につなげることができる。<br>目標　1　看護場面に必要な臨床判断の意義とプロセスがわかる。<br>2　看護の基盤となる健康障害の病態生理と治療を理解する。<br>3　健康障害の全体像をとらえることができる。<br>4　看護に活かせるように、事例を用いた状況に応じた判断を基にした看護を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜臨床判断の理解＞<br>・看護場面に必要な臨床判断と臨床推論について学ぶ。<br>＜主な健康障害の理解と看護＞<br>・主な健康障害の病態生理及び治療について既習学習をもとに理解を深める。<br>・看護に繋がる主要疾患の全体像を理解する。<br>・臨床判断を状態に応じた看護ついて理解する。 | 1．臨床判断とは<br>1）臨床判断・臨床推論とは<br>2）看護場面における臨床判断のプロセス<br>3）臨床判断に必要な力<br>＜肝硬変＞<br>1）肝硬変の理解<br>・病態、症状、治療などについて<br>2）肝硬変の病態マップづくり<br>3）事例を用いた状態に応じた看護(観察と対応)について | 講義<br>演習<br>（6h） | 専任教員 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | ＜肺がん＞<br>1）肺がんの理解<br>・病態、症状、治療などについて<br>2）肺がんの病態マップづくり<br>3）事例を用いた状態に応じた看護(観察と対応)について | 講義<br>演習<br>（6h） | 専任教員 |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | ＜心不全＞<br>1）心不全の理解<br>・病態、症状、治療などについて<br>2）心不全の病態マップづくり<br>3）事例を用いた状態に応じた看護(観察と対応)について | 講義<br>演習<br>（6h） | 専任教員 |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |

| 評価方法 | 提出課題（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［2］　呼吸器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　成人看護学［3］　循環器，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　成人看護学［5］　消化器，医学書院 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 薬理学 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　薬理学の基礎的知識と主な薬物の作用と副作用を理解する。また、医薬品の安全対策を理解する。<br>目標　1　薬理学の基礎を理解する。<br>2　臨床で使用される代表的な薬剤の種類と作用を理解する。<br>3　薬物の副作用を知るとともに、医薬品の安全対策について理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜薬理学の基礎知識＞<br>・薬理学の基礎知識を学ぶ。 | 1）薬が作用するしくみ<br>2）薬の体内動態<br>3）薬物相互作用<br>4）薬効の貴人差に影響する因子<br>5）薬物使用の有益性と危険性<br>6）薬と法<br>7）物質としての薬物分類 | 講義 | 非常勤講師 |
| 4<br>5 | ＜抗感染症薬・抗がん薬＞<br>・抗生物質などの感染症治療薬及びがん治療に関する基礎知識を学び、その作用を理解する。 | 1）感染症治療に関する基礎知識<br>2）抗菌薬<br>3）抗真菌薬・抗ウィルス薬・抗寄生虫薬<br>4）感染症の治療における問題点<br>5）がん治療に関する基礎事項<br>6）抗がん薬 | | |
| 6 | ＜免疫治療薬＞<br>・免疫反応の仕組みと免疫系に作用する薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）免疫系の基礎知識<br>2）免疫抑制薬<br>3）免疫増強薬・予防接種薬 | | |
| | ＜抗アレルギー薬・抗炎症薬＞<br>・アレルギー及び炎症に対する薬物の薬理作用を理解する。 | 1）抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬<br>2）抗炎症薬<br>3）関節リウマチ治療薬<br>4）痛風・高尿酸血症治療薬 | | |
| 7 | ＜末梢での神経系に作用する薬物＞<br>・末梢神経に作用する薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）神経系による情報伝達と薬物<br>2）交感神経作用薬<br>3）副交感神経作用薬<br>4）筋弛緩薬、局所麻酔薬 | | |
| 8 | ＜中枢神経系に作用する薬物＞<br>・中枢神経系に作用する薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）中枢神経系のはたらきと薬物<br>2）全身麻酔薬<br>3）催眠薬・抗不安薬<br>4）抗精神病薬<br>5）抗うつ約・気分安定薬<br>6）パーキンソン症候群、抗てんかん薬<br>7）麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬 | 講義 | 非常勤講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9<br>10 | ＜循環器系に作用する薬物＞<br>・循環器系に作用する薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）降圧薬<br>2）狭心症治療薬<br>3）心不全治療薬<br>4）抗不整脈<br>5）利尿薬<br>6）脂質異常症治療薬<br>7）血液凝固系・線溶系に作用する薬物<br>8）血液に作用する薬物 | 講義 | 非常勤講師 |
| 11 | ＜呼吸器･消化器･生殖器･泌尿器系に作用する薬物＞<br>・呼吸器･消化器･生殖器･泌尿器系に作用する薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）呼吸器系に作用する薬物<br>2）消化器系に作用する薬物<br>3）生殖器・泌尿器系に作用する薬物 | | |
| 12 | ＜物質代謝に作用する薬物＞<br>・生体内の物質代謝に関与する薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）ホルモンとホルモン拮抗薬<br>2）薬物としてのビタミン | | |
| 13 | ＜皮膚科用薬・眼科用薬＞<br>・皮膚科用薬・眼科用薬を理解する。 | 1）皮膚に使用する薬物<br>2）眼科用薬 | | |
| | ＜救急の際に使用される薬物＞<br>・緊急時に際して使用される薬物とその薬理作用を理解する。 | 1）救急に用いられる薬物<br>2）急性中毒に対する薬物 | | |
| 14 | ＜漢方薬・消毒薬・血液製剤・輸血剤＞<br>・漢方薬及び消毒薬､輸液･輸血に用いる薬物の基礎知識を学ぶ。 | 1）漢方医学の基礎知識と各論<br>2）消毒薬とその適応<br>3）消毒薬とその適応<br>4）輸液製剤<br>5）輸血剤 | | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成立ちと回復の促進［3］ 薬理学，医学書院 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 現代医療論 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　現代の医療・医学を多角的にとらえることで、現代医療のかかえている問題を理解する。また生命倫理について認識を深める。<br>目標　1　医療の変遷と今後の医学・医療の方向性を学ぶことで、現代医療のかかえている問題を理解する。<br>2　健康の定義と疾病の成り立ちを学び、生活と健康について理解する。<br>3　現代医療における諸問題を通し、患者の権利を理解するとともに、専門職業人としての命の大切さを考える。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜医学・医療のあゆみ＞<br>・医学・医療のあゆみを学び、現代医療の問題や医療のあり方について考える。 | 1）人類の誕生から原始生活と病気・医術<br>2）医療の原始的形態から古代・中世の医学<br>3）宗教医学から医学の近代化<br>4）近代医学の基礎・発展<br>5）今後の医学・医療の方向 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜健康と疾病＞<br>・健康のとらえ方や疾病の成り立ち、健康問題について学び、健康づくりについて理解する。 | 1）健康の概念<br>2）疾病<br>(1) 疾病構造の変化と疾病の成り立ち<br>3）生活と健康<br>(1) 健康づくりの概要と活動 | | |
| 3 | ＜医学と医療＞<br>・現代医療の本質と医療の実践について学び、医療における看護の役割とチーム医療について理解を深める。 | 1）医学と医療<br>2）現代医療の本質<br>3）医療の実践<br>(1) 疾病の診断と治療<br>(2) 医療における医師－患者関係<br>(3) 医療における医師の義務・看護師の役割<br>(4) 現代医療におけるチーム | | |
| 4 | ＜現代医療における諸問題＞<br>・現在医療のかかえている問題を通して、人間の人権や生命倫理について考えるとともに、命の大切さを学ぶ。 | 1）医療の進歩と医の倫理<br>(1) 現代医療における倫理<br>(2) 先端医療と倫理問題<br>①遺伝子解析・遺伝子医療の倫理<br>②出生前診断と倫理 | 講義 | 非常勤講師 |
| 5 | | 1）脳死と臓器移植<br>(1) 脳死－新しい死の概念、脳死は人の死か<br>(2) 脳死と臓器移植に関する法的整備と法的・倫理的問題点 | 講義 | 非常勤講師 |
| 6 | | 1）医療における患者の権利<br>(1) 患者の権利尊重<br>(2) 患者の自己決定権<br>2）病状告知<br>(1) 死の告知、がん告知<br>(2) 死の受容と医師の責務 | 講義 | 非常勤講師 |
| 7 | | 1）死と生命保持、安楽死、死を共有する医療<br>(1) 臨死患者、死の解釈と問題点<br>(2) 死への対応－ターミナルケア<br>(3) 安楽死、尊厳死、食局的安楽死、自然死<br>(4) ホスピス（緩和ケア）と死の共有 | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　別巻　現代医療論　メヂカルフレンド社 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 公衆衛生 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 公衆衛生の概要と人々の健康問題の現状や健康づくり対策を学ぶことで、健康を守ることの重要性とそこでの看護職の役割がわかる。 |
| 目標 | 1　最近の健康問題、疾病構造等を通して公衆衛生活動の意義、重要性を理解する。<br>2　地域で個人や集団を対象として行われている保健活動を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜公衆衛生とは＞<br>・公衆衛生の歴史を踏まえ、健康を守る役割と意義、重要性を理解する。 | 1）公衆衛生とは何か<br>2）公衆衛生の歴史<br>3）新たな公衆衛生の理念<br>(1) プライマリーヘルスケア<br>(2) ヘルスプロモーション | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜公衆衛生の活動対象＞<br>・公衆衛生である社会集団について理解する。<br><br>＜公衆衛生の仕組み＞<br>・公衆衛生の仕組みを理解する。 | 1）自分の生活と健康に関係する社会集団<br>2）看護職の公的責任と活動対象<br>3）社会集団をとらえる視座 | | |
| | | 1）政策展開<br>2）国と地方自治の役割<br>3）専門職のはたらき<br>4）多職種との協働<br>5）住民との協働 | | |
| 3 | ＜集団の健康をとらえるための手法：疫学・保健統計＞<br>・衛生統計について学び、統計のもつ意味や活用の仕方について理解する。 | 1）集団としての人々の健康をまもる<br>2）公衆衛生の場での疫学<br>－集団をとらえる<br>3）公衆衛生の場での疫学<br>－原因を分析する<br>4）公衆衛生の場での疫学 | | |
| 4 | ＜環境と健康＞<br>・環境と人々の健康とのかかわりについて学び、健康保全の大切さを理解する。 | 1）環境と健康<br>2）地球規模の環境と健康<br>(1) 地球温暖化<br>(2) オゾン層の破壊<br>(3) 生物多様性の損失<br>(4) 水質・大気・土壌汚染<br>3）身の回りの環境と健康<br>(1) 室内環境の安全確保<br>(2) 食品の安全確保<br>(3) ゴミ、廃棄物問題<br>4）日本の環境行政 | | |
| 5<br>6<br>7 | ＜地域における公衆衛生の実践＞<br>・公衆衛生活動の現状と、今後の課題を理解する。 | 1）公衆衛生看護とは<br>2）母子保健<br>3）成人保健<br>4）高齢者保健<br>5）精神保健<br>6）歯科保健<br>7）障害者保健・難病保健<br>8）学校と保健<br>9）職場と保健<br>10）健康危機管理<br>11）災害保健 | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［2］ 公衆衛生，医学書院<br>国民衛生の動向 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 社会福祉 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 社会保障制度や社会福祉を理解し、それらを社会資源として活用する基礎的知識を身につける。 |
| 目標 | 1　社会保障の概要を理解する。<br>2　社会福祉の動向と福祉サービスの実際を理解する。<br>3　社会のニーズや制度から保健医療福祉の連携の必要性を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜社会保障制度と社会福祉＞<br>＜現代社会の変化と社会保障と社会福祉の動向＞<br>・社会保障と社会福祉およびそれを支える法制度の概要を学ぶ。 | 1）社会保障制度と社会福祉<br>(1)　社会保障制度<br>(2)　社会福祉の法制度<br>2）現代社会と社会福祉の動向<br>(1)　現代社会の変化<br>(2)　社会保障・社会福祉の動向 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜医療保障＞<br>・医療保険制度と保険診療の仕組みについて理解する。 | 1）医療保障制度の沿革<br>2）医療保障制度の構造と体系<br>3）健康保険と国民健康保険<br>4）高齢者医療制度<br>5）保険診療のしくみ<br>6）公費負担医療、国民医療費 | | |
| 3 | ＜介護保障＞<br>・介護保険制度の概要と今後の課題・展望について学ぶ。 | 1）介護保険制度創設の背景と歴史<br>2）介護保険制度の概要<br>3）介護保険制度の課題と展望 | | |
| 4 | ＜所得保障＞<br>・国民の生活背景を知る手掛かりにできるよう、所得保障について学ぶ。 | 1）所得保障制度のしくみ<br>2）年金保険制度<br>3）社会手当<br>4）労働保険制度 | | |
| 5 | ＜公的扶助＞<br>・公的扶助制度の内容と適応の実際と動向について学ぶ。 | 1）貧困・低所得者問題と公的扶助制度<br>2）生活保護制度のしくみ、種類と方法<br>3）低所得対策<br>4）近年の動向 | | |
| 6 | ＜社会福祉の分野とサービス＞<br>・各分野の実態と課題について学ぶ。 | 1）高齢者福祉<br>2）障害者福祉<br>3）児童家庭福祉 | | |
| 7 | ＜社会福祉実践と医療･看護＞<br>・社会福祉援助方法を学び、医療・看護との連携の重要性を理解する。 | 1）社会福祉援助とは<br>2）個人・集団援助技術<br>3）間接・関連援助技術<br>4）社会福祉実践と医療・看護の連携 | | |
| | ＜社会福祉の歴史＞<br>・社会福祉の歴史を学ぶことで、今後の社会福祉の展開について考える。 | 1）社会福祉史の見方<br>2）日本の社会福祉の歴史 | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［3］　社会保障・社会福祉，医学書院 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門基礎分野 | 授業科目 | 関係法規 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　人々の生活に関わる法の基礎知識を学び、保健師助産師看護師法並びに看護に関係する法規を理解する。<br>目標　1　社会の規律、安全を守る法についての基礎的知識を学ぶ。<br>2　保健師助産師看護師法、及び看護に関連する法規を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜法の基礎知識＞<br>・法の基礎を学び、人々の生活における法の意義を理解する。 | 1）法の概念<br>2）生活と法<br>3）法規の種類 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | ＜労働に関連する法規＞<br>・夜勤なども含めた看護師の労働者としての立場と法について理解する。 | 1）労働基準法<br>2）労働安全衛生法<br>3）雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<br>4）育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<br>5）個人情報の保護に関する法律 | | |
| 3 | ＜患者の権利を守る法＞<br>・医療中心から患者中心の医療に向け、法がどのように関わっているかを学ぶ。 | 1）医療ミス（過誤）と法<br>2）医療訴訟について<br>3）生命倫理と法 | | |
| 4<br>5<br>6<br>7 | ＜看護に関連する法規＞<br>・看護に関連する法規、看護業務に直接関係する保健師助産師看護師法を学び、看護の役割及び法規上の看護業務について理解する。 | 1）衛生法について<br>2）保健師助産師看護師法<br>⑴　看護職に関する法規の変遷<br>⑵　保健師助産師看護師法の内容<br>⑶　保健師助産師看護師法と看護業務<br>3）看護師等の人材確保の促進に関する法律<br>4）医師法・医療法等<br>5）医療を支える法<br>6）保健衛生法<br>⑴　感染症に関する法 | 講義 | 専任教員 |
| 8<br>(1h) | 試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［4］　看護関係法令，医学書院 |
| 備考 | |

# 3．専門分野

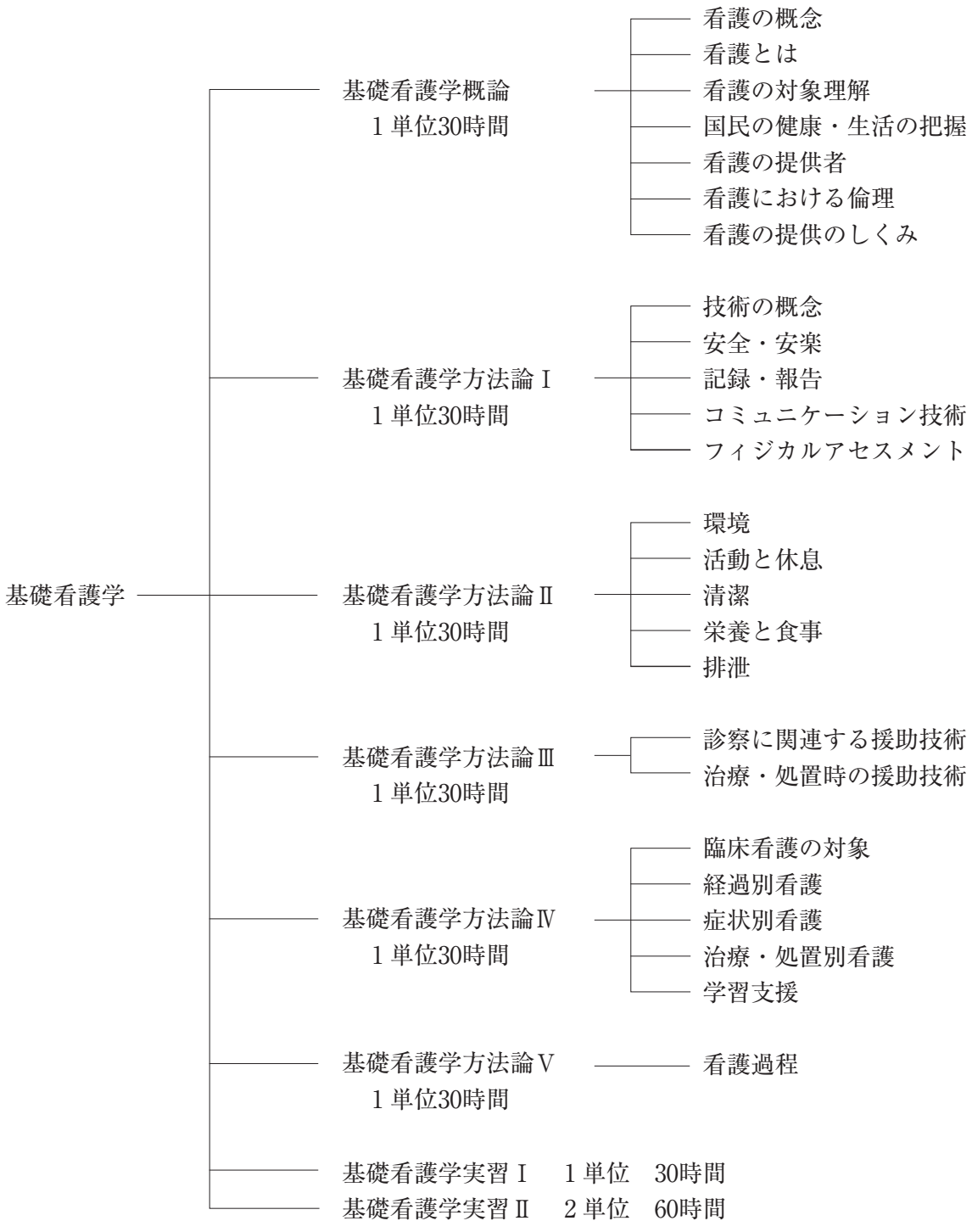

1）基礎看護学：目的・目標・構成 ・・・ 55
(1) 基礎看護学概論 ・・・・・・・・ 56
(2) 基礎看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・ 57
(3) 基礎看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・ 58
(4) 基礎看護学方法論Ⅲ ・・・・・・・・ 59
(5) 基礎看護学方法論Ⅳ ・・・・・・・・ 61
(6) 基礎看護学方法論Ⅴ ・・・・・・・・ 62
2）地域・在宅看護論：目的・目標・構成・・ 63
(1) 生活と家族 ・・・・・・・・ 64
(2) 地域と多職種連携 ・・・・・・・・ 65
(3) 地域・在宅看護論概論 ・・・・・・・・ 66
(4) 地域・在宅看護論方法論Ⅰ・・・・・・・ 67
(5) 地域・在宅看護論方法論Ⅱ・・・・・・・ 68
3）成人看護学：目的・目標・構成 ・・・ 69
(1) 成人看護学概論 ・・・・・・・・ 70
(2) 成人看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・ 72
(3) 成人看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・ 74
(4) 成人看護学方法論Ⅲ ・・・・・・・・ 76
4）老年看護学：目的・目標・構成 ・・・ 77
(1) 老年看護学概論 ・・・・・・・・ 78
(2) 老年看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・ 80
(3) 老年看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・ 81
5）小児看護学：目的・目標・構成 ・・・ 82
(1) 小児看護学概論 ・・・・・・・・ 83
(2) 小児看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・ 84
(3) 小児看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・ 86
6）母性看護学：目的・目標・構成 ・・・ 88
(1) 母性看護学概論 ・・・・・・・・ 89
(2) 母性看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・ 91
(3) 母性看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・ 93
(4) 母性看護学方法論Ⅲ ・・・・・・・・ 94
7）精神看護学：目的・目標・構成 ・・・ 95
(1) 精神看護学概論 ・・・・・・・・ 96
(2) 精神看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・ 98
(3) 精神看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・ 100
8）看護の統合と実践：目的・目標・構成・・ 101
(1) 看護統合Ⅰ ・・・・・・・・ 102
(2) 看護統合Ⅱ ・・・・・・・・ 103
(3) 看護統合Ⅲ ・・・・・・・・ 104
(4) 看護統合Ⅳ ・・・・・・・・ 105

# 基礎看護学

目的　　看護の概念と社会における看護の役割を理解し、人間理解と臨床判断や看護実践に必要な基礎的能力を養うとともに、自己の看護観を深める。

目標
1　看護に必要な人間・健康・環境・看護の概念を理解する。
2　看護の対象としての人間理解を深める。
3　社会における看護の機能と役割を理解する。
4　科学的根拠に基づいた臨床判断と看護を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
5　専門職業人としての態度を身につけ、倫理観をもち主体的に学ぶ姿勢を養う。
6　自己の看護観を育む。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 基礎看護学概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　看護の基本となる概念、および現代社会の中で果たすべき看護について理解する。<br>目標　1　看護の基本概念（人間・健康・環境・看護）について理解する。<br>2　看護の変遷や看護理論から現代社会に求められる看護の機能・役割について理解する。<br>3　生活者としての看護の対象を総合的に理解する。<br>4　現代における健康のとらえ方を理解する。<br>5　職業倫理としての看護倫理の重要性を理解するとともに、倫理的取り組みがわかる。<br>6　看護サービスの提供に関するしくみがわかる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜看護の概念＞<br>・人間・健康・環境・看護の概念について考える。 | 1）看護の概念<br>人間・健康・環境・看護について | 講義<br>演習<br>（6 h） | 専任教員 |
| 4<br>5 | ＜看護とは＞<br>・看護の変遷や定義を学び、その本質を理解する。<br>・看護の役割を理解するとともに、継続看護やチーム医療の重要性・ケアチームの連携の必要性について理解する。 | 1）看護の本質<br>(1) 看護の変遷<br>(2) 看護の定義：看護理論家による看護の定義<br>2）看護の役割と機能<br>3）看護の継続性と情報共有<br>(1) 医療機関：多職種チームにおける情報共有と継続性<br>(2) 在宅療養に関する連携と継続性 | 講義 | |
| 6<br>7 | ＜看護の対象理解＞<br>・看護の対象である人間が身体的・心理社会的存在であり生活者であることを理解する。<br>・看護の対象を広く理解する。 | 1）人間のこころとからだ：<br>ストレス理論、ニード理論<br>2）生涯発達しつづける存在：発達段階<br>3）人間の「暮らし」の理解<br>(1) 生活者としての人間：生活の理解<br>(2) 看護の対象としての家族・集団・地域 | | |
| 8<br>9 | ＜国民の健康･生活の把握＞<br>・現代の健康のとらえ方について理解する。<br>・現代社会における健康観と生活の状況について学ぶ。 | 1）健康のとらえ方<br>2）国民の健康の全体像<br>3）国民のライフサイクルと健康・生活<br>4）現代の日本人の健康と生活 | | |
| 10<br>11 | ＜看護の提供者＞<br>・看護の歴史的背景を学ぶとともに、現代の看護職養成制度概要を理解し、今後の看護における課題を知る。 | 1）職業としての看護<br>2）看護職の資格と養成に関わる制度<br>3）看護職者の就業状況と継続教育<br>4）看護職の養成制度の課題 | | |
| 12<br>13 | ＜看護における倫理＞<br>・看護倫理の重要性を理解し、現代医療における倫理的問題と取り組みについて学ぶ。 | 1）現代社会と倫理<br>2）医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理<br>3）看護実践における倫理問題への取り組み<br>(1) 看護の倫理綱領<br>(2) 看護実践場面での倫理的ジレンマと対応 | 講義<br>演習<br>（2 h） | |
| 14 | ＜看護の提供のしくみ＞<br>・看護サービスの考え方や看護に関する制度や施策・経済のしくみを学ぶ。 | 1）サービスとしての看護<br>2）看護をめぐる制度と政策<br>(1) 看護制度と看護政策<br>(2) 看護サービスと経済のしくみ | 講義 | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［1］　看護学概論，医学書院<br>看護者の基本的責務　日本看護協会出版会 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 基礎看護学方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　看護実践を行うための共通する知識・技術を習得する。<br>目標　1　看護における技術の考え方を理解する。<br>2　看護における安全の重要性を理解し、感染防止の技術を習得する。<br>3　看護における記録・報告の重要性と方法を理解する。<br>4　看護におけるコミュニケーションの意義を学習し、効果的なコミュニケーション技術を習得する。<br>5　フィジカルアセスメントの具体的な方法・技術を理解する。<br>6　看護における学習支援の必要性を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜看護技術の概念＞<br>・看護における技術の考え方を理解する。 | 1）看護技術とは<br>2）看護技術の特徴<br>3）看護技術の基本原則 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3<br>4 | ＜安全・安楽＞<br>・看護技術の基盤としての安全・安楽に関する技術を習得する。 | 1）看護における安全・安楽の意義<br>2）苦痛緩和・安楽確保の技術<br>3）感染防止の技術<br>⑴　スタンダードプリコーション<br>⑵　ガウンテクニック<br>⑶　無菌操作<br>⑷　感染性廃棄物の取り扱い | 講義<br>（実技）<br>（4h） | |
| 5 | ＜記録・報告＞<br>・看護における記録・報告の基本を理解する。 | 1）看護における記録、報告の基本<br>2）記録の必要性<br>3）報告の必要性<br>4）記録・報告の技術 | 講義 | |
| 6<br>7 | ＜コミュニケーション＞<br>・効果的なコミュニケーション技術について理解し、習得する。 | 1）看護におけるコミュニケーションの意義<br>2）コミュニケーションの基礎知識<br>3）コミュニケーション技術の実際 | 講義<br>演習 | |
| 8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13 | ＜フィジカルアセスメント＞<br>・対象の状態を的確に把握するための技術を理解する。 | 1）ヘルスアセスメントとは<br>2）全体の概観<br>⑴　バイタルサインの観察とアセスメント<br>⑵　フィジカルアセスメント<br>①呼吸器系のフィジカルアセスメント<br>②腹部のアセスメント<br>③筋・骨格系のアセスメント | 講義<br>（実技）<br>（4h） | |
| 14 | ＜学習支援＞<br>・看護における学習支援の必要性を理解する。 | 1）看護における学習支援<br>2）健康状態の変化に伴う学習支援<br>3）看護の中に含まれる学習支援 | 講義 | |
| 15 | まとめ（1h）・試験（1h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］　基礎看護技術Ⅰ，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ，医学書院<br>看護がみえるVol.1　基礎看護技術，メディックメディア<br>看護がみえるVol.2　臨床看護技術，メディックメディア<br>看護がみえるVol.3　フィジカルアセスメント，メディックメディア |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 基礎看護学方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 人々がよりよい健康生活を維持するために必要な基礎知識を理解し、安全と安楽に基づく日常生活の援助技術を習得する。 |
| 目標 | 1　健康的な生活環境を整えるための知識と技術を習得する。<br>2　日常生活の自立を支える援助技術を習得する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜環境＞<br>・快適な環境のための援助技術を習得する。 | 1）健康生活と環境<br>2）療養環境のアセスメント<br>3）療養環境の援助<br>(1) 病床環境の整備<br>(2) 臥床患者のリネン交換 | 講義<br>(実技)<br>(2h) | 専任教員 |
| 4<br>5<br>6 | ＜活動・休息＞<br>・活動・運動のための援助技術を習得する。<br>・休息と睡眠のための技術を理解する。 | 1）活動・運動の意義<br>2）健康生活と休息・睡眠の意義<br>3）睡眠行動のアセスメント<br>4）運動と休息の関係<br>5）姿勢・活動のアセスメント<br>6）姿勢運動を補助する用具・設備の活用<br>7）移動と移送<br>8）健康生活とレクリエーション | 講義<br>(実技)<br>(2h) | 専任教員 |
| 7<br>8<br>9 | ＜清潔＞<br>・身体を清潔に保つための援助技術を習得する。 | 1）健康生活と清潔の意義<br>2）清潔行動のアセスメント<br>3）清潔の援助方法<br>(1) 寝衣交換<br>(2) 全身清拭<br>(3) 洗髪<br>(4) 口腔ケア<br>(5) 足浴 | 講義<br>(実技)<br>(4h) | 専任教員 |
| 10<br>11 | ＜栄養と食事＞<br>・栄養と食事のための援助技術を理解する。 | 1）健康生活と食事の意義<br>2）食事行動のアセスメント<br>3）食事行動障害と援助の方法 | 講義<br>(実技)<br>(2h) | 専任教員 |
| 12<br>13<br>14 | ＜排泄＞<br>・排泄のための援助技術を理解する。 | 1）健康生活と排泄の意義<br>2）排泄行動のアセスメント<br>3）排泄障害と援助の方法<br>4）一時的導尿 | 講義<br>(実技)<br>(2h) | |
| 15 | まとめ(1h)・試験(1h) | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ，医学書院<br>看護がみえるVol.1　基礎看護技術，メディックメディア<br>看護がみえるVol.2　臨床看護技術，メディックメディア |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 基礎看護学方法論Ⅲ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　診療に伴う患者の心理・看護の役割と援助方法を理解する。<br>目標　1　診察・検査に関連する援助を理解する。<br>2　検査時に必要な援助技術を学び、習得する。<br>3　治療処置を受ける患者の心理を理解し、アセスメントと援助方法を学ぶ。<br>4　侵襲の大きな検査・処置の技術を習得する。<br>5　医療機器の原理と実際を学ぶ。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜診察に関連する援助技術＞<br>・診察時・検査時の看護師の役割を学び、基本的な援助技術を習得する。 | 1）診察・検査時の看護師の役割<br>2）診察・検査を受ける患者の理解<br>3）検査時の看護技術<br>⑴　検体検査<br>尿・便・喀痰・血液の採取および検査<br>⑵　生体検査<br>Ｘ線撮影・ＣＴ・ＭＲＩ<br>内視鏡検査・超音波検査・肺機能検査<br>核医学検査<br>4）静脈血採血の実際 | 講義<br>演習<br>（2ｈ） | 専任教員 |
| 4<br>5<br>6<br>7 | ＜治療・処置時の援助技術＞<br>・治療処置時における看護師の役割を理解し、その基本的な援助技術を習得する。 | ＜薬物療法＞<br>1）薬物療法とは<br>2）薬物療法の目的と各職種の責任と権限<br>3）薬物療法のアセスメント<br>4）薬物療法を受ける患者の看護<br>5）与薬の看護技術<br>⑴　与薬に伴う具体的な援助<br>⑵　輸血時の看護技術<br>6）与薬の実際<br>⑴　皮下注射<br>⑵　筋肉内注射 | 講義<br>(実技)<br>（4ｈ） | |
| 8<br>9 | | ＜穿刺＞<br>1）穿刺の介助<br>⑴　胸腔穿刺<br>⑵　腹腔穿刺<br>⑶　腰椎穿刺<br>⑷　骨髄穿刺<br>＜吸入・吸引＞<br>1）酸素吸入療法<br>2）吸引<br>⑴　一時的吸引<br>口腔内・鼻腔内・気管内吸引<br>⑵　持続吸引<br>胸腔ドレナージの管理<br>＜罨法＞<br>1）冷罨法<br>2）温罨法<br>＜包帯法＞<br>1）援助の目的<br>2）巻軸帯の巻き方<br>3）三角巾を用いた上肢の固定方法 | 講義 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | | ＜創傷管理＞<br>１）創傷管理の基礎知識<br>２）創傷処置の方法<br>３）ドレッシング材 | 講義 | 非常勤<br>講師 |
| 11 | | ＜救急処置技術＞<br>１）止血法<br>⑴　直接的圧迫止血法<br>⑵　間接的圧迫止血法<br>＜医療機器の原理＞<br>１）医療機器の取り扱い<br>⑴　心電図<br>⑵　パルスオキシメータ<br>⑶　輸液ポンプ<br>⑷　シリンジポンプ | 講義 | 専任教員 |
| 12 | | | | |
| 13 | | ＜治療に関連する援助技術の実際＞<br>１）酸素ボンベの操作<br>２）一時的吸引の技術<br>⑴　口腔内・鼻腔内<br>⑵　気管内吸引<br>３）基本的な包帯法<br>４）医療機器の基本的操作<br>⑴　輸液ポンプ<br>⑵　シリンジポンプ | （実技）<br>（４ｈ） | |
| 14 | | | | |
| 15 | まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ） | | 筆記試験 | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［２］　基礎看護技術Ⅰ，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［３］　基礎看護技術Ⅱ，医学書院<br>看護がみえるVol.1　基礎看護技術，メディックメディア<br>看護がみえるVol.2　臨床看護技術，メディックメディア | | | |
| 備　　考 | | | | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 基礎看護学方法論Ⅳ | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 健康障害をもつ対象を理解し、健康状態に応じた臨床判断と看護実践のための基礎的知識を身に付ける。 |
| 目標 | 1　健康障害をもつ対象者と家族について理解し、援助する基本的知識を学ぶ。<br>2　健康障害の経過で起こりうる看護上の問題と対象者の特徴を理解し、援助の基本を学ぶ。<br>3　主要症状に関する基礎的知識と、症状がおよぼす影響を理解し、臨床判断に繋げる援助の基本を学ぶ。<br>4　治療を受ける対象者の看護について学ぶ。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜臨床看護の対象＞<br>・健康障害をもつ対象の特徴を理解する。 | 1）対象と家族の理解<br>(1)　健康障害をもつ患者の理解<br>(2)　健康障害をもつ家族の理解 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | ＜経過に基づく対象者の看護＞<br>・健康障害の経過でおこりうる看護上の問題点を学び、その援助方法の基本を理解する。 | 1）経過別看護の特徴<br>2）健康期における対象者の看護<br>(1)　健康維持・増進をめざす看護の特徴<br>(2)　健康維持・増進をめざす人々のニーズと看護<br>3）急性期における対象者の看護<br>(1)　急性期の特徴<br>(2)　急性期の対象者のニーズと看護<br>4）慢性期における対象者の看護<br>(1)　慢性期の特徴<br>(2)　慢性期の対象者のニーズと看護<br>5）リハビリテーション期における患者の看護<br>(1)　リハビリテーション期の特徴<br>(2)　リハビリテーション期の対象者のニーズと看護<br>6）終末期における対象者の看護<br>(1)　終末期の特徴<br>(2)　死をめぐる倫理的課題<br>(3)　終末期の対象者のニーズと看護 | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | ＜主要症状を示す対象の看護＞<br>・主要症状の看護を理解し、状況における臨床判断に基づく看護を学ぶ。<br>・紙上事例を用いて、グループワークを行い発表し共有学習する。 | 1）安楽障害のある対象者の看護<br>(1)　痛みの看護<br>・臨床判断に基づく痛みへの対応<br>2）呼吸障害のある対象者の看護<br>(1)　呼吸困難の看護<br>・臨床判断に基づく呼吸困難への対応<br>3）循環障害のある対象者の看護<br>(1)　浮腫の看護<br>・臨床判断に基づく浮腫への対応<br>4）体温調整障害のある対象者の看護<br>(1)　発熱の看護<br>・臨床判断に基づく発熱への対応<br>5）消化・排泄障害のある対象者の看護<br>(1)　便秘の看護<br>・臨床判断に基づく便秘への対応<br>(2)　下痢の看護<br>・臨床判断に基づく下痢への対応<br>(3)　嘔吐の看護<br>・臨床判断に基づく嘔吐への対応<br>6）睡眠障害のある対象者の看護<br>(1)　不眠の看護<br>・臨床判断に基づく不眠の対応 | 講義<br>演習<br>(14h) | 専任教員 |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | ＜治療・処置別看護＞<br>・治療を受ける対象者の看護を学ぶ。 | 1）放射線療法を受ける対象者の看護 | 講義 | 非常勤講師<br>(2名) |
| 14 | | 2）化学療法を受ける対象者の看護 | | |
| 15 | まとめ(1h)・試験(1h) | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［4］　臨床看護総論，医学書院<br>看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント，学研 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 基礎看護学方法論Ⅴ | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 看護を科学的に実践するための、看護理論を用いて看護過程を展開できる基礎的能力と、臨床判断能力を養う。 |
| 目標 | 1　看護過程の意義とプロセスを理解する。<br>2　ヘンダーソン理論を用いた看護過程の展開方法を理解する。<br>3　事例を用いて、看護過程の展開ができる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜看護過程の意義と展開方法＞<br>・看護過程の意義とプロセスを理解する。<br>・看護過程の展開方法を理解する。 | 1）看護過程とは<br>2）看護過程の構成要素<br>3）看護過程の展開方法<br>(1) 情報収集の内容と方法<br>(2) 情報の解釈・分析<br>(3) 看護上の問題の明確化<br>(4) 看護計画の立案<br>(5) 実施<br>(6) 評価 | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14<br>15 | ＜事例展開＞<br>・事例を通して、看護過程の展開方法を習得する。 | 1）紙上事例による看護過程の展開の実際<br>(1) 情報の収集と整理<br>(2) 情報の分析<br>(3) 全体像の把握（関連図）<br>(4) 看護上の問題の明確化<br>(5) 看護計画の立案<br>(6) 評価・修正 | 演習<br>（26ｈ） | |

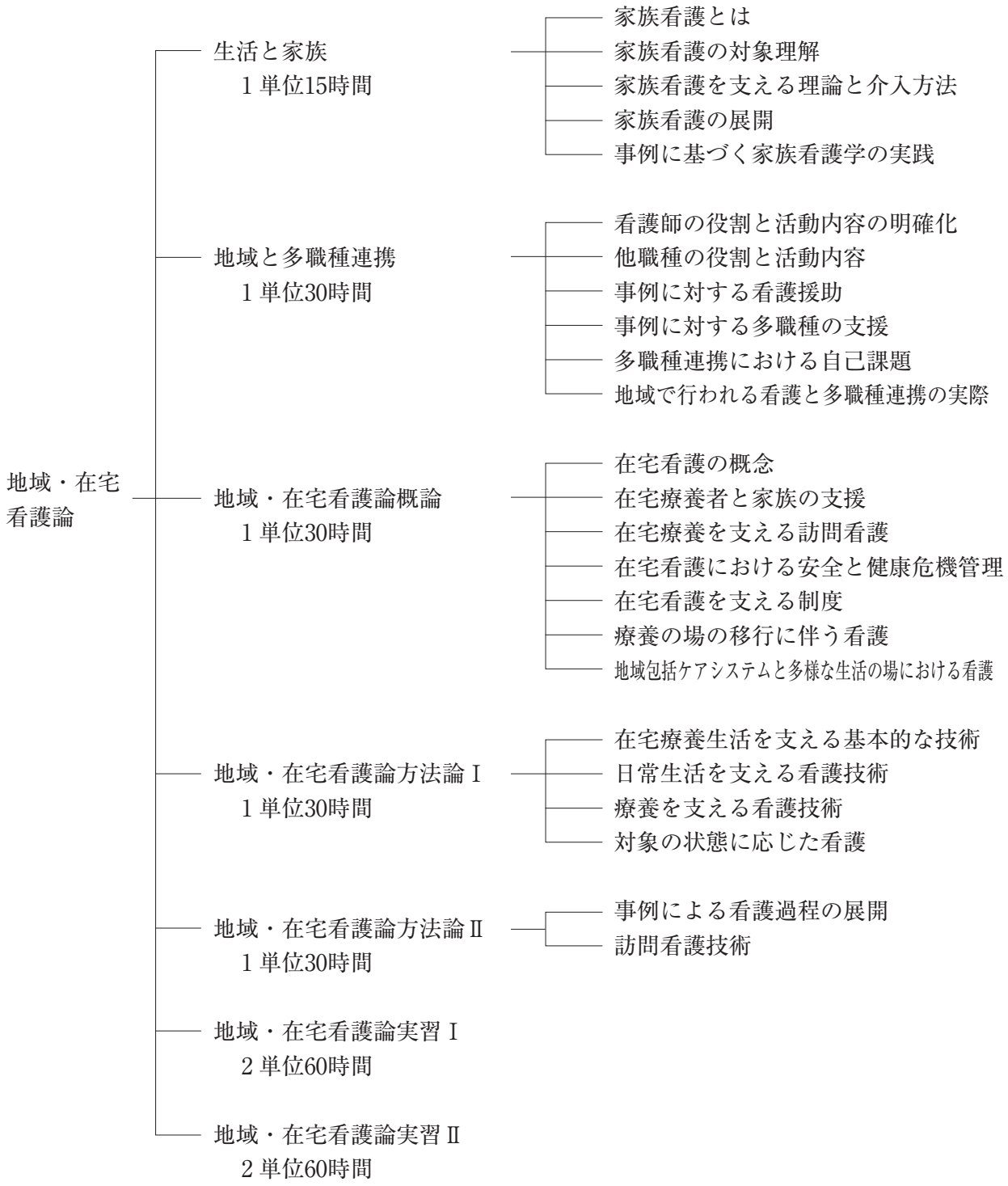
| 評価方法 | 看護過程展開のレポート（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［2］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院<br>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践，ヌーヴェルヒロカワ<br>ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 第4版，ヌーヴェルヒロカワ<br>看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント，学研 |
| 備考 | |

# 地域・在宅看護論

目的　　地域で暮らす人々とその家族を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉制度の活用や関連職種と連携、協働する中で看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標
1　地域で暮らす人々とその家族を理解する。
2　地域におけるさまざまな場での看護を理解し、基礎的な技術を身につける。
3　保健・医療・福祉システムにおける看護職の役割について理解する。
4　在宅看護における多職種との連携・協働の必要性について理解する。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 生活と家族 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　家族看護の基本と看護の対象としての家族について理解する。その上で家族看護を支える理論と家族看護過程の展開について学ぶことで、生活者としての家族に対する看護の必要性の理解に繋げる。<br>目標　1　家族看護の考え方と家族看護の対象を多面的に理解する。<br>2　家族看護を支える理論と介入方法を学ぶ。<br>3　家族看護の展開方法と展開に有用なアセスメントモデルを学ぶ。<br>4　家族看護において生活を理解することの必要性がわかる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜家族看護とは＞ | 1）家族看護を学ぶ<br>⑴　看護のなかの家族<br>⑵　家族をどうみるか<br>⑶　家族看護の発展と動向 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3 | ＜家族看護の対象理解＞ | 1）発達する家族<br>⑴　家族発達理論<br>2）システムとしての家族<br>⑴　家族システム理論<br>3）家族を理解するポイント<br>⑴　家族のウチ・ソト<br>⑵　看護の対象としての家族の捉え方<br>4）家族像の形成<br>⑴　家族を理解する情報<br>⑵　プロセスとしての家族像形成<br>⑶　多様性 | 講義 | 非常勤<br>講師 |
| 4 | ＜家族を取り巻く社会的文化的背景＞ | 1）日本人と家族<br>2）現代日本の家族 | | |
| 5<br>6 | ＜家族看護過程に用いる考え方＞ | 1）健康な家族についての考え方<br>2）家族の力を出すのに役立つ考え方<br>⑴　セルフケア<br>⑵　家族エンパワメント<br>3）代表的な家族アセスメントモデル | 講義 | 専任教員 |
| 7 | ＜事例に基づく家族看護の実践＞ | 1）高齢患者の家族看護<br>2）家族看護における生活理解の必要性 | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 家族看護学　南江堂 |
| 備　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 地域と多職種連携 | 単位数 | 1 | 時期 | 3年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　看護および他職種の役割を深く知り、他職種連携・協働する必要性を認識する。また、地域の様々な場で求められている展開されている看護と多職種連携の実際を知る。<br>目標　1　看護師と多職種の役割を理解する。<br>2　多職種連携の意義と必要性を理解する。<br>3　地域で行われている多職種連携の実際がわかる。<br>4　多職種連携における自己課題が明確にできる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜地域看護と多職種連携＞<br>・地域と保健・医療・福祉の場で行われている看護を理解する。 | 1）地域の保健・医療・福祉の場で行われている看護と多職種連携<br>⑴　保健：家庭、保健所、学校、企業など<br>⑵　医療：病院、診療所、助産所など<br>⑶　福祉：老人福祉施設、自立支援施設など<br>2）今後の進め方 | 講義 | 専任教員 |
| | | 3）看護実践の領域と多職種連携の実際 | 講義 | 非常勤講師 |
| 3<br>4 | ＜看護師の役割と活動内容の明確化＞<br>・看護師の役割と活動内容を再認識する。 | 看護師の役割と活動内容の明確化 | 演習 | 専任教員 |
| 5<br>6<br>7 | ＜他職種の役割と活動内容＞<br>・他職種の役割と活動内容を理解する。 | 他職種の役割と活動内容 | 演習<br>（合同） | |
| 8<br>9 | ＜事例に対する看護援助＞<br>・事例に対する看護師が行う看護を導く。 | 事例に対する看護師が行う看護について | 演習 | |
| 10<br>11<br>12 | ＜事例に対する多職種支援＞<br>・事例に対してそれぞれの職種が導き出した支援を共有することで多職種連携・協働の必要性がわかる。 | 事例から多職種連携・協働支援のあり方 | 演習<br>（合同） | |
| 13 | ＜多職種連携の意義と自己課題＞<br>・演習を通し地域における多職種連携の意義がわかる。 | 多職種連携の意義と看護職の役割から自己の課題 | 個人<br>ワーク | |
| 14<br>15 | ＜地域多職種連携における看護の役割と課題＞<br>・多職種連携における他者の学びを聞き考える。 | 多職種連携における看護職の役割と今後の課題 | 発表 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 課題レポート（100点） |
| 参考文献と資料 | 看護管理　　医学書院<br>在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版 |
| 備　考 | 他校との演習：共同学習 |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 地域・在宅看護論概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の基礎を理解する。<br>目標　1　在宅看護の対象を理解する。<br>2　社会資源について学び、保健・医療・福祉の連携・協働する中で看護が果たす役割を理解する。<br>3　在宅看護の特徴を理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜在宅看護の概念＞<br>・日本の社会背景を通し在宅看護の意義、役割を理解する。また在宅看護の特徴を学ぶ。 | 1）在宅看護の背景<br>2）在宅ケアと在宅看護<br>3）在宅看護の役割・特徴<br>4）在宅看護を展開するための基本理念<br>5）在宅看護における倫理 | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4 | ＜在宅療養者と家族の支援＞<br>・在宅療養者の特徴や家族の状況および在宅療養者への看護について理解する。 | 1）在宅看護の対象者<br>2）在宅療養の場における家族のとらえ方<br>3）家族のアセスメント<br>4）在宅療養者の家族への看護 | | |
| 5<br>6 | ＜在宅療養を支える訪問看護＞<br>・訪問看護のしくみ等を理解する。 | 1）訪問看護の特徴<br>2）訪問看護ステーション<br>3）訪問看護サービスの展開<br>4）訪問看護の記録 | | |
| 7 | ＜在宅看護における安全と健康危機管理＞<br>・在宅看護における安全性の確保について理解する。 | 1）在宅看護における危機管理<br>2）日常生活における安全管理<br>3）災害時における健康危機管理 | | |
| 8<br>9<br>10 | ＜在宅看護を支える制度＞<br>・在宅看護を支える社会資源を理解する。<br>・在宅療養者の権利に関する法について理解する。 | 1）社会資源の活用<br>2）在宅看護を支える制度<br>3）権利を擁護する制度と社会資源 | | |
| 11 | ＜療養の場の移行に伴う看護＞<br>・療養の場の再考の必要性とその支援・調整について理解する。 | 1）医療機関における入退院時の連携<br>2）医療施設や介護施設との連携 | 講義 | 非常勤講師 |
| 12<br>13<br>14 | ＜地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護＞<br>・地域包括ケアシステムの概要と地域包括支援センターについて理解する。<br>・多職種連携と看護が果たす役割について理解する。 | 1）地域アセスメント<br>2）地域包括ケアシステム<br>3）地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携<br>4）在宅看護におけるケースマネジメント／ケアマネジメント | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア，メディカ出版<br>地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術，メディカ出版 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 地域・在宅看護論方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　在宅看護の対象の状態に応じた看護や援助方法を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う。<br>目標　1　在宅における日常生活の援助方法を理解する。<br>2　在宅での日常生活の援助技術を理解する。<br>3　在宅における医療管理を必要とする対象への看護を理解する。<br>4　在宅療養者の状態に応じた看護を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜在宅療養生活を支える基本的な技術＞<br>・在宅療養生活を支える基本的な技術を理解する。 | 1）コミュニケーション<br>2）ヘルスアセスメントの基本<br>3）環境整備<br>4）生活リハビリテーション<br>5）感染予防 | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4<br>5 | ＜日常生活を支える看護技術＞<br>・在宅における日常生活の援助方法を理解する。 | 1）食生活<br>2）排泄<br>3）清潔<br>4）肢位の保持と移動<br>5）睡眠 | 講義 | |
| 6<br>7<br>8<br>9 | ＜療養を支える看護技術＞<br>・在宅療養の場における医療的ケアを必要とする対象への看護を理解する。 | 1）医療ケアの原理原則<br>2）薬物療法<br>3）排尿ケア<br>4）ストマ管理<br>5）在宅経管栄養法（HEN）<br>6）輸液管理（在宅中心静脈栄養法）<br>7）足病変のケア | 講義 | |
| 10<br>11<br>12<br>13<br>14 | ＜対象の状態に応じた看護＞<br>・在宅療養者とその家族の状態に応じた看護を理解する。 | 1）難病療養者の看護<br>2）認知症療養者の看護<br>3）ターミナル期の療養者の看護<br>4）子どもの療養者の看護<br>5）精神障害をもつ療養者の看護 | 講義 | 非常勤講師（5名） |
| 15 | まとめ（1h）・試験（1h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア，メディカ出版<br>地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術，メディカ出版<br>写真でわかる訪問看護　アドバンス，インターメディカ |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 地域・在宅看護論方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 在宅療養者とその家族を理解し、在宅における看護活動に必要な知識・技術・態度を身につける。 |
| 目標 | 1　国際生活機能分類（ICF）について理解する。<br>2　ICFを用いた看護の展開方法を理解する。<br>3　家庭訪問における援助技術を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜事例による看護の展開＞<br>・在宅療養を支える看護過程と特徴を理解する。 | 1）国際生活機能分類（ICF）について<br>⑴　ICFの特徴<br>⑵　ICFでの対象のとらえ方 | 講義 | 非常勤講師 |
| 3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12 | | 1）在宅療養における看護の展開<br>⑴　在宅療養における看護展開の考え方<br>⑵　在宅療養における対象のとらえ方<br>⑶　在宅療養における健康・療養のとらえ方<br>2）ICFを活用した在宅療養者の理解<br>⑴　ICFモデルの活用方法<br>①枠組みにおける情報収集の視点<br>②健康状態のアセスメント<br>③生活課題の明確化<br>④対象と家族の「強み」を重視した援助・看護の方向性の抽出<br>3）紙上事例による看護の展開 | 講義<br>演習<br>（18ｈ） | 専任教員 |
| 13<br>14<br>15 | ＜訪問看護技術＞<br>・家庭訪問における援助技術について理解する。 | 1）家庭訪問・初回訪問<br>⑴　家庭訪問の意義<br>⑵　訪問看護導入時の療養者と家族<br>⑶　初回訪問の目的と配慮<br>⑷　療養方針の明確化<br>⑸　訪問の手順、倫理と心構え<br>2）訪問看護における援助技術の実際<br>⑴　コミュニケーション技術<br>⑵　マナー | 講義<br>演習<br>（４ｈ） | |

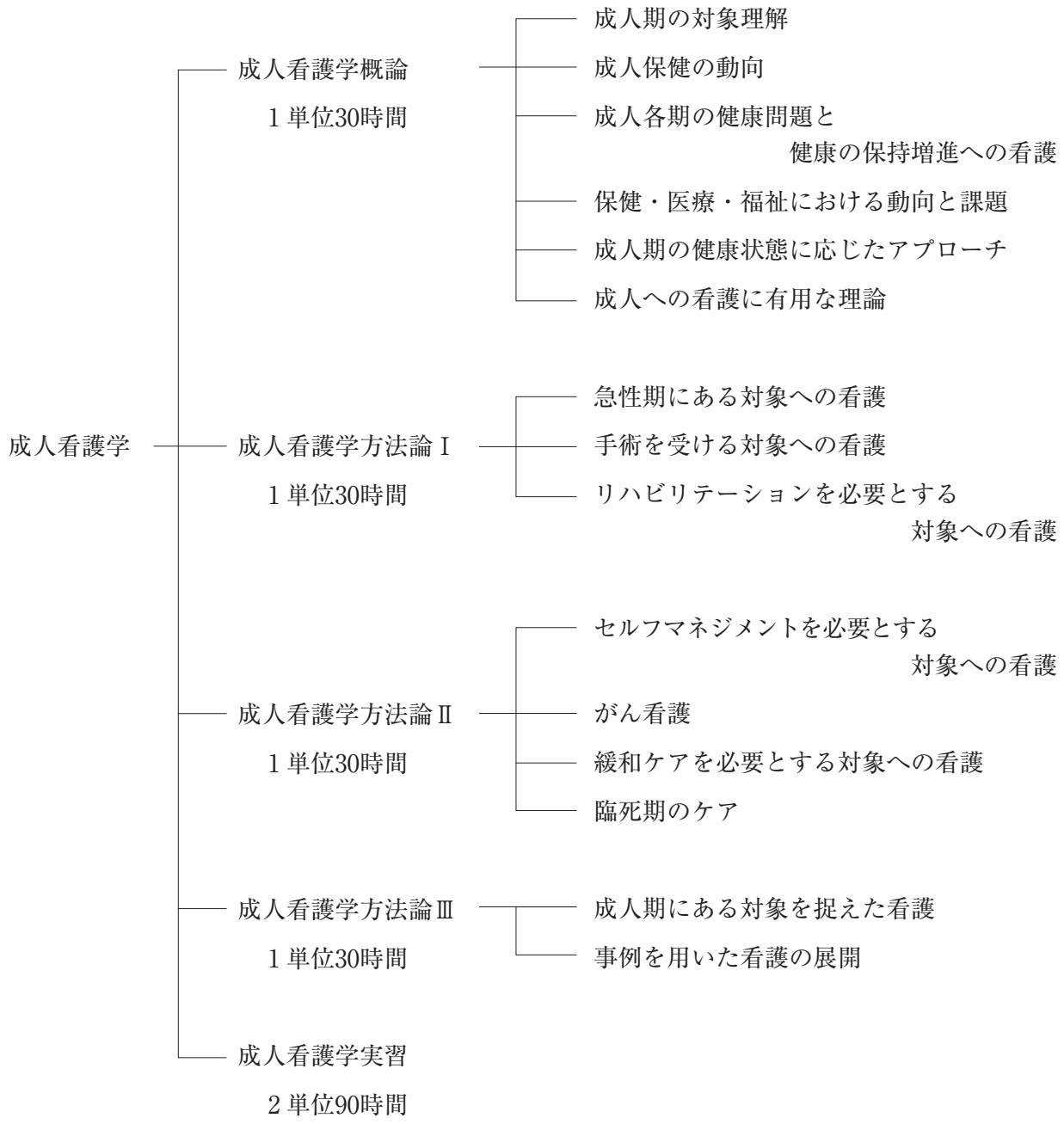
| 評価方法 | 課題レポート（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア，メディカ出版<br>地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術，メディカ出版<br>写真でわかる訪問看護　アドバンス，インターメディカ |
| 備考 | |

# 成人看護学

目的　　成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害時の看護を実践できる能力を養う。

目標　　1　成人期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえて、対象を総合的に理解する。
2　成人期にある対象の健康上の課題をとらえ、健康状態に応じた看護について理解する。
3　成人保健の動向および疾病予防対策を学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 成人看護学概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　成人各期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的にとらえ、健康問題と健康を保持増進するために必要な看護を学ぶ。<br>目標　1　成人各期の発達と特徴を学び、その時期に起こりやすい健康問題を理解する。<br>2　健康段階別の看護アプローチの基礎を理解する。<br>3　成人の特性や能力に応じた基本的なアプローチについて理解する。<br>4　成人保健の動向から現代社会における成人期の健康問題を考え、健康を保持増進する援助方法を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜成人期にある対象の理解＞<br>・成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 | 1）ライフサイクルにおける成人の位置づけ<br>2）成人各期の発達区分と発達課題<br>3）成人各期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | ＜成人を取り巻く環境＞<br>・近年の社会状況の変化が成人の生活に与える影響を理解する。 | 1）社会状況の変化<br>2）労働環境の変化 | | |
| 3 | ＜成人保健の動向＞<br>・成人保健の動向について理解し、医療従事者に求められる役割について考える。 | 1）人口<br>2）平均寿命と健康障害<br>3）死亡 | | |
| 4 | ＜生活習慣病＞<br>・生活習慣病の現状および予防のための施策や看護の役割について理解する。 | 1）生活習慣病の現状<br>2）生活習慣病対策 | | |
| 5<br>6 | ＜健康増進対策＞<br>・ヘルスプロモーションと看護について、個人の主体的な健康づくりや地域や職場における環境づくりの視点で学ぶ。<br>・職業に関連する健康問題と対策について理解する。 | 1）ヘルスプロモーション<br>2）健康日本21<br>3）職業性疾患、作業関連疾患<br>4）ストレスと健康 | | |
| 7<br>8<br>9 | ＜成人看護に活用される理論＞<br>・成人期にある人への看護を実践する上で有用な理論について理解する。 | 1）危機理論<br>2）ストレス・コーピング理論<br>3）セルフケア理論<br>4）成人学習理論<br>5）自己効力理論<br>6）ヒューマンケアリング<br>7）保健信念モデル<br>8）病みの軌跡 | 講義<br>演習 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | ＜成人期の健康レベルに応じた看護＞<br>・急性期にある成人期の患者とその家族の特徴と看護の基本を理解する。<br>・慢性疾患とともに生きる人の特徴とセルフマネジメントへの支援のあり方について学ぶ。<br>・人生の最期の時を支える医療と看護について理解する。<br>・外来看護・訪問看護の役割について理解する。 | 1）急性期の医療<br>2）急性期にある成人期の対象と家族の特徴<br>3）急性期看護の基本 | 講義 | 専任教員 |
| 11 | | 1）慢性期疾患とともに生きる人の特徴<br>2）障害がある人とその生活を支援する看護 | | |
| 12 | | 1）人生の最期の時における医療の現状<br>2）人生の最期の時を支える看護 | | |
| 13 | | 1）外来看護<br>2）訪問看護 | | |
| 14 | ＜移行支援＞<br>・患者が移行する療養の場とその特徴を理解する。<br>・患者が利用できるサービスの種類を知り、多職種連携と看護の役割を学ぶ。 | 1）療養の場の移行を支える看護<br>2）多職種連携<br>3）多元的な資源の活用 | | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |
| 評価方法 | 試験、グループワーク（相互評価） | | | |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論，医学書院<br>国民衛生の動向 | | | |
| 備　　考 | | | | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 成人看護学方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 急性期・周手術期、リハビリテーション期にある対象への看護を学ぶ。 |
| 目標 | 1　急性の経過をたどる成人期の対象および家族の特徴を学び、生命の危機状態を回避して、早期回復に向けて援助する方法を理解する。<br>2　リハビリテーション期にある成人期の対象および家族の特徴を学び、社会復帰を目指す援助の方法を理解する。<br>3　生活の再構築が必要な対象への看護を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜急性期にある対象への看護＞<br>・急性期にある成人期の対象と家族の特徴を理解する。<br>・成人期における急性期看護の特徴を理解する。 | 1）急性期にある対象の理解<br>⑴ 急性期とは<br>⑵ 急性期にある成人期の対象と家族の特徴<br>⑶ 急な発症における心理的反応<br>2）急性期にある成人期の対象への看護活動<br>⑴ 看護援助に必要な概念<br>⑵ 急性期の看護活動 | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4 | ＜救命救急と看護＞<br>・救命救急を必要とする対象の特徴と看護の基本を理解する。 | 1）生命危機状態の身体的変化<br>2）心肺停止とその影響<br>3）救急救命処置<br>⑴ 気道確保　⑵ 人工呼吸<br>⑶ 胸骨圧迫　⑷ AEDを用いた除細動 | 講義<br>演習 | 非常勤講師 |
| 5<br>6<br>7<br>8<br>9 | ＜手術を受ける対象への看護＞<br>・手術侵襲が生体に与える影響と回復過程を理解する。<br>・術後の合併症を予防し、回復を促すための術前・術中・術後看護を理解する。<br>・地域・在宅療養に向けた移行支援について理解する。 | 1）手術侵襲と生体の反応<br>⑴ 手術とは<br>⑵ 侵襲に対する生体反応と回復過程<br>⑶ 栄養管理<br>⑷ 輸血療法<br>⑸ 麻酔<br>2）手術前の看護<br>⑴ ICにおける支援<br>⑵ 術前オリエンテーション<br>⑶ 術後の回復促進に向けた取り組み<br>⑷ ボディーイメージの変容<br>⑸ 前日の準備<br>⑹ 当日の準備<br>3）手術中の看護<br>⑴ 手術時の体位の固定<br>⑵ 直接介助<br>⑶ 間接介助<br>4）手術後の看護<br>⑴ 帰室直後の看護<br>⑵ 疼痛管理<br>⑶ 創傷の管理<br>⑷ ドレーンの管理<br>⑸ 早期離床の意義<br>⑹ 主な合併症と発症時の援助<br>5）地域・在宅療養に向けた看護 | 講義 | 専任教員 |
| 10 | | 1）術前・術後に必要な看護技術<br>・ドレーンの管理<br>・弾性ストッキング・腹帯の着用<br>・カテーテル類を留置した対象への清潔・更衣 | 講義<br>演習<br>（2h） | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ＜リハビリテーションを必要とする対象への看護＞<br>・リハビリテーションに関連した考え方や支援施策について理解する。<br>・リハビリテーションを必要とする成人の対象と家族の特徴を理解する。<br>・障害を抱える対象に対する支援の視点や具体的方法について多面的に理解する。 | 1）リハビリテーション看護の考え方<br>⑴　リハビリテーションの定義<br>⑵　リハビリテーション看護とは<br>⑶　リハビリテーション期にある成人の対象と家族の特徴<br>⑷　時期・目的に応じたリハビリテーション看護の特徴<br>2）リハビリテーションに用いられる概念<br>⑴　国際生活機能分類（ＩＣＦ）<br>⑵　ノーマライゼーション<br>⑶　レジリエンス<br>3）リハビリテーションにおける倫理、法律、施策<br>⑴　障害者の定義<br>⑵　障害者の概念と権利<br>⑶　障害者を支える法律とサービス<br>4）身体機能のメカニズムとアセスメント<br>5）心理・社会的なアセスメントと支援<br>⑴　肯定的な自己概念：障害受容<br>⑵　家族<br>⑶　居住環境<br>⑷　社会の態度<br>6）チームアプローチと看護の役割<br>⑴　多職種によるチームアプローチ<br>⑵　チームにおける看護師の役割 | 講義 | 専任教員 |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | 6）生活の再構築へのアセスメントと援助<br>⑴　生活の再構築とは<br>⑵　ICFに基づくアセスメント<br>⑶　生活の再構築のための支援 | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ） | | 筆記試験 | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　別巻　臨床外科総論，医学書院<br>系統看護学講座　専門　成人看護学５消化器，医学書院<br>成人看護学⑤　リハビリテーション看護，メディカ出版 | | | |
| 備　　考 | | | | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 成人看護学方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　セルフマネジメントを必要とする対象とがんおよび終末期にある対象への看護を学ぶ。<br>目標　1　セルフマネジメントを必要とする成人期の対象および家族の特徴を学び、セルフコントロールをするための援助の方法を理解する。<br>2　成人期にあるがん患者とその家族の特徴およびがん治療について学び、治療に関する看護と療養生活を支える看護について理解する。<br>3　緩和ケアを必要とする成人期の対象および家族の特徴を学び、倫理面を考えた身体的・精神的苦痛の緩和方法と残された日々を有意義に過ごすための援助方法を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜セルフマネジメントを必要とする対象への看護＞<br>・セルフマネジメントの考え方とセルフマネジメントが必要な対象の特徴を理解する。 | 1）セルフマネジメントとは<br>(1) セルフマネジメントとは<br>(2) セルフマネジメント支援の構成要素と主要概念<br>(3) セルフマネジメントにおける看護師の責任と必要な能力<br>2）セルフマネジメントのための対象理解<br>(1) 本人と病気の位置関係モデル<br>(2) コンプライアンスとアドヒアランス | 講義 | 専任教員 |
| 2 | ・セルフケアマネジメントに関する様々な理論や考え方を理解する。 | 1）成人教育学<br>(1) 成人教育学の基本的な考え方とその特徴<br>2）エンパワメントモデル<br>(1) エンパワメントとパワレスネス<br>(2) エンパワメントのアプローチ<br>3）自己効力理論<br>(1) 効力予期と結果予期<br>(2) 自己効力を高める情報と指導者の自己効力 | | |
| 3 | ・セルフマネジメントを必要とする対象を理解する。<br>・セルフマネジメントの方法について理解する。 | 1）対象理解<br>(1) 援助者としての役割の明確化<br>(2) 生活者としての対象からの物語を聴く<br>2）援助方法<br>(1) 対象の気になっていることの明確化<br>(2) 共同目標の設定<br>(3) アクションプラン設定の援助<br>3）様々なマネジメントの概念 | | |
| 4 | ・主要な慢性病とともに生きるためのセルフマネジメントの支援方法を理解する。 | 1）慢性病とともに生きるセルフマネジメント<br>(1) 糖尿病のセルフマネジメントに向けた看護<br>①糖尿病が生活に及ぼす影響<br>②セルフマネジメント支援の実際<br>・簡易血糖測定、インスリン自己注射法 | 講義<br>演習 | 非常勤講師 |
| 5 | | (2) 腎不全のセルフマネジメントに向けた看護<br>①腎不全が生活に及ぼす影響<br>②セルフマネジメント支援の実際<br>・血液透析、腹膜透析 | | |
| 6 | | (3) 慢性呼吸不全のセルフマネジメント<br>①慢性呼吸不全が生活に及ぼす影響<br>②セルフマネジメント支援の実際<br>・呼吸法 | 講義<br>演習 | 非常勤講師 |
| 7 | | ・人工呼吸器の管理と看護<br>・在宅酸素療法の管理と看護 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8<br>9<br>10 | ＜がん看護＞<br>・がんを取り巻く現状を理解する。<br>・成人期のがん患者とその家族の特徴および苦痛の緩和に向けた看護を理解する。<br>・がん治療とその看護について理解する。<br>・地域で療養するがん患者への支援について理解する。<br>・がん患者の終末期におけるケアの考え方について理解する。 | 1）がん医療の現在<br>⑴ がんを取り巻く状況<br>⑵ がんについての理解：動向、リスク因子<br>2）がん患者の看護<br>⑴ がん患者の苦痛<br>①転移・浸潤に伴う心身の苦痛<br>②再発や今後の見通しに関連した心理的苦痛<br>③社会偏見や制約に伴う苦痛<br>④スピリチュアルな苦痛<br>3）がん治療と看護<br>⑴ 広範囲で侵襲の高い手術療法<br>⑵ 集約的治療<br>4）がん患者の療養における看護<br>⑴ 就労と就労環境の調整<br>⑵ 社会参加に向けた支援<br>5）がん患者における終末期の理解<br>⑴ 終末期のとらえ方<br>⑵ がん医療における意思決定支援<br>・アドバンスケアプランニング | 講義 | 非常勤講師 |
| 11<br>12<br>13 | ＜緩和ケアを必要とする対象への看護＞<br>・緩和ケアを必要とする対象を全人的に理解する。<br>・緩和ケアを必要とする対象の抱える全人的苦痛その治療・看護を理解する。<br>・緩和ケアを必要とする対象の家族の看護について理解する。<br>・緩和ケアを必要とする対象の終末期における看護について理解する。 | 1）緩和ケアとは<br>⑴ 緩和ケアとは<br>⑵ 緩和ケア、ターミナルケア、サポーティブケア、エンドオブライフケア<br>2）緩和ケアを必要とする対象の理解<br>⑴ 緩和ケアを必要とする成人期の対象の心身の特徴<br>⑵ 緩和ケアを必要とする成人期の対象の社会的・霊的特徴<br>⑶ 緩和ケアを必要とする成人期の対象の家族の特徴<br>3）緩和ケアを必要とする対象の全人的アセスメント<br>4）身体症状とその治療・看護<br>・疼痛、全身倦怠感、消化器症状、呼吸困難<br>5）精神症状とその治療・看護<br>⑴ 不安・不眠の治療と看護<br>⑵ 抑うつ・せん妄の治療と看護<br>6）社会的ケア：ソーシャルサポート<br>7）スピリチュアルケア<br>8）意思決定とコミュニケーション<br>⑴ がん医療における意思決定<br>・アドバンスケアプランニング<br>⑵ 意思決定を指させるコミュニケーション<br>9）家族ケア<br>⑴ 緩和ケアにおける看護師の役割<br>⑵ 予期悲嘆と家族ケア<br>⑶ 悲嘆と遺族ケア<br>10）緩和ケアと生命倫理 | 講義 | 非常勤講師 |
| 14 | ＜臨死期のケア＞<br>・臨死期にある対象の身体変化と看護を理解する。 | 1）臨死期にある対象の全身状態<br>2）臨死期のケア<br>3）臨終後のケア | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 成人看護学③　セルフマネジメント，メディカ出版<br>系統看護学講座　別巻　がん看護学，医学書院<br>成人看護学⑥　緩和ケア，メディカ出版 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 成人看護学方法論Ⅲ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 成人期にある対象の、急速に変化する健康状態に応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。 |
| 目標 | 成人期にある対象の看護上の問題をアセスメントし、臨床判断を用いた看護の展開ができる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | コースガイダンス<br>病態の理解 | ・成人期にある対象の特徴<br>・クリニカルパスとは<br>・胃癌の病態（原因・誘因、症状、治療および術後合併症）の理解 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | 事例の展開 | ・フェイスシート<br>・病理分析：個人ワーク | 講義<br>演習 | |
| 3 | | | | |
| 4 | | ・事例関連図の作成 | | |
| 5 | | ・問題リスト<br>・看護計画の立案：グループワークおよび発表 | | |
| 6 | | | | |
| 7 | 周手術期のクリニカルパスに沿った看護の理解 | ・幽門側胃切除術前後のクリニカルパス<br>：グループワークおよび発表<br>①検査の目的と看護<br>②治療・処置の目的と看護<br>③使用する薬剤の目的と看護<br>④リハビリの目的と看護<br>⑤清潔・排泄援助の留意点<br>⑥教育・指導の目的と看護 | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | ・胃切除術後の患者の生活指導 | | |
| 14 | | ・バリアンス発生時の対応 | | |
| 15 | まとめ・試験 | 試験<br>まとめ　：生活指導の発表 | | |

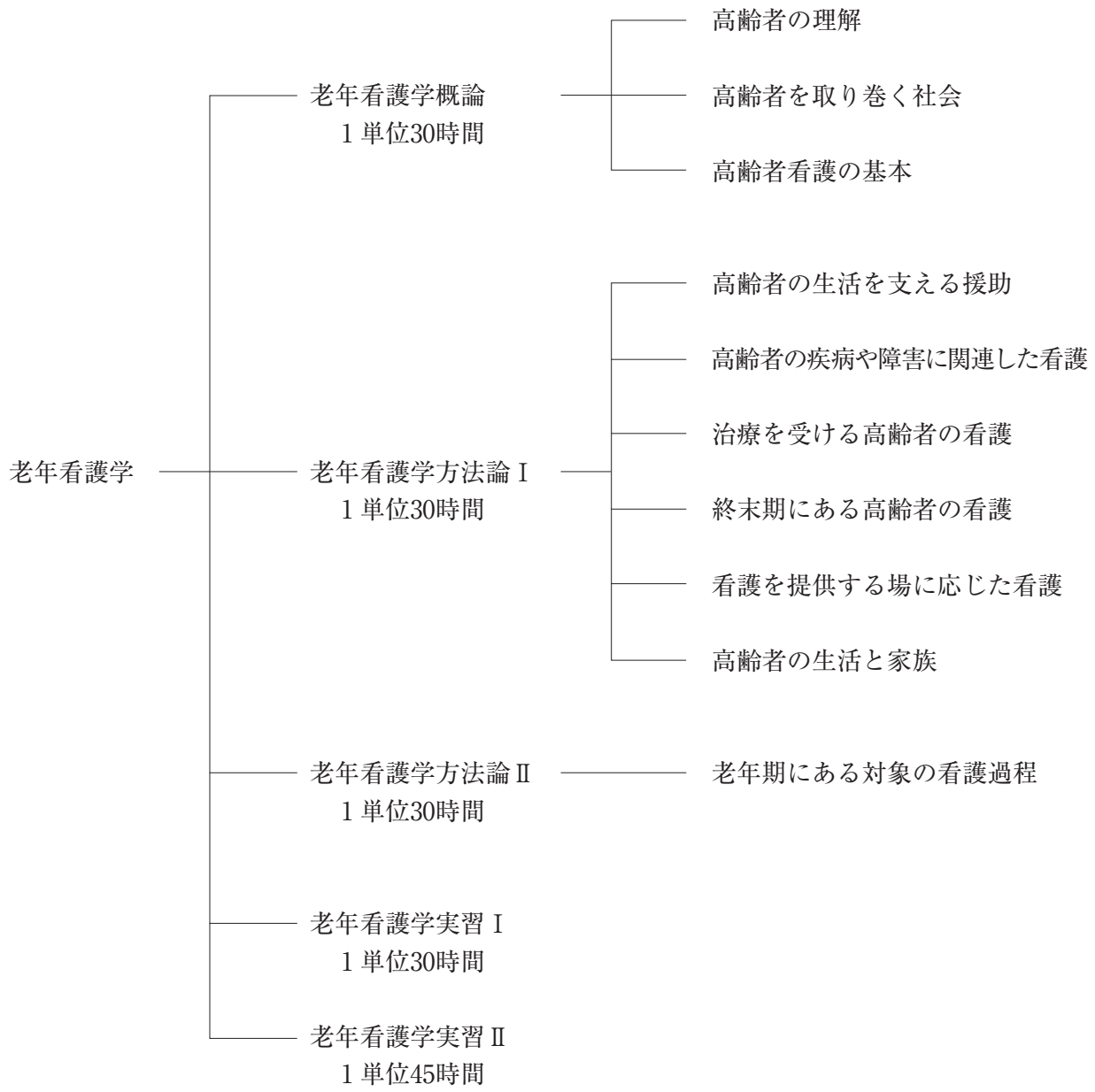
| 評価方法 | 試験（50点） / 提出物（50点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　別巻　臨床外科総論，医学書院<br>系統看護学講座　専門　成人看護学5消化器，医学書院 |
| 備考 | |

# 老年看護学

目的　　老年期にある対象と家族の特徴および対象を取り巻くソーシャルサポートについて理解し、加齢と健康障害による影響を受けた高齢者に対する臨床判断と看護が実践できる基礎的能力を養う。

目標
1　高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解できる。
2　高齢者の健康や生活の個別性や多様性が理解できる。
3　老年看護の目的と役割が理解できる。
4　高齢社会による社会の現状と動向が理解できる。
5　高齢者の日常生活に起こりやすい問題と健康的な生活を過ごすための援助が理解できる。
6　高齢者における健康障害の特徴と、残存機能を生かした自立した日常生活を支える援助が理解できる。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 老年看護学概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　老年期にある対象の健康と生活を理解するとともに，高齢者を取り巻く社会情勢を学び、老年看護の役割を理解する。<br>目標　1　老年期にある対象について理解する。<br>2　高齢者を取り巻く社会情勢と生活の実情を理解することで、保健・医療・福祉における課題がわかる。<br>3　老年看護の役割と老年看護活動の特徴を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜高齢者の理解＞<br>・様々な側面から高齢者を理解する。 | 1）高齢者とは<br>⑴　ライフサイクルからみた高齢者の理解<br>⑵　加齢と老化<br>⑶　人口の高齢化<br>⑷　健康指標からみた高齢者の理解<br>・平均寿命と健康寿命<br>・有病率と通院者率、受診状況<br>・死亡率・死因、死亡場所<br>⑸　生活視点からの老年期の理解<br>2）高齢者の特徴と理解<br>⑴　老年期の特徴<br>・発達課題　・喪失体験<br>⑵　高齢者の理解<br>・高齢者の多様性　・その人らしさの尊重<br>・生活史を通じた理解<br>3）高齢者にとっての健康<br>⑴　高齢者の健康と自立とは<br>⑵　高齢者の健康の目標<br>・サクセスフルエイジング<br>⑶　高齢者の健康状態のアセスメント<br>・日常生活自立の状態・高齢者総合評価（CGA）<br>・国際生活機能分類（ICF）<br>⑷　高齢者の自立を妨げる要因<br>・老年症候群　・フレイル<br>・サルコペニア・低栄養<br>4）高齢者とＱＯＬ | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4<br>5 | ＜高齢者を取り巻く社会＞<br>・高齢者を取り巻く社会資源について理解する。 | 1）高齢者を支える制度<br>⑴　高齢者を支える制度の全体像<br>⑵　医療保険制度<br>⑶　介護保険制度<br>⑷　成年後見制度<br>2）高齢者を支える社会資源<br>⑴　社会支援とは何か<br>⑵　サービスの内容・特徴からみた社会資源の種類<br>3）地域包括ケアシステムについて | 講義 | 非常勤講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14 | ＜高齢者看護の基本＞<br>・高齢者に対する看護の基本を理解する。 | 1）高齢者看護の特性<br>⑴　高齢者を看護する者の態度<br>⑵　高齢者の特性からみた高齢者看護<br>2）高齢者看護に関わる諸理論<br>⑴　身体面に関する理論<br>・生理的老化と病的老化　・老化理論<br>⑵　心理社会面に関する理論<br>3）高齢者看護に適用する理論<br>⑴　高齢者のもつ強みや能力を生かす方法論<br>・エンパワメント　・ストレングスモデル<br>⑵　看護理論の活用<br>・ロイの適応モデル<br>4）加齢に伴う変化<br>⑴　加齢に伴う変化の特徴<br>⑵　加齢に伴う身体的生理機能の変化<br>・高齢者疑似体験<br>⑶　加齢に伴う心理・精神的機能の変化<br>⑷　加齢に伴う社会的機能の変化<br>⑸　高齢者に対するフィジカルアセスメント<br>5）高齢者看護における倫理<br>・自己決定　・虐待と身体拘束<br>・死と医療　・尊厳死と延命治療<br>6）高齢者に起こりやすい疾患<br>⑴　高齢者に起こりやすい疾患の特徴<br>⑵　高齢者に起こりやすい疾患の病態<br>7）高齢者のリスクマネジメント<br>8）災害時の高齢者看護 | 講義 | 専任教員 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版<br>国民衛生の動向 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 老年看護学方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 1年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　老年期における健康障害の特徴を学び、健康と生活を支える援助方法を理解する。<br>目標　1　高齢者の生活を支える援助方法を理解する。<br>2　高齢者特有の症状や障害・疾病に応じた援助方法を理解する。<br>3　高齢者の終末期に対する看護を理解する。<br>4　高齢者の療養や生活の場に応じた看護を理解する。<br>5　高齢者を支える家族に対する看護を理解する。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜高齢者の生活を支える看護＞<br>・高齢者の状況をとらえ生活を支える援助方法を理解する。 | 1）高齢者の生活を支える看護<br>(1)　食生活を支える看護<br>(2)　排泄を支える看護<br>(3)　清潔を支える看護<br>(4)　活動と休息を支える看護<br>(5)　歩行・移動を支える看護 | 講義<br>演習 | 専任教員 |
| 4<br>5<br>6<br>7<br>8 | ＜高齢者の疾病や障害に関連した看護＞<br>・高齢者特有の症状や障害に応じた援助方法を理解する。 | 1）高齢者に起こりやすい症状・疾患・障害と看護<br>(1)　症状のアセスメント<br>・痛み、しびれ　・掻痒・脱水<br>・低体温、熱中症　・浮腫　・めまい<br>(2)　精神・神経機能障害と看護<br>・パーキンソン病　・うつ病　・せん妄<br>(3)　視覚・聴覚障害と看護<br>(4)　呼吸・循環機能障害と看護<br>・肺炎　・慢性閉塞性肺疾患<br>・高血圧　・脳卒中　・不整脈　・心不全<br>(5)　泌尿器障害と看護<br>(6)　その他高齢者に特徴的な症状・疾患・障害と看護<br>・がん　・糖尿病　・電解質代謝異常<br>・貧血 | 講義 | |
| 9 | | 2）スキンケア・褥瘡に関する看護 | 講義 | 非常勤講師 |
| 10<br>11 | ・認知症に関する知識を学び、基本的な援助方法を理解する。 | 1）認知症の看護<br>(1)　認知症の病態と要因<br>(2)　症状の理解とケア<br>(3)　評価方法<br>(4)　コミュニケーションの基本<br>(5)　療法的アプローチ：予防治療<br>(6)　家族支援とサポートシステム | 講義 | 非常勤講師 |
| 12 | ＜治療を受ける高齢者の看護＞<br>・治療を受ける高齢者に対する援助方法を理解する。 | 1）治療を受ける高齢者の看護<br>(1)　薬物療法を受ける高齢者に対する看護<br>(2)　手術療法を受ける高齢者に対する看護 | 講義 | 専任教員 |
| 13 | ＜終末期にある高齢者の看護＞<br>・終末期にある高齢者への援助方法を理解する。 | 1）終末期にある高齢者に対する看護<br>(1)　高齢者の終末期看護の実践<br>(2)　高齢者を看取る家族への援助 | | |
| 14 | ＜看護を提供する場に応じた看護＞<br>・保健施設、福祉施設における看護を理解する。 | 1）長期療養施設・在宅の看護<br>(1)　介護保険施設と看護<br>・特別養護老人ホーム、介護老人保健施設<br>(2)　地域密着型サービスと看護<br>・グループホーム、小規模多機能型居宅介護<br>(3)　デイサービス・デイケアと看護 | 講義 | 非常勤講師 |
| 15 | まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 老年看護学①　高齢者の健康と障害　　メディカ出版<br>老年看護学②　高齢者看護の実践　　メディカ出版 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 老年看護学方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 健康障害のある高齢者を対象として看護過程を展開することで、臨床判断と問題解決するための能力を養う。 |
| 目標 | 1　老年期にある対象の健康問題を明確にし、看護過程を展開するとともに、臨床判断できる基礎的能力を身に付ける。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14<br>15 | ＜老年期にある対象の看護過程＞<br>・老年期の特徴を踏まえた事例を展開することで、看護過程の展開方法を理解する。<br>・事例展開を通じ、臨床判断能力を養う。 | 1）老年期を対象とした看護過程の展開<br>⑴　老年期にある対象の特徴を踏まえた看護過程の展開とは<br>2）病態の理解<br>⑴　病態のとらえ方（病態マップの作成）<br>3）老年期にある対象の事例を用いた臨床判断と看護過程の実際<br>⑴　情報収集<br>・フェイスシートについて<br>・病理的状態について<br>・ヴァージニア・ヘンダーソンの14項目について<br>⑵　病理的状態のアセスメント<br>⑶　14項目のアセスメント<br>⑷　関連図について<br>⑸　問題点の明確化：問題リスト<br>⑹　看護計画の立案：家族への看護<br>⑺　看護援助の実際<br>・臨床判断をとらえた援助の実施<br>⑻　援助の実施と評価 | 講義<br>演習<br>（28ｈ） | 専任教員 |

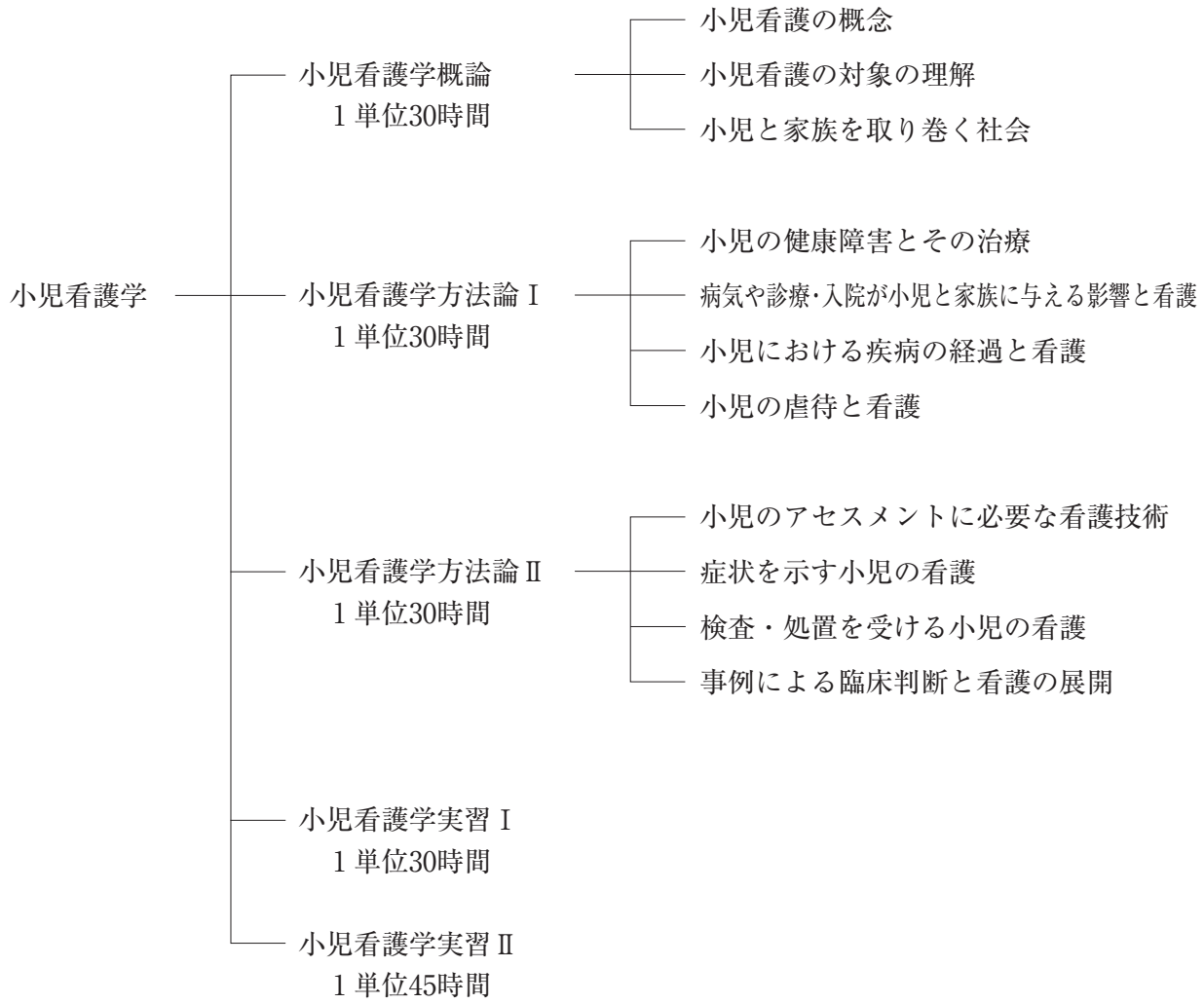
| 評価方法 | 課題レポート（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 老年看護学①　高齢者の健康と障害，メディカ出版<br>老年看護学②　高齢者看護の実践，メディカ出版<br>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践，ヌーヴェルヒロカワ<br>ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト　第4版，ヌーヴェルヒロカワ<br>系統看護学講座　別巻　家族看護学，医学書院 |
| 備考 | |

# 小児看護学

目的　　子どもの特徴を理解し、成長･発達に応じた擁護と、あらゆる健康段階にある子どもとその家族に必要な看護ができる基礎的能力を養う。

目標
1　子どもの各期における成長･発達の特徴と日常生活や小児を取り巻く環境の意義を理解する。
2　様々な健康障害をもつ子どもと家族を理解し、適切な看護ができる知識･技術を習得する。
3　子どもとその家族を取り巻く社会の状況と動向および健康を保持増進するための保健・医療・福祉について理解する。
4　子どもの人権を尊重できる態度を養う。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 小児看護学概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

**目的・目標**

目的　小児の成長・発達および小児各期の特徴や生活、小児を取り巻く環境、養護について学び、健全な成長・発達を促進するための看護を理解する。

目標
1　小児と家族を取り巻く環境を理解する。
2　小児の成長・発達と特徴を理解する。
3　小児各期の成長・発達に応じた健康な生活を送るための看護を理解する。
4　小児にとっての家族の機能と役割を理解する。
5　小児を保護する法律や政策を理解する。

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜小児看護の概念＞<br>・小児看護の目的・役割を理解する。 | 1）小児看護の対象の理解<br>2）小児看護の目的と役割<br>3）小児と家族の諸統計<br>4）小児医療・小児看護の変遷<br>5）小児看護の課題<br>6）小児看護における倫理 | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12 | ＜小児看護の対象の理解＞<br>・小児の成長発達のプロセスと評価方法を知り、小児の特徴を理解する。<br>・小児各期の特徴をふまえ健康な生活と看護を理解する。<br>・小児にとっての家族の機能と役割を理解する。 | 1）小児の成長・発達<br>(1) 成長・発達の概念<br>(2) 成長・発達の原則と影響因子<br>(3) 成長・発達の評価<br>2）小児各期における成長・発達の特徴<br>(1) 形態的発達<br>(2) 機能的発達<br>(3) 感覚・運動機能の発達<br>(4) 心理・社会的発達<br>3）小児各期の成長・発達に応じた養育および看護<br>(1) 遊びと運動の支援<br>(2) 事故防止<br>4）小児各期における栄養・食事の特徴<br>(1) 栄養の意義<br>(2) 栄養の特徴<br>(3) 食育<br>5）家族の特徴とアセスメント<br>(1) 小児にとっての家族<br>(2) 家族アセスメント<br>(3) 健康障害をもつ子どもと家族(プレパレーション) | | |
| 13<br>14 | ＜小児と家族を取り巻く社会＞<br>・小児を保護する法律や政策を理解する。 | 1）小児をめぐる法律と政策<br>(1) 児童福祉<br>(2) 虐待防止<br>(3) 学校保健<br>(4) 予防接種<br>(5) 医療費の支給 | 講義<br>演習 | |
| 15 | まとめ(1h)・試験(1h) | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院<br>国民衛生の動向 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 小児看護学方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次 前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 小児の健康障害の特徴および健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解し、健康段階に応じた看護をするための援助方法を習得する。 |
| 目標 | 1　小児の健康障害の特徴およびその治療を理解する。<br>2　健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。<br>3　小児の健康障害に応じた看護の方法を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜小児の健康障害とその治療＞<br>・小児に出現しやすい疾病・症状とその治療について理解する。 | 1）遺伝子・染色体の異常と形態異常<br>(1) ダウン症候群 (2) ターナー症候群<br>2）代謝性疾患<br>(1) 先天性代謝異常<br>(2) 糖尿病（成人との違いのみ）<br>3）新生児の疾患<br>(1) 高ビリルビン血症<br>(2) 新生児仮死<br>(3) 低出生体重児<br>(4) 分娩外傷<br>(5) 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症<br>4）循環器疾患<br>(1) 先天性心疾患<br>(2) 後天性心疾患（川崎病を含む）<br>5）血液・造血器疾患<br>(1) 血友病<br>(2) 紫斑病（血小板減少性，アレルギー性） | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | | | | |
| 3 | | 6）悪性新生物<br>(1) 白血病 (2) 脳腫瘍<br>7）腎・泌尿器疾患<br>(1) 泌尿・生殖器の奇形 (2) 腎糸球体疾患<br>(3) ネフローゼ症候群<br>8）神経疾患<br>(1) てんかん (2) 熱性けいれん<br>(3) 脳性麻痺 (4) 筋ジストロフィー<br>(5) 水頭症<br>9）精神疾患<br>(1) 自閉スペクトラム症（広汎性発達障害）<br>(2) 注意欠如・多動症 | 講義 | 非常勤講師 |
| 4 | | | | |
| 5 | | 10）アレルギー性疾患<br>(1) 小児気管支喘息 (2) アトピー性皮膚炎<br>11）感染症<br>(1) 麻疹 (2) 風疹 (3) 水痘<br>(4) 髄膜炎 (5) 百日咳 (6) 流行性耳下腺炎<br>(7) 伝染性紅斑<br>12）呼吸器疾患<br>(1) 肺炎<br>13）消化器疾患<br>(1) 唇裂・口蓋裂 (2) 腸重積症<br>(3) 肥厚性幽門狭窄症 (4) ロタウイルス腸炎<br>(5) ノロウイルス感染症 | 講義 | 非常勤講師 |
| 6 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7<br>8 | ＜病気や診療･入院が小児と家族に与える影響と看護＞<br>・病気・障害をもつ小児と家族の看護について理解する。<br>・小児の状況に特徴づけられる看護について理解する。 | 1）病気・障害をもつ小児と家族の看護<br>⑴ 病気・障害が小児と家族に与える影響<br>⑵ 小児の健康問題と看護<br>2）外来における小児と家族の看護<br>⑴ 外来の特徴と看護の役割<br>⑵ 外来の機能と求められる看護<br>3）入院中の小児と家族の看護<br>⑴ 入院環境と看護の役割<br>⑵ 入院中の小児と家族の特徴<br>⑶ 入院中の小児と家族の看護<br>4）障害のある小児と家族の看護<br>⑴ 障害のとらえ方<br>⑵ 障害のある小児と家族の特徴<br>⑶ 障害のある小児と家族の社会的支援<br>5）在宅療養中の小児と家族の看護<br>6）災害時の小児と家族の看護 | 講義 | 非常勤講師 |
| 9<br>10<br>11<br>12<br>13 | ＜小児における疾病の経過と看護＞<br>・小児における疾病の経過と看護について理解する。<br>・特殊な状況にある小児と家族の看護について理解する。 | 1）慢性期にある小児と家族の看護<br>⑴ 慢性期の特徴<br>⑵ 小児と家族の看護<br>2）急性期にある小児と家族の看護<br>⑴ 急性期の特徴<br>⑵ 小児と家族の看護<br>3）生活制限のある小児と家族の看護<br>⑴ 隔離<br>⑵ 活動制限<br>⑶ 食事制限<br>4）周手術期の小児と家族の看護<br>⑴ 周手術期の特徴<br>⑵ 小児と家族の看護<br>5）アデノイド増殖症で手術を受ける子どもへのプレパレーション<br>6）終末期の小児と家族の看護<br>⑴ 終末期の特徴<br>⑵ 小児と家族の看護 | 講義<br>演習<br>（2 h） | 専任教員 |
| 14 | ＜小児の虐待と看護＞<br>・虐待を受けている小児と家族の看護について理解する。 | 1）児童虐待と看護<br>⑴ 児童虐待へ対策の経緯と現状<br>⑵ 児童虐待の特徴と看護 | 講義 | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論，医学書院<br>写真でわかる小児看護技術　アドバンス，インターメディカ |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 小児看護学方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 健康上の問題をもつ子どもの看護を学ぶとともに、臨床判断を含めた看護を展開する基礎的能力を養う。 |
| 目標 | 1　小児のアセスメントに必要な知識と技術を習得する。<br>2　健康障害をもつ子どもの看護を症状別、検査･処置別に理解する。<br>3　小児看護の特性をふまえ、健康問題をアセスメントし、臨床判断の基礎的能力を習得する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜症状を示す小児の看護＞<br>・子どもの病気の症状とその看護を理解する。 | 1）症状を示す小児の看護<br>⑴　それぞれの症状の特徴と原因<br>①不機嫌・啼泣<br>②痛み<br>③呼吸困難<br>④けいれん<br>⑤発熱<br>⑥嘔吐<br>⑦下痢<br>⑧脱水<br>⑵　アセスメントと看護 | 講義 | 専任教員 |
| 3<br>4<br>5 | ＜小児のアセスメントに必要な看護技術＞<br>・小児看護学に特有な技術を理解する。 | 1）小児のアセスメントに必要な技術<br>⑴　アセスメントに必要な技術<br>①コミュニケーション<br>②バイタルサイン<br>③身体測定<br>（身長、体重、胸囲、頭囲、大泉門）<br>⑵　身体的アセスメント<br>①フィジカルアセスメント | 講義<br>実技<br>（2ｈ） | |
| 6<br>7 | ＜検査･処置を受ける小児の看護＞<br>・子どもが受ける検査･処置時の看護を理解する。 | 1）検査・処置を受ける小児の看護<br>⑴　検査・処置総論<br>⑵　薬物動態と薬用量の決定<br>⑶　検査・処置各論<br>①与薬（内服・輸液・注射）の方法と注意事項、輸液管理、持続点滴の固定方法<br>②検体採取（採血・採尿・測尿）<br>③穿刺（骨髄・腰椎）の固定方法と注意事項<br>④呼吸症状の緩和（吸引・吸入時のポイント、ネブライザー吸入の工夫）<br>⑤蘇生法（人工呼吸法と注意事項、心肺蘇生法と注意事項）<br>2）救命救急処置を受ける小児の看護<br>⑴　小児救急におけるトリアージと対応<br>⑵　小児の一次救命処置<br>⑶　頭部外傷・転落<br>⑷　誤飲・誤嚥<br>⑸　熱傷 | 講義 | 非常勤講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14 | ＜事例による看護の展開＞<br>・小児の特徴をふまえた看護の展開ができる。 | 1）小児の特徴と場をふまえた看護<br>2）事例による看護の展開<br>⑴ アセスメントの視点<br>⑵ 情報の整理・分析<br>⑶ 看護援助の方向性 | 講義<br>演習 | 専任教員 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |
| 評価方法 | 筆記試験（50点） 課題レポート（50点） | | | |
| 参考文献と資料 | 系統的看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院<br>系統的看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論，医学書院<br>写真でわかる小児看護技術　アドバンス，インターメディカ | | | |
| 備　　考 | | | | |

# 母性看護学

目的　女性のライフサイクル各期において、対象自身が健康を維持増進するための看護と周産期に必要な看護を理解する。さらに、母性看護において重要な生命倫理観や母性観、父性観について考えを深める。

目標
1　母性看護の概念と意義を理解する。
2　女性のライフサイクル各期における特徴と、女性がライフサイクルを健全に送るために必要な看護を理解する。
3　新しい家族の誕生期にある対象が、健康な生活を送るために必要な看護を理解する。
4　母性保健の動向を学び、母性看護における母子保健医療チームの一員としての看護の役割を理解する。
5　母性看護の学びを通し、生命倫理観、母性・父性観について考えを深める。

構成

- 母性看護学
  - 母性看護学概論　1単位30時間
    - 母性看護の概念
    - 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状
    - 母性看護の対象の理解
    - 母性看護の対象へのアプローチ
    - 女性のライフサイクル各期における看護
    - リプロダクティブヘルスケア
  - 母性看護学方法論Ⅰ　1単位30時間
    - 妊娠期における看護
    - 分娩期における看護
    - 産褥期における看護
    - 新生児期における看護
  - 母性看護学方法論Ⅱ　1単位15時間
    - ハイリスクな状態にある妊産褥婦の看護
  - 母性看護学方法論Ⅲ　1単位15時間
    - 事例による周産期看護の展開
  - 母性看護学実習　2単位60時間

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 母性看護学概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　母性看護の基盤となる概念、女性のライフサイクル各期における特徴を学び、女性がライフサイクルを健全に送るために必要な看護を理解する。<br>目標　1　母性看護の概念となる概念を理解する。<br>2　母性看護の対象と特徴を理解する。<br>3　母性看護の変遷と現状、母性看護が提供される場、職種および提供システムについて理解する。<br>4　母性の健康を保持・増進するための看護を理解する。<br>5　自己の生命倫理観、母性観・父性観を深める。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜母性看護の基盤となる概念＞<br>・母性看護の概念と意義を理解する。 | 1）母性とは<br>⑴　親になることと母性<br>⑵　母性をめぐる定義<br>⑶　母性の特性<br>⑷　母性看護における母性<br>2）セクシュアリティ<br>⑴　セクシュアリティに関する概念<br>⑵　人間の性の特質<br>⑶　性的マイノリティ<br>3）リプロダクティブヘルス／ライツ<br>⑴　リプロダクティブヘルス／ライツとは<br>⑵　リプロダクティブヘルス／ライツの課題<br>4）母性看護のあり方<br>⑴　母性看護の理念<br>⑵　母性看護の課題と展望<br>5）母性看護における倫理<br>⑴　生命倫理と看護倫理 | 講義 | 非常勤講師 |
| 3<br>4 | ＜母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状＞<br>・母性看護の変遷と対象を取り巻く社会の現状を理解する。 | 1）母性看護の歴史的変遷と現状<br>⑴　母性看護の変遷<br>⑵　母子保健統計と推移<br>⑶　母性看護に関する法律と施策<br>2）母性看護提供システム<br>3）母性看護の場と職種 | 講義 | |
| 5<br>6<br>7 | ＜母性看護の対象理解＞<br>・母性看護の対象を理解する。 | 1）女性のライフサイクル各期の特徴<br>2）女性のライフサイクル<br>⑴　現代女性のライフサイクル<br>3）母性の発達・成熟・継承<br>⑴　女性性の発達<br>⑵　母性・父性・親性の発達<br>⑶　母子関係と愛着・母子相互作用<br>⑷　母性の世代間伝達 | 講義<br>演習<br>（4h） | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8<br>9 | ＜母性看護の対象へのアプローチ＞<br>・母性看護の対象に用いられるアプローチを理解する。 | 1）母性看護に使われる看護技術<br>⑴ 女性の意思決定を支える看護技術<br>⑵ ヘルスプロモーションのための看護技術<br>⑶ 親になる過程および家族適応を促す看護技術<br>⑷ 不快症状・苦痛を緩和するための看護技術 | 講義 | 非常勤講師 |
| 10<br>11<br>12 | ＜女性のライフステージ各期における看護＞<br>・女性のライフサイクル各期における健康問題および看護を理解する。 | 1）思春期の健康問題と看護<br>⑴ 月経異常<br>2）成熟期の健康問題と看護<br>⑴ 月経困難症<br>3）更年期・老年期の健康問題と看護<br>⑴ 更年期症状・更年期障害<br>⑵ 尿失禁<br>⑶ 骨粗鬆症 | 講義 | |
| 13<br>14 | ＜リプロダクティブヘルスケア＞<br>・女性の一生を通じた健康問題について、その現状と看護を理解する。 | 1）家族計画<br>2）人工妊娠中絶と看護<br>3）喫煙女性の健康と看護<br>4）性暴力を受けた女性に対する看護<br>5）不妊夫婦と看護 | 講義 | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　母性看護学［1］　母性看護学概論，医学書院<br>看護者の基本的責務　日本看護協会出版会<br>国民衛生の動向 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 母性看護学方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 妊娠・分娩・産褥期における母子の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護が提供できる基礎的知識・技術を習得する。 |
| 目標 | 1　妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と対象の身体的・心理・社会的特性を理解する。<br>2　妊産褥婦および新生児とその家族に必要な看護を理解する。<br>3　新生児に必要な援助技術を習得する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ＜妊娠期における看護＞<br>・妊娠期にある対象と、妊婦と家族に対する看護を理解する。 | 1）妊娠期の身体的特性<br>(1) 妊娠の生理<br>(2) 胎児期の発育とその生理<br>(3) 母体の生理的変化<br>2）妊娠期の心理・社会的特性<br>3）妊婦と胎児のアセスメント<br>(1) 妊娠とその診断<br>(2) 胎児の発育と健康状態の診断<br>(3) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント<br>4）妊婦と家族の看護<br>(1) 妊婦の健康相談・教育の実際<br>(2) 親になるための準備教育 | 講義 | 非常勤講師 |
| 4<br>5 | ＜分娩期における看護＞<br>・分娩期にある対象と、産婦と家族に対する看護を理解する。 | 1）分娩の要素<br>(1) 分娩の3要素<br>(2) 胎児と子宮および骨盤との関係<br>(3) 分娩の機序<br>2）分娩の経過<br>(1) 分娩の進行と身体的変化<br>(2) 産痛<br>(3) 分娩が胎児におよぼす影響<br>(4) 産婦の心理・社会的変化<br>3）産婦・胎児、家族のアセスメント<br>(1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント<br>4）産婦と家族の看護<br>(1) 安全分娩への看護<br>(2) 安楽な分娩への看護<br>(3) 出産体験が肯定的になるための看護<br>(4) 基本的ニードに関する看護 | 講義 | |
| 6<br>7<br>8<br>9<br>10 | ＜産褥期における看護＞<br>・産褥期にある対象と、褥婦と家族に対する看護を理解する。 | 1）産褥経過<br>(1) 産褥期の身体的変化<br>(2) 産褥期の心理・社会的変化<br>2）褥婦の健康状態のアセスメント<br>(1) 産褥経過の診断<br>(2) 褥婦の健康状態のアセスメント<br>3）褥婦と家族の看護<br>(1) 身体機能の回復および進行性変化への看護<br>(2) 児との関係確立への看護<br>(3) 育児にかかわる看護<br>(4) 家族関係再構築への看護<br>4）施設退院後の母子と家族への看護 | 講義 | 専任教員 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11<br>12<br>13<br>14 | ＜新生児期における看護＞<br>・新生児の身体的特徴と、新生児に対する看護を理解し、必要な援助技術を習得する。 | 1）新生児の生理<br>⑴ 新生児とは<br>⑵ 新生児の機能<br>2）新生児の健康状態のアセスメント<br>⑴ 子宮外生活への適応状態のアセスメント<br>⑵ 新生児の生活のアセスメント<br>3）新生児の看護<br>⑴ 出生直後の看護<br>⑵ 出生後から退院時までの看護<br>⑶ 生後1か月健診に向けた退院時の看護<br>⑷ 新生児の身体の清潔の援助技術の実際 | 講義<br>（実技）<br>（4 h） | 専任教員 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　母性看護学〔2〕 母性看護学各論，医学書院<br>写真でわかる母性看護技術　アドバンス，インターメディカ |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 母性看護学方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | ハイリスク状態にある妊産褥婦の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護を理解する。 |
| 目標 | 1　ハイリスク状態にある母子の身体的、心理・社会的特性を理解する。<br>2　ハイリスク状態にある母子とその家族に必要な看護を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜ハイリスクな状態にある妊産褥婦の看護＞<br>・妊娠、分娩、産褥期のハイリスクな状態と看護を理解する。 | 1）妊娠経過の健康逸脱<br>(1) 糖代謝異常合併妊娠<br>(2) 妊娠期の感染症<br>(3) 妊娠高血圧症候群<br>(4) 多胎妊娠<br>(5) 妊娠持続時間の異常 | 講義 | 非常勤講師 |
| 2 | | 2）分娩経過の健康逸脱<br>(1) 前置胎盤<br>(2) 常位胎盤早期剥離<br>(3) 前期破水<br>(4) 帝王切開術<br>(5) 胎児機能不全<br>(6) 分娩時異常出血 | | |
| 3 | | 3）産褥経過の健康逸脱<br>(1) 子宮復古不全<br>(2) 産褥熱 | | |
| 4 | | 4）健康逸脱状況にある妊産褥婦の看護<br>(1) 高年・若年妊婦の看護<br>(2) 切迫流早産の妊婦の看護<br>(3) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護<br>(4) 帝王切開術を受ける産婦の看護<br>(5) 本人あるいは児の健康上の問題がある褥婦の看護<br>(6) 児を亡くした褥婦・家族の看護 | 講義 | 専任教員 |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | 試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］　母性看護学各論，医学書院 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 母性看護学方法論Ⅲ | 単位数 | 1 | 時期 | 3年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | 目的　母性看護の対象の特徴を捉え、看護に関する知識を統合し、対象に必要な看護が理解できる。<br>目標　1　母性の特性と周産期にある対象の生理的な変化を捉え、その過程を促進する看護を導くことができる。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜事例による看護の展開＞<br>・母性の特性をふまえ、周産期の対象に必要な看護の方向性を導くことができる。 | 1）ウェルネスの考え方<br>2）周産期にある対象のアセスメントの視点<br>⑴　妊娠・分娩・産褥期のアセスメント視点<br>⑵　新生児のアセスメント視点 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | | 3）紙上事例による看護の展開<br>⑴　アセスメント<br>①対象の基礎的な情報のアセスメント<br>②対象の健康状態のアセスメント<br>⑵　対象の全体像と看護の方向性<br>4）まとめ | 講義<br>演習<br>（14ｈ） | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |

| 評価方法 | 課題レポート（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 系統看護学講座　専門分野　母性看護学［1］　母性看護学概論，医学書院<br>系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］　母性看護学各論，医学書院 |
| 備考 | |

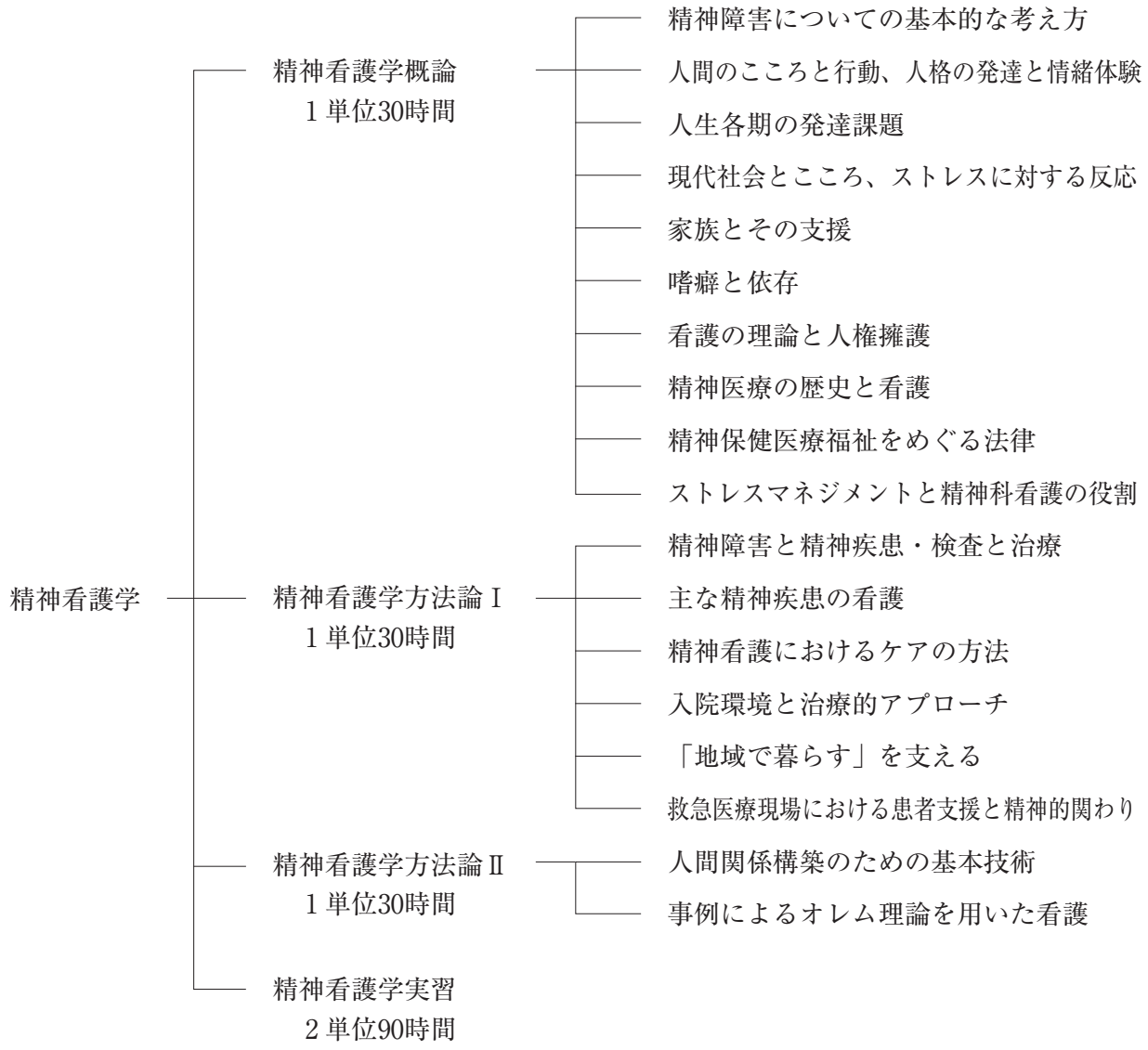
# 精神看護学

目的　　すべてのライフサイクルにおける人の心の発達を理解し、精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人の看護が実践できる知識・技術・態度を養う。

目標

1　精神看護の概念と意義を理解する。
2　精神の機能と構造を学び、現代社会に生きる人々の心の健康について理解を深める。
3　精神に障害をもつ人に対して必要な看護を行うための臨床判断ができる基礎的知識・技術・態度を身につける。
4　精神の健康問題を抱える人々を社会で生活する人と捉え、保健医療福祉チームにおける看護の役割と社会資源の活用を学ぶ。
5　精神の健康問題を理解し、対象とのかかわりの中で精神に障害をもつ人に対する人権擁護と人間を尊重する態度を身につける。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 精神看護学概論 | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | 目的　こころの健康について理解を深め、精神保健看護の機能と役割を理解する。<br>目標　1　こころの健康について理解し、精神の健康・不健康について考える。<br>2　精神の健康について、ライフサイクルにおける危機および現代社会の環境的要因から理解する。<br>3　社会の変化に伴う精神保健医療活動を理解し、人権擁護と倫理的配慮および看護の役割について考える。 |
|---|---|

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | ＜精神障害についての基本的な考え方＞<br>・人間の健康を、身体的・心理的・社会的な視点から理解できる。 | 1）こころの健康とは<br>2）障害のとらえ方<br>3）社会の変化とメンタルヘルス<br>4）精神障害が生じるきっかけとプロセス<br>5）対象理解の難しさ<br>6）精神障害と闘病体験 | 講義 | 専任教員 |
| 3 | ＜人間のこころと行動＞<br>・こころのありようをめぐる基本的事項を理解する。 | 1）人のこころのさまざまな理解<br>2）こころと環境<br>3）こころの危機と危機介入 | | |
| 4 | ＜人格の発達と情緒体験＞<br>・他者との出会いやその関係性が、人格形成に与える影響を理解する。 | 1）対象関係論の立場から<br>2）対象との出会い<br>3）母子関係の発展 | | |
| 5 | ＜人生各期の発達課題＞<br>・ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴を理解する。<br>・危機に対する反応とプロセスを理解する。 | 1）ライフサイクルとストレス<br>2）ライフサイクル各期における特徴と危機 | | |
| 6 | ＜現代社会とこころ＞<br>・現代社会におけるこころのありようや、親や子どもがおかれている状況について理解し、その問題点を考える。 | 1）現代社会の特徴<br>2）現代社会とこころの問題<br>3）現代社会における家族関係 | | |
| 7 | ＜ストレスに対する身体的反応＞<br>・こころと身体のつながりについて理解する。<br>・人間の性格傾向と生活様態、行動パターンの関連を理解する。 | 1）心身症とは<br>2）心身症の病態<br>3）心身症を有する患者の生活傾向<br>4）心身症の例<br>5）心身症の患者への看護 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | ＜家族とその支援＞<br>・精神障害者の家族が置かれている状況を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。 | 1）家族とは何か<br>2）家族をみる視点<br>3）家族の課題<br>4）精神疾患と家族 | 講義 | 専任教員 |
| 9 | ＜嗜癖と依存＞<br>・嗜癖・依存と反社会的行動との関連を理解する。 | 1）依存のとらえ方<br>2）嗜癖の病<br>3）依存症 | | |
| 10<br>11 | ＜看護の理論と人権擁護＞<br>・医療における精神障害者の処遇をめぐる問題を理解する。<br>・地域生活における障害者の権利擁護について理解する。 | 1）精神科医療におけるアドボカシーの必要性<br>2）生活の場としての治療環境<br>3）さまざまな拘束の形と看護師による関わり<br>4）援助者・被援助者のあるべき関係<br>5）地域生活における権利擁護 | | |
| 12 | ＜精神医療の歴史と看護＞<br>・精神医療の変遷を学び、現状と問題点について理解する。 | 1）古代から中世までの精神医療<br>2）鎖からの解放とモラルトリートメント<br>3）近代の精神医療<br>4）20世紀の精神医療<br>5）日本の20世紀の精神医療 | | |
| 13 | ＜精神保健医療福祉をめぐる法律＞<br>・精神科医療に関する法の変遷を理解し、現在の精神科医療の問題点を考える。 | 1）精神保健医療にかかわる法制度の変遷<br>2）精神保健福祉法の基本的な考え方<br>3）精神保健福祉法による入院形態 | | |
| 14 | ＜ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割＞<br>・ストレスマネジメントの方法を学び、心身の健康保持の大切さを理解する。 | 1）看護師のストレスマネジメント<br>2）精神看護にかかわる資格認定 | | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本，メディカ出版 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 精神看護学方法論Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　精神障害および障害を抱える対象への看護の視点、および療養する場に応じた回復につなげる看護を理解する。<br>目標　1　精神障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療を理解する。<br>2　主な精神疾患に対する看護について理解する。<br>3　精神に障害をもつ人に必要な看護を理解する。<br>4　精神科治療に重要な環境について理解する。<br>5　精神障害のある対象が地域で暮らすために必要な社会資源と地域生活支援の方法を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4 | ＜精神症状と精神疾患＞<br>・主な精神症状と精神疾患を理解する。 | 1）精神疾患総論<br>⑴　主な精神症状<br>⑵　精神疾患の診断<br>2）精神発達症：ASD、ADHD、SLD<br>3）統合失調施症<br>4）抑うつ障害と双極障害<br>5）不安障害<br>6）強迫性障害<br>7）ストレス因関連障害<br>8）解離性障害<br>9）身体症状症および関連症群<br>10）摂食障害<br>11）睡眠―覚醒障害<br>12）物質関連障害および嗜癖性障害群<br>13）神経認知障害<br>14）パーソナル障害 | 講義 | 非常勤講師 |
| 5 | ＜医学的検査と心理検査、精神科の治療＞<br>・精神科で行われる検査や治療について理解する。 | 1）医学的検査<br>2）心理検査<br>3）薬物療法<br>4）精神療法<br>5）社会療法<br>6）電気けいれん療法 | | |
| 6<br>7<br>8 | ＜主な精神疾患の看護＞<br>・主な精神疾患の看護を理解する。 | 1）精神発達症の看護の視点<br>2）統合失調症の看護の視点<br>3）抑うつ障害と双極障害の看護の視点<br>4）不安障害の看護の視点<br>5）強迫性障害の看護の視点<br>6）ストレス因関連障害の看護<br>⑴　PDSD患者に対する看護の視点<br>7）解離性障害の看護の視点<br>8）身体症状症および関連症の看護の視点<br>9）摂食障害患者への看護の視点<br>10）睡眠―覚醒障害の看護の視点<br>11）物質関連障害および嗜癖性障害群の看護<br>⑴　物質関連障害の看護の視点 | 講義 | 非常勤講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | | 12）神経認知障害の看護<br>⑴　認知症の看護の視点<br>⑵　せん妄の看護の視点<br>13）パーソナリティー障害の看護の視点 | 講義 | 非常勤講師 |
| 10 | ＜精神看護におけるケアの方法＞<br>・精神障害のある対象に対する看護の方法を理解する。 | 1）治療的関わりの考え方<br>2）日常生活行動の援助<br>3）服薬治療に関わる援助 | 講義 | 専任教員 |
| 11 | ＜入院環境と治療的アプローチ＞<br>・精神障害のある対象の治療の場である病棟環境について理解する。 | 1）治療の場としての精神科病棟<br>2）治療的環境を整える | | |
| 12<br>13 | ＜「地域で暮らす」を支える＞<br>・日本における精神障害のある対象と治療現場の現状がわかる。<br>・地域生活を支える社会資源について理解し、その活用について考える。 | 1）日本における精神障害者と精神病床の現状<br>2）「入院治療」から「地域社会」での生活へ<br>3）家族の支援<br>4）災害時の支援<br>5）地域生活を支える社会資源の活用<br>6）地域生活移行支援の実際 | 講義 | 非常勤講師 |
| 14 | ＜救急医療現場における患者支援と精神的関わり＞<br>・救急搬送される対象の支援方法について理解する。 | 1）自殺企図により救急搬送される患者<br>2）急性薬物中毒で救急搬送される患者 | 講義 | 専任教員 |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 精神看護学②　精神障害と看護の実践，メディカ出版 |
| 備　　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 精神看護学方法論Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　精神に障害をもつ対象の理解や看護に関する知識を総合し、人間関係を築く方法および問題解決能力を養う。<br>目標　1　対象との相互作用や自己理解を向上させる技術を修得する。<br>2　精神障害をもつ対象の健康問題のアセスメント、および障害をもつ対象とその家族に必要な看護を理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4 | ＜人間関係構築のための基本技術＞<br>・精神に障害をもつ対象へのコミュニケーションについて理解できる。<br>・看護場面を再構成できる。 | 1）コミュニケーション技法<br>⑴　基本姿勢と技法<br>⑵　心に健康問題のある対象とのコミュニケーションの特徴<br>⑶　コミュニケーションに影響を与える要因<br>2）自己理解と他者理解<br>⑴　プロセスレコード<br>①プロセスレコードの理論<br>②ロールプレイング<br>・構成要素<br>・具体的な展開方法<br>③看護場面の再構成 | 講義<br>演習<br>（24ｈ） | 専任教員 |
| 5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14<br>15 | ＜事例を用いた看護の展開＞<br>・精神に障害をもつ人の特徴をふまえた看護の展開ができる。 | 1）事例による看護の展開<br>⑴　情報整理、アセスメント<br>・病態把握：精神・情緒状態の把握<br>家族背景と生活体験・成育歴の把握<br>対人交流パターンの把握<br>・基本的欲求の状態<br>⑵　関連図作成<br>⑶　問題の整理、優先順位の決定<br>⑷　援助の視点：生活支援、家族支援 | | |

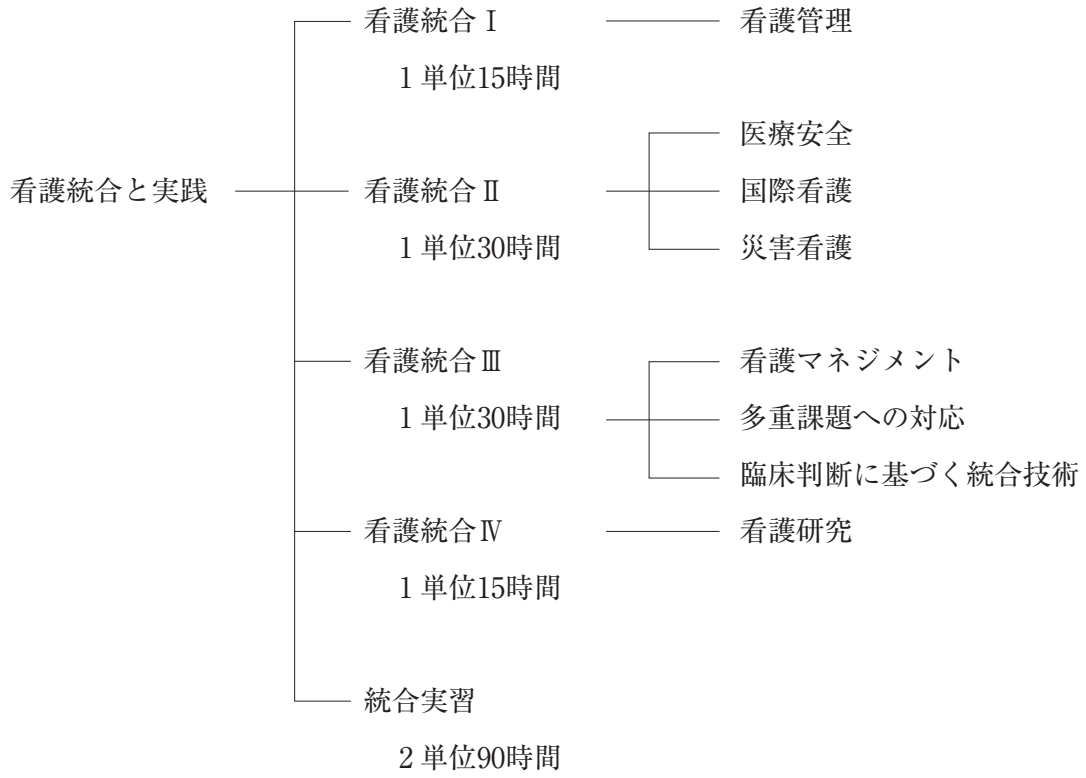
| 評価方法 | プロセスレコード（20点）　看護展開のレポート（80点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本，メディカ出版<br>精神看護学②　精神障害と看護の実践，メディカ出版<br>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践，ヌーベルヒロカワ<br>ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト，ヌーベルヒロカワ |
| 備　考 | |

# 看護の統合と実践

目的　　チーム医療における看護の役割が実践できる基礎的能力と専門職業人として主体的に学ぶ姿勢を養う。

目標
1　チーム医療における他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップを理解する。
2　看護をマネジメントする基礎的能力を身につける。
3　看護における国際協力の必要性を理解する。
4　医療における安全管理に関する基礎的知識と対象の安全を守る方法を習得する。
5　災害時に必要な看護が実践できる基礎的知識を身につける。
6　複合課題を通して、知識・技術・態度を統合するとともに、臨床判断を学び、看護実践能力を養う。
7　看護を究明するために必要な看護研究に関する基礎的知識を身につける。

構成



| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 看護統合Ⅰ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　看護管理に関する基本的知識を習得する。<br>目標　1　看護管理の考え方がわかる。<br>2　看護ケアを提供するためのマネジメントについて学ぶ。<br>3　組織における看護サービスのマネジメントについて学ぶ。<br>4　医療現場における情報管理について理解する。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜看護とマネジメント＞<br>・看護管理の考え方を学ぶ。 | 1）看護管理とは<br>2）看護におけるマネジメントとは | 講義<br>演習<br>（2h） | 専任教員 |
| 2 | ＜看護ケアマネジメント＞<br>・看護ケアを提供するためのマネジメントに必要な知識を学ぶ。 | 1）看護ケアのマネジメントと看護職の機能<br>2）患者の権利と尊重<br>3）チーム医療<br>(1) チーム医療に必要な機能<br>(2) 看護職の責任と役割<br>(3) 他職種との連携・協働<br>4）看護業務の実践<br>(1) 看護業務、看護基準と看護手順<br>(2) 看護チームでのケア提供<br>－看護ケア提供方式 | | |
| 3 | | | | |
| 4 | ＜看護サービスのマネジメント＞<br>・医療現場のマネジメントに関する知識を学ぶ。 | 1）看護サービスマネジメント<br>－組織としての看護サービスマネジメント<br>2）組織目的達成のマネジメント<br>3）看護サービス提供のマネジメント<br>(1) 看護単位の機能と特徴<br>4）人材マネジメント<br>(1) キャリアディベロップメント<br>(2) 人材フローのマネジメント<br>(3) 労働環境<br>5）施設・設備環境のマネジメント<br>6）物品マネジメント<br>7）組織におけるリスクマネジメント<br>8）サービスの評価<br>(1) 医療機能評価 | 講義 | 非常勤<br>講師 |
| 5 | | | | |
| 6 | ＜情報のマネジメント＞<br>・医療現場における情報のマネジメントについて学ぶ。 | 1）情報のマネジメント<br>(1) 情報の種類と管理・活用<br>(2) 情報共有と守秘義務<br>(3) 患者の権利（プライバシーの保護）<br>(4) 情報開示への対応<br>2）医療現場における情報管理<br>：情報処理システム<br>(1) 医療情報管理：電子カルテ<br>・システム導入の背景<br>・看護支援システム：看護情報管理 | | |
| 7 | | | | |
| 8<br>(1h) | 試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
| 参考文献と資料 | 専門分野　看護の統合と実践［1］看護管理，医学書院 |
| 備　考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 看護統合Ⅱ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　医療安全対策の必要性と方法を理解するとともに、災害発生時に支援できる看護の基礎的知識を学ぶ。また国際社会において広い視野に基づき看護を考える力を養う。<br>目標　1　医療安全対策の基本的考え方について学び、医療事故の背景・要因・対策について理解できる。<br>2　災害医療と災害看護活動に対する基礎的知識を学ぶ。<br>3　国際看護活動について学ぶ。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜医療安全の基本的考え方＞<br>・医療安全に関する基本的対策が理解できる。 | 1）医療安全に関する用語の定義<br>2）ヒューマンエラーと対策<br>3）国の医療安全対策<br>4）組織としての医療安全対策 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | ＜種類別にみた医療安全対策＞<br>・インシデントの種類に応じた医療安全対策方法が理解できる。 | 1）看護師が関与した医療事故やヒヤリハット<br>2）危険の種類による医療安全対策<br>3）基本的な医療関連感染対策 | | |
| 3 | | | | |
| 4 | ＜医療安全対策の実際＞<br>・ヒヤリハットの実際を体験し、医療安全対策について学ぶ。 | 1）事例を用いたヒヤリハットの実際<br>2）事例における対応の振り返り | 演習<br>（4 h） | |
| 5 | | | | |
| 6 | ＜災害医療と災害看護の概要と基本＞<br>・災害看護と災害看護に関する基礎的知識を学ぶ。 | 1）災害医療の基礎知識<br>2）災害看護の基礎知識 | 講義 | 非常勤講師 |
| 7 | | | | |
| 8 | ＜災害医療・災害看護の展開＞<br>・災害時の医療・看護活動の実際を学ぶ。 | 1）災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護<br>2）災害者特性に応じた災害看護の展開<br>3）災害とこころのケア<br>4）地震災害看護 | | |
| 9 | | | | |
| 10 | ＜トリアージ訓練＞<br>・災害時のトリアージについて学ぶ。 | 1）トリアージの目的<br>2）カテゴリー<br>3）トリアージの実施場所<br>4）トリアージの実施者<br>5）トリアージの実際：方法、記載 | 演習<br>（4 h） | |
| 11 | | | | |
| 12 | ＜国際看護活動＞<br>・国際看護活動の必要性を理解し、活動の実際について学ぶ。 | 1）国際社会の現状と国際看護活動<br>2）国際看護活動の支援を必要とする対象<br>3）国際看護活動を推進する人と機関<br>4）国際看護活動の展開<br>5）異文化理解と国際看護活動<br>6）国際看護活動の実際 | 講義 | 専任教員 |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | まとめ（1 h）・試験（1 h） | | 筆記試験 | |

| 評価方法 | 筆記試験（100点） |
|---|---|
| 参考文献と資料 | 看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全，メヂカルフレンド社<br>系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践［3］災害看護学・国際看護学，医学書院<br>医療安全ワークブック，医学書院 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 看護統合Ⅲ | 単位数 | 1 | 時期 | 3年次<br>前期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 30 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| 目的 | 臨床現場に対応できる看護実践能力を習得する。 |
| 目標 | 1　実践に即した演習を通して、臨床に対応できる看護業務のマネジメント能力を身につける。<br>2　臨床で遭遇する多重課題に対応するための原則が理解できる。<br>3　臨床判断に基づく安全で確実な看護技術を身につける。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜業務遂行のためのマネジメント＞<br>・臨床現場の業務に対応する方法を学ぶ。 | 1）1日の業務の組み立て<br>⑴　複数患者を受け持つための情報収集・管理<br>⑵　1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3<br>4<br>5 | ＜事例を用いた業務管理の実際＞<br>・患者に必要な援助計画立案と調整ができる。 | 1）1日の業務の組み立ての実際<br>⑴　情報整理<br>⑵　計画修正<br>⑶　タイムスケジュールの作成 | 演習<br>（8h） | |
| 6 | ＜多重課題への対応＞<br>・多重課題への対応の原則を学ぶ。 | 1）多重課題への対応<br>⑴　多重課題の危険性<br>⑵　多重課題発生時の対応の原則 | 講義 | 専任教員 |
| 7<br>8<br>9 | ＜多重課題対応の実際＞<br>・多重課題に対する対応方法の実際を学ぶ。 | 1）多重課題発生時の対応 | 演習<br>（6h） | |
| 10<br>11<br>12<br>13<br>14 | ＜統合技術＞<br>・卒業時の技術到達レベルを踏まえ、臨床判断を必要とする場面を通し、安全な看護を提供するための知識技術を習得する。 | 1）安全な看護技術演習<br>⑴　臨床判断に基づく安全で確実な技術<br>・点滴の技術<br>注射の準備・実施・観察<br>・臨床判断を踏まえた振り返り | 講義<br>演習<br>（6h） | 専任教員 |
| 15 | まとめ（1h）・試験（1h） | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（65点）　レポート（35点） |
| 参考文献と資料 | 看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全，メヂカルフレンド社 |
| 備考 | |

| 分野 | 専門分野 | 授業科目 | 看護統合Ⅳ | 単位数 | 1 | 時期 | 2年次<br>後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 15 | | |

| 目的・目標 | |
|---|---|
| | 目的　看護における研究の意義及びその方法を理解することで、看護における問題意識を高め、学び続ける態度を養う。<br>目標　1　看護における研究の意義が理解できる。<br>2　看護研究の一般的な進め方が理解できる。<br>3　看護研究に関わる倫理的問題が理解できる。 |

| 回数 | 単元 | 教育内容 | 方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ＜研究とは何か＞<br>・看護における研究の意義がわかる。 | 1）研究とは<br>2）看護研究の意義・進め方 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3 | ＜研究テーマと文献検索＞<br>・研究テーマの決め方と文献検索の方法がわかる。 | 1）研究テーマの決め方<br>2）文献検索について | | |
| 4<br>5 | ＜文献検索の実際と研究テーマの絞込み＞<br>・文献検索の方法を理解する。<br>・研究テーマが決定できる。 | 1）文献検索の実際<br>PCより医学中央雑誌(医中誌)にて体験する<br>2）研究テーマの決定 | 演習 | |
| 6<br>7<br>(1h) | ＜看護研究の進め方＞<br>・看護研究の進め方が分かる。<br>・看護研究に関わる倫理的問題が理解できる。<br>・研究計画書の作成が出来る。 | 1）研究方法<br>2）研究における倫理<br>3）研究計画書<br>作成 | 講義<br>演習 | |
| 8 | まとめ(1h)・試験(1h) | | 筆記試験 | |

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 筆記試験（50点）　レポート（50点） |
| 参考文献と資料 | 基本がわかる　看護研究ビギナーズNOTE |
| 備考 | |

大垣市医師会看護専門学校

〒503-0806　　大垣市緑園129番地
TEL　（教務）０５８４－７５－３０８２
　　（事務）０５８４－７５－３０８１

令和７年4月　作成